

VDI-in-a-Box 5.4

Nov 06, 2015

VDI-in-a-Boxについて

VDI-in-a-Boxの概要

このリリースについて

解決された問題

既知の問題

サーバーの要件

ユーザーデバイスの要件

オプションのコンポーネント

導入

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出する

グリッドを作成して構成する

最初のWindowsイメージを作成する

公開イメージから最初のテンプレートを作成する

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

ユーザーとしての接続のテスト

VDI-in-a-Boxのライセンス

VDI-in-a-Boxの管理

イメージの管理

Desktop Agentの手作業によるインストール

テンプレートの管理

デスクトップの管理

パーソナルデスクトップの管理

パーソナルデスクトップのバックアップと復元

MACアドレスのプールからデスクトップを生成する

ユーザーセッションの管理

VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン

サーバーの管理

グリッドの管理

Active Directory環境でのVDI-in-a-Boxの使用

VDI-in-a-Boxキオスクの構成

ユーザーデバイスをキオスクとして構成する

汎用ユーザーアカウントの構成

共有ユーザーアカウントの構成

SSL証明書の管理

ログの収集

オプションコンポーネントの管理

Citrix NetScaler Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成

Microsoft Remote Desktop Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成

印刷の管理

Profile managementの構成

VDI-in-a-BoxでStoreFrontを使用する

VDI-in-a-BoxでのCitrix AppControllerの使用

Microsoft Lyncによる通話を最適化する

Citrix Desktop Lockの管理

スマートカード認証の構成

アンチウイルスソフトウェアの管理

HDX機能および拡張機能の使用

ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindows、Mac、およびLinuxデバイスの構成

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのAndroidデバイスの構成

シンクライアントからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスする

VDI-in-a-Boxについて

Nov 06, 2015

Citrix VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxには、接続ブローカー、負荷分散機能、ユーザーマネージャー、およびデスクトップProvisioning Servicesサーバーが組み込まれています。共有ストレージや高速の相互接続、複数の管理サーバーを別個に用意する必要はありません。このアプライアンスはCitrix XenServer、Microsoft Hyper-V、VMware ESXiなどのハイパーバイザーを実行するコモディティサーバー上で実行され、管理者は単一のコンソールでこれを管理できます。

Citrix Receiverは、VDI-in-a-Boxデスクトップのユーザーに安全な接続を提供し、高品位なパーソナライズユーザーエクスペリエンスを実現します。Citrix HDXテクノロジーを装備したVDI-in-a-Boxにより、Flashマルチメディアやアプリケーション、3Dグラフィック、Webカメラ、オーディオ、および支社への配信などにおける高品位なユーザーエクスペリエンスを提供できます。デスクトップはリモートサーバー上で実行されますが、ユーザーはこのデスクトップを、ローカルのWindowsデスクトップと同じように操作できます。ユーザーにはプールされたデスクトップとパーソナルデスクトップが提供され、ユーザーが独自にアプリケーションをインストールしたりプロファイルデータを保存したりできます。ユーザーは、ローカルデスクトップにログオンする場合と同じ操作で仮想デスクトップにログオンできます。

このセクションでは、VDI-in-a-Boxを使用する前に理解しておくべき一般情報について説明します。

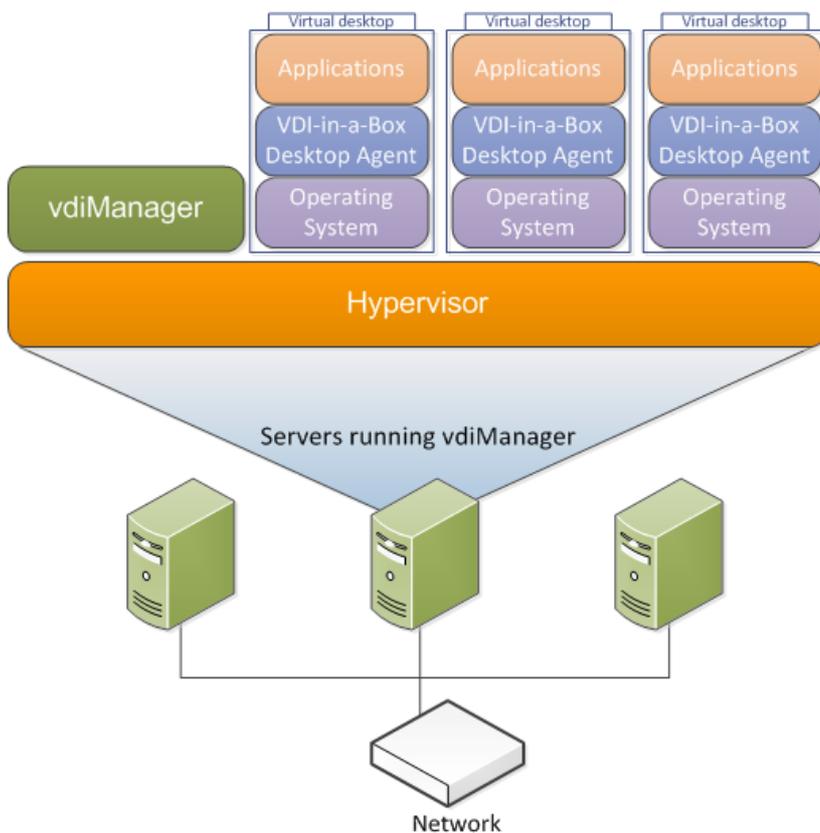
- VDI-in-a-Boxの概要、概念、および用語については、「[VDI-in-a-Boxの概要](#)」を参照してください。
- このリリースでの新機能については、「[このリリースについて](#)」を参照してください。
- このリリースでの既知の問題については、「[既知の問題](#)」を参照してください。
- このリリースのサーバーおよびユーザーデバイスのシステム要件については、「[サーバーの要件](#)」および「[ユーザーデバイスの要件](#)」を参照してください。
- このリリースと共に使用できるNetScaler GatewayやProfile managementなどのオプションのコンポーネントの概要については、「[オプションのコンポーネント](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Boxの概要

Sep 17, 2015

Citrix VDI-in-a-Boxは、仮想デスクトップの作成、プロビジョニング、管理、負荷分散に必要なすべての機能を単体で提供する仮想アプライアンスです。VDI-in-a-Boxアプライアンスは**VDI-in-a-Box Controller**または**vdiManager**と呼ばれ、ハイパーバイザー上の仮想マシンとして実行されます。vdiManagerはローカルのハイパーバイザーと通信することで、ローカル物理サーバー上に仮想デスクトップを作成し、管理します。

次の図は、典型的なVDI-in-a-Box展開環境を示しています。



各vdiManagerは、単一の物理サーバーとして実行したり、VDI-in-a-Boxグリッドと呼ばれる物理サーバーのグループの一部として実行したりできます。グリッド内の各vdiManagerは、次の機能を実行します。

- テンプレートからの仮想デスクトップの作成。テンプレートは、次の項目から構成されます。
 - Windowsオペレーティングシステム、一連のアプリケーション、および**VDI-in-a-Box Desktop Agent**がインストールされたイメージ。VDI-in-a-Box Desktop Agentは、ユーザー接続とデスクトップのヘルス状態についてvdiManagerと通信します。複数のテンプレートで同じイメージを使用できます。
 - ポリシー：作成するデスクトップの数、それらのデスクトップに割り当てる仮想CPUの数やRAMの量、仮想デスクトップからローカルUSB周辺機器へのアクセスの可否、およびデスクトップ更新ポリシーなどの特性を指定します。1つのグリッドには、複数のテンプレートおよびイメージを追加できます。

仮想デスクトップへのアクセスを提供するには、個々のユーザー、ユーザーグループ、またはIPアドレスの範囲に、デス

トップの作成元となるテンプレートを割り当てます。このため、特定のユーザーアカウントやユーザーの接続場所に基づいてデスクトップを割り当てることができます。また、特定のテンプレートをグリッドのデフォルトテンプレートとして指定できます。これにより、テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンしたときに、そのテンプレートに基づいたデスクトップが提供されるようになります。

- グリッド間での負荷分散。vdiManagerは、各サーバーで現在実行されているデスクトップの数と、各サーバー上のコンピューティングリソース（メモリおよびCPUコア）の使用状況に基づいて、vdiManagerを実行しているサーバー全体でデスクトップ作成を均一に配分します。ユーザーがログオンすると、vdiManagerは負荷が軽いサーバーでデスクトップのプロビジョニングを行います。
- 高可用性の提供。物理サーバー上のvdiManagerインスタンスは互いに通信を行って、運用および構成に関する主要な情報を共有します。

たとえば、VDI-in-a-Boxのテンプレートとイメージは複数のサーバーに格納されるので、1台の物理サーバーに障害が発生しても失われることはありません。物理サーバーに障害が発生しても、グリッド内の残りのサーバー上の情報を使用して追加デスクトップを作成し、障害の発生したサーバー上のデスクトップを置き換えることができます。障害の発生したサーバーが修復されグリッドに再度追加されると、運用と構成に関する主要な情報がそのサーバーに送られ、デスクトップのプロビジョニングが再開されます。

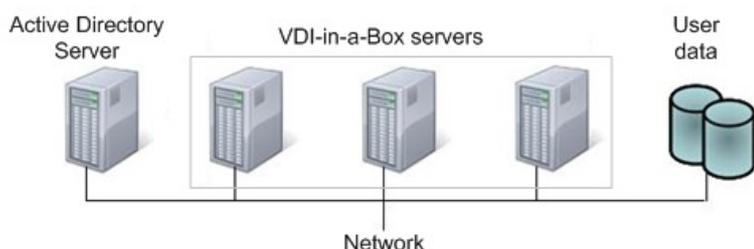
グリッドには、通常の負荷処理に必要なサーバー数に加えて、それらのサーバーの1つに障害が発生した場合に備えて1台分にサーバーを追加しておくことをお勧めします。これにより、1台のサーバーに障害が発生しても、そのグリッドのパフォーマンスが低下しなくなります。

- 接続の仲介。これにより、ユーザーがグリッド内の任意のサーバーにログオンできるようになります。
- WebベースのインターフェイスであるVDI-in-a-Boxコンソールの提供。このコンソールを使用して、vdiManagerを実行しているサーバー、デスクトップ、テンプレート、イメージ、ユーザー、およびグリッドの構成と管理を、すべてグリッドレベルで行います。VDI-in-a-Boxコンソールでは、グリッドが、vdiManagerを実行している単一の論理サーバーとして表示されます。必要に応じて、各サーバーの状態と動作を個別に表示することも可能です。1台のサーバーでvdiManagerを更新すると、vdiManagerがその変更内容をグリッド内のすべてのサーバーに配布します。

VDI-in-a-Boxは、共有ストレージを構成しなくても動作するように設計されています。各サーバーから直接アクセスできるストレージデバイスがあれば、VDI-in-a-Box環境を構築できます。ただし、一部のプラットフォームでは共有ストレージも使用できます。詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX137401>を参照してください。

VDI-in-a-Boxは、Active Directoryまたはワークグループ環境で使用できます。

VDI-in-a-Boxでは、認証にはActive Directoryが使用され、ユーザーデータの保持には簡易ネットワークファイルシステムが使用されます。



Windowsドメイン環境では、ユーザーの承認と認証を提供するためにActive Directoryサービスが必要になります。

Active Directoryは、「移動プロファイル」を提供するためにも使用できます。これにより、ユーザーのアプリケーション構成とマイドキュメントフォルダーをデスクトップ以外の集中管理用の場所に格納することができます。この手法により、ユーザーがログオンするたびに、カスタマイズされたデスクトップが表示されます。移動プロファイルの使用はオプションですが、この機能を使用すると、物理デスクトップに近いユーザーエクスペリエンスを仮想デスクトップで提供できるようになります。サードパーティ製のプロファイル管理ツールは、そのエージェントを各VDI-in-a-Boxイメージ上にインストールしておくだけで簡単に使用可能になります。プロファイルのサイズが大きい場合は、プロファイル管理ツールでログオン時のネットワーク負荷を軽減させるための機能やフォルダーのリダイレクト機能などを使用してください。

vdiManagerを実行している各サーバーには、高可用性システムが必要とする、イメージ、テンプレート、および構成情報を保持するために十分なローカルストレージが必要です。VDI-in-a-Boxでは、仮想デスクトップ上に格納されるユーザーデータはバックアップされません。一般的な使用方法としては、テンプレートからデスクトップを動的に作成して、更新ポリシーに基づいてデスクトップを破棄します。簡易ネットワークファイルシステムは、デスクトップの外部にユーザーデータを保持するためには十分です。

ワークグループ環境では、ユーザー認証用のデータベースがVDI-in-a-Boxにより保持されます。

このリリースについて

Nov 06, 2015

VDI-in-a-Box 5.4では、Windows 8.1の仮想デスクトップおよびWindows Server 2012 R2のHyper-Vがサポートされます。また、VDI-in-a-Boxの柔軟性を強化する多くの機能拡張と、管理者向けのさまざまなツールが含まれています。

解決された問題

既知の問題

Windows 8.1の仮想デスクトップを作成して、サポートされている任意のハイパーバイザー上で実行できます。

Windows Server 2012 R2のHyper Vがサポートされました。また、HDX接続でWindows Server 2012 R2のデスクトップを使用することもできます。Windows Server 2012 R2とWindows Server 2012のHyper Vで構成されるグリッドでは、共有ストレージを使用できます。

VMware vSphere ESXi 5.5のハイパーバイザーがサポートされました。

デバイス上でHTML5互換のWebブラウザーを使用できる場合は、StoreFrontを使用せずにVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできます。これにより、サーバーコンポーネントの構成を変更しなくても、ChromebookなどのHTML5デバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようになります。

ユーザーデータベースとしてActive Directoryを使用する環境では、VDI-in-a-Boxデスクトップのコンピューターオブジェクトを複数のドメインに配置できます。ユーザーを異なるドメインで管理できるため、社内の規則や法令の順守が容易になります。詳しくは、「[Active Directory環境でのVDI-in-a-Boxの使用](#)」を参照してください。

ドメイン不参加のWindowsデバイスのユーザーは、StoreFrontからスマートカードを使用してデスクトップにログオンできます。

単一のSSL証明書で複数のホスト名を指定できます。これにより、ワイルドカード証明書を使用する場合よりもコストを削減できます。この機能を使用して、証明書の一般名にグリッドのIP FQDNを指定して、サブジェクトの別名として個々のvdiManageのFQDNを追加できます。詳しくは、「[SSL証明書の管理](#)」を参照してください。

Manage SSL Certificateウィザードを使用して、既存のSSL証明書をインストールすることができます。詳しくは、「[SSL証明書の管理](#)」を参照してください。

教室やラボ環境などで1つのユーザー名を複数のユーザーで共有してデバイスを時分割を使用する場合、従来のVDI-in-a-Boxリリースではグリッドを汎用ユーザーモードに設定していました。このリリースでは、個々のテンプレートの1つのチェックボックスをオフにするだけで、共有ユーザーアカウントと通常のユーザーアカウントを同じVDI-in-a-Boxグリッドで使用できるようになります。詳しくは、「[共有ユーザーアカウントの構成](#)」を参照してください。

このリリースでは、デスクトップにログオン済みのユーザーのユーザー名検証を避ける目的でのみ汎用ユーザーモードを使用します。詳しくは、「[汎用ユーザーアカウントの構成](#)」を参照してください。

既存のイメージに別の名前を付けて保存できるようになりました。これにより、簡単にバックアップを作成したり異なる設定のイメージをテストしたりできます。

プールされるデスクトップの新しいバージョンのイメージをテストする場合、既存のイメージの設定を変更してから別の名前前で保存して、このイメージを既存のテンプレートで指定します。イメージのテストが終了したら、必要に応じてそのイメージを継続使用したり、さらに設定を変更してテストを続行したり、以前のバージョンに戻したりできます。

詳しくは、「[イメージの管理](#)」を参照してください。

プールされるデスクトップの既存のテンプレートを編集して、ほかのイメージに関連付けることができます。ただし、そのテンプレートのプロパティや既存のデスクトップと新しいイメージが正しく対応している必要があります。この機能を使用して、前述のように、イメージの新しいバージョンを簡単にテストできます。詳しくは、「[テンプレートの管理](#)」を参照してください。

管理者は、vdiManager管理コンソールからWindowsリモートアシスタンスを起動して、ユーザーのセッションをシャドウできます。詳しくは、「[ユーザーセッションの管理](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Box展開環境全体をXenDesktopに移行する場合は、ウィザードの手順に従ってイメージのエクスポートおよびPowerShellスクリプトの生成を行います。生成されたスクリプトを実行すると、すべてのテンプレート構成とユーザー割り当てをXenDesktop展開環境に移行できます。詳しくは、「[XenDesktopへの移行](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Box 5.4で解決された問題

Nov 06, 2015

VDI-in-a-Box 5.4.6との比較

VDI-in-a-Box 5.4.7には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- セッションに再接続すると、予期せず複数のセッションが割り当てられることがあります。デスクトップヘルスチェックがタイムアウト値以内に応答に失敗すると、この問題が発生します。

[#0588070]

- この修正は、VDI-in-a-Boxの内部通信コンポーネントを更新します。

[#0573435]

VDI-in-a-Box 5.4.5との比較

VDI-in-a-Box 5.4には、VDI-in-a-Box 7に含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しいセキュリティとそのほかの修正が含まれています。

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX200355](#)を参照してください。

[#0534163]

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX200491](#)を参照してください。

[#542444]

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX200391](#)を参照してください。

[#542442]

- アプリケーションのリブート後、グリッドIPは単一のサーバーグリッドに残りません。

[#0491855]

- Chromeを更新すると、VDI-in-a-Box 5.4.xのHTML5クライアントに影響があります。

[#0544407]

- Active DirectoryユーザーアカウントへのVDI-in-a-Box Webコンソールログインにより、ロックアウトしきい値を満たす前にアカウントがロックされます。

[#0546782]

- VDI-in-a-Box Managerは、ESXにネットワークラベルを表示できないことがあります。

[#0546783]

- NetScaler Gatewayからユーザーがログオンしてグリッドが汎用モードの場合は、複数のユーザーセッションが作成されます。

[#0563112]

VDI-in-a-Box 5.4.4との比較

VDI-in-a-Box 5.4.5には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX200217](#)を参照してください。

[#506018]

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX200238](#)を参照してください。

[#511619]

VDI-in-a-Box 5.4.3との比較

VDI-in-a-Box 5.4.4には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX140605](#)を参照してください。

[#467879]

- この修正により、セキュリティ上の脆弱性に関する問題が解決されます。詳しくは、Knowledge Centerの[CTX140876](#)を参照してください。

[#482393]

- デスクトップのインスタンスIDがわかるユーザーまたは管理者はだれでも、そのデスクトップにアクセスできます。

[#467866]

- インスタンスを並べ替えると、ログオンエラーの原因となる例外が断続的にスローされます。

[#467878]

- 破損したイメージのパーセルファイルにより、デスクトップの手動更新が削除されます。

[#467876]

VDI-in-a-Box 5.4.2との比較

VDI-in-a-Box 5.4.3には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- 「On Hold」の状態のデスクトップを、名前を付けられたユーザーとして登録されるのではなく、ユーザーグループのメンバーであるユーザーに再割り当てできません。

[#450965]

- SSL証明書はVDI-in-a-Box 5.3からVDI-in-a-Box 5.4.xに移行しません。

[#439269]

- 午前に更新されるようスケジュールされたテンプレートをベースとするデスクトップは、正午に更新されます。

[#453103]

VDI-in-a-Box 5.4との比較

VDI-in-a-Box 5.4.2には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- Advanced Propertyの [Check if Citrix Receiver is installed on client] が無効の場合、管理コンソールはRDP接続のみを提供します。

[#437811]

- NetScaler Gatewayを介するデスクトップ接続が10秒を超過して中断される場合、セッション画面の保持は機能しません。

[#430565]

- イメージをVMXNet 3 NICで保存した後、個人用デスクトップを作成できません。

[#432970]

- Internet Explorerが互換モードの場合は、管理コンソールは機能しません。

[#430759]

- テンプレートを作成する場合、 [Delete computer name from AD] オプションを選択できません。

[#430015]

- Windows 8.1のデスクトップではスマートカード認証に失敗します。

[#424941]

VDI-in-a-Box 5.3.6との比較

VDI-in-a-Box 5.4には、以前のVDI-in-a-Boxに含まれていたすべての修正に加えて、以下の新しい修正が含まれています。

- StoreFront 2.0を使用する場合、スマートカードによる認証がサポートされません。

[#398290]

バージョン5.4よりも前のVDI-in-a-Boxの解決された問題については、 [「VDI-in-a-Box 5.x - Issues Fixed in This Release」](#) を参

照してください。

既知の問題

Sep 17, 2015

ここでは、以下の内容について説明します。

- 一般的な問題
- サードパーティの問題
- グローバリゼーションに関する問題

このバージョンのVDI-in-a-Boxで解決された問題については、<http://support.citrix.com/article/CTX134622>を参照してください。

- COMポートのマッピング機能は機能しません。この問題を解決するには、Citrix社のサポート部門から該当するHotfixを入手してください。[432105]
- HTML5 ReceiverでワークグループモードのWindowsデスクトップに繰り返し接続すると、デスクトップにアクセスできなくなることがあります。この問題は、Active Directoryモードでは発生しません。この問題を避けるには、このシナリオで使用する場合は、デスクトップの使用後にログオフするようにユーザーに依頼し、リフレッシュポリシーを [On logout] に設定して使用済みのデスクトップを破棄してください。[424882]
- 対応するハードディスクがない古いIDEレジストリエントリがある仮想マシンをインポートしてイメージとして保存すると、そのイメージからプロビジョニングされたパーソナルデスクトップはPersonal vDiskの初回更新時に破損する可能性があります。この問題を避けるには、ISOから作成した新しい仮想マシンをインポートしてください。[414012]
- StoreFront 2.0経由でReceiver for HTML5を使用して起動すると、セッションが失敗します。この問題を避けるには、StoreFront 2.1を使用してください。[425916]
- CitrixライセンスをVDI-in-a-Boxにアップロードした後で、そのライセンスが [About VDI-in-a-Box] ダイアログボックスに表示されない場合があります。この問題が発生した場合は、ライセンスをアップロードしたVDI-in-a-Boxマネージャーを再起動してください。VDI-in-a-Boxマネージャーが起動したら再接続し、[About] をクリックしてライセンス情報を確認してください。[300849]
- MAK (Multiple Activation Key : マルチライセンス認証キー) ライセンスを使用するパーソナルデスクトップでは、更新時またはリセット時に新しいライセンスが消費されます。[317240]
- ワークグループに属している基本イメージからドラフトイメージを作成する場合、ドメイン用の [ファイルとプリンター(共有)] のファイアウォール例外規則が作成されません。例外規則を作成するには、コントロールパネルの [システムとセキュリティ] > [Windowsファイアウォール] > [許可されたプログラム] で [ドメイン] 列の [ファイルとプリンターの共有] チェックボックスをオンにしてください。[325619]
- 複数のデュアルデータストアを使用する機能を有効にした後で無効にする場合、プライマリ以外のデータストアが自動的に削除されたりブロックされたりすることはありません。無効にした後でもすべてのデータストアがそのまま残ります。使わないデータストアを削除するには、VDI-in-a-Boxマネージャーの [Servers] タブで、対象のサーバーをクリックします。[Server Properties] ダイアログボックスで [Configure] をクリックし、[Select datastores] セクションのすべてのボックスで同じデータストアを指定します。[310168]
- VMware ESX/ESXiハイパーバイザー上のWindows 7を使用する場合、そのVDI-in-a-BoxデスクトップへのHDX接続に失敗することがあります。この問題は、VDI-in-a-Box Desktop Agentをインストールした後でVMware Toolsをアップデートすると発生します。この問題を解決するには、VMware Toolsのインストールにより追加されるディスプレイアダプターVMware SVGA 3Dを無効にしてください。[318109]
- Internet Explorerでは、ダイアログボックスの表示がちらつくことがあります。この問題を解決するには、Internet Explorerのキャッシュを更新してからページを再ロードしてください。[347445]
- Windows Server 2008の静的デスクトップのイメージに新しいDesktop Agentをインストールすると、エラーメッセージ

(エラー1953)が表示されます。このメッセージは、アクティブなダイアログボックスの背後に開く場合があるため注意が必要です。このメッセージが表示された場合は、[OK]をクリックしてください。これにより再インストールが試行され、Desktop Agentが正しくインストールされます。[398287]

- [389842] この問題については、「[Profile managementの構成](#)」を参照してください。
- XenServerにHotfixをインストールした後で、同一イメージからプロビジョニングされたすべてのデスクトップインスタンスが起動に失敗したり、そのイメージを編集できなくなったりすることがあります。この問題は、公開イメージ (XenServerテンプレート) やそのイメージからプロビジョニングされた仮想マシンで古いバージョンのXenServer Tools DVDがマウントされていると発生します。この問題を解決するには、XenServerテンプレート (VDI-in-a-Box公開イメージ) や仮想マシンからそのDVDをイジェクトしてください。これを行うには、XenCenterを使用してXenServerテンプレートや仮想マシンの [ストレージ] タブを開き、[DVDドライブ1] の [イジェクト] をクリックします。
- 英語版以外のWindows Server 2012は、仮想マシンに.NET Framework 3.5.1が未インストールの場合はデスクトップイメージとしてインポートできません。Windows Server 2012 R2のデスクトップにはこの前提条件がありません。[428061]
- VDI-in-a-Boxは、ESXi項目に使用された非ASCII文字をサポートしません。[318690]
- VDI-in-a-Boxは、ハイパーバイザー項目 (仮想マシン名やネットワークアダプター名など) に使用されたサロゲートペア文字をサポートしません。[318681]
- Hyper-V ServerのファイアウォールによりSMBポート (ファイルとプリンターの共有) がブロックされる場合、VDI-in-a-Box 5.1.x、5.2.x、または5.3から5.4に移行した簡体字中国語版、繁体字中国語版、および韓国語版Windows Server 2008 R2の環境が「Broken」として表示されます。この問題を解決するには、Hyper-Vコネクタをアンインストールして、VDI-in-a-Box 5.4に付属のHyper-Vコネクタを手作業でインストールしてください。[327239]
- RDPセッションでのログオン画面で、非ASCII文字を含んでいるユーザー名が正しく表示されない場合があります。[321966]
- VDI-in-a-Boxは、[コマンドプロンプト] ウィンドウから起動したVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントで使用されたユーザー名の非ASCII文字をサポートしません。この問題を避けるには、Webブラウザの [アドレス] ボックスに `https://<IPaddress>/dt/vdiclient.jnlp` と入力してJavaデスクトップクライアントを起動してください。[297880]

サーバーの要件

Sep 17, 2015

このトピックでは、VDI-in-a-Boxを実行するサーバーに必要なソフトウェアについて説明します。また、サーバーのサイズ詳細に関する情報についても説明します。

VDI-in-a-Boxには、独自のクラスター機能が実装されています。このため、ハイパーバイザー側のクラスター機能やプール機能を使用しないことをお勧めします。

Citrix XenServer

- Citrix XenServer 6.2 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版
- Citrix XenServer 6.1 Platinum、Enterprise、Advanced、および無償版

注：XenServerリソースプール内のサーバーは、VDI-in-a-Boxではサポートされません。

サーバー上のディスク使用を最適化するために、XenServerシンプロビジョニング機能を使用することをお勧めします。

Microsoft Hyper-V

- Microsoft Hyper-V Server 2012 R2
- Microsoft Hyper-V Server 2012

Microsoft Hyper-V Server 2012またはMicrosoft Hyper-V Server 2012 R2でインターネットに接続されていない場合は、.NET Framework 3.5を手作業でインストールしてからCitrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタをインストールしてください。コマンドプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
DISM /Online /Enable-Feature /FeatureName:NetFx3 /All /LimitAccess /Source:<hyper_v_iso_location>\sources\sxs
```

ここで、<hyper_v_iso_location>にHyper-Vインストールメディアの場所を指定します。

- Microsoft Hyper-V Server 2008 R2 Service Pack 1
- Hyper-Vの役割を有効にしたMicrosoft Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 Enterprise Edition
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - Active Directoryをサポート
- Hyper-Vの役割を有効にしたWindows Server 2008 R2 Service Pack 1 Server Core
 - DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) サーバーをサポート
 - Active Directoryをサポート

注：Windows Server 2008 R2 Service Pack 1, Standard EditionでのHyper-Vは、VDI-in-a-Boxでサポートされません。

Microsoft Hyper-V上のVDI-in-a-Box環境でインターネットインフォメーションサービス (IIS : Internet Information Services) を使用することは推奨されません。IISを使用する場合は、インターネットインフォメーションマネージャーでIIS SSLバインドを追加する必要があります。方法について詳しくは、Microsoft社のドキュメントを参照してください。ポート 9875上のVDI-in-a-Box SSLバインドはそのまま、(ポート443上のものを含む)ほかのバインドを手動で復元する必要があります。

VMware ESXiまたはVMware vSphere

- VMware Essentialsまたはそれ以上のライセンス

注：Citrix VDI-in-a-Boxを評価するためにVMware社のWebサイトからESXiの無償版をダウンロードした場合は、そのバージョンに付属するライセンスキーをインストールしないでください。このライセンスキーをインストールすると、Citrix VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと連動するために必要なAPIが使用不能になり、セットアッププロセスが終了してしまいます。ライセンスの選択を、[Evaluation Mode (No License Key)] のままにしておき、試用期間中に有償のハイパーバイザーライセンスに変更してください。

- VMware ESXi 5.5
- VMware ESXi 5.1 Update 2

仮想デスクトップオペレーティングシステム

- Windows 8.1 EnterpriseまたはPro Edition 32ビットまたは64ビット版
- Windows 8 EnterpriseまたはPro Edition 32ビットまたは64ビット版
- Windows 7 Service Pack 1 ProfessionalまたはEnterprise Edition 32ビットまたは64ビット版
Windows 7 Nはサポートされません。
- Windows XP Service Pack 3 Professional Edition 32ビット版
- Windows Server 2012 R2 Full Standard Edition 64ビット版
- Windows Server 2008 R2 Service Pack 1 Enterprise Edition 64ビット版

仮想デスクトップにアクセスするには、Windows Virtual Desktop Accessのボリュームライセンスが必要です。Windowsオペレーティングシステムの製品版ライセンス（Windows 8.1 Enterpriseの評価版など）はサポートされません。このライセンスについて詳しくは、<http://www.microsoft.com/licensing/software-assurance/windows-virtualization.aspx>を参照してください。

vdiManager管理コンソールへのアクセスに使用するWebブラウザ

VDI-in-a-Boxマネージャー（vdiManager）の管理コンソールにアクセスするには、以下のいずれかのWebブラウザを使用してください。

- Windows Internet Explorer 8、9、または10
- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Safari

Citrixでは、サーバーのシステムリソースを決定するためのツールを、以下のURLで公開しています。これらのツールを使用して、VDI-in-a-Box環境に必要なサーバーのハードウェア構成を評価することをお勧めします。

- パートナー向け：<http://www.citrix.com/skb>で [VDI-in-a-Box]、[Citrix VDI-in-a-Box 5.4 Server Sizing Tool] の順にクリックします。
- 一般カスタマー向け：<http://www.citrix.com/English/ps2/products/feature.asp?contentID=2316439>で [VDI-in-a-Box 5.4 Server Sizing Calculator] をクリックします。

vdiManagerとプロビジョニングされるすべてのデスクトップは同一ネットワークに属している必要があります。

Hyper-V環境でサポートされる仮想スイッチは1つのみです。only a single virtual switch is supported異なるサブネット上に複数の仮想スイッチが構成されている場合、アクティブな最初のスイッチが使用されます。

ユーザーデバイスの要件

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップには、Webブラウザ、Citrix Receiver、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントからアクセスすることができます。

- **必須**：VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスするには、ユーザーデバイス上にCitrix Receiverをインストールする必要があります。これは<http://receiver.citrix.com>からダウンロードできます。Windows、iPhone、iPad、Android、Mac、Blackberry、Linuxなど、さまざまなデバイスに対応したCitrix Receiverが用意されています。

注：WindowsユーザーデバイスからVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスする場合は、Receiver for Windows 4.xを使用することをお勧めします。

- オプション：Windows、Mac、またはLinuxが動作するユーザーデバイスでVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用するには、Java Runtime Environment (JRE) をインストールする必要があります。JREは、<http://www.java.com>からダウンロードできます。
- Desktop Lockを使用するには、ユーザーデバイス上でWindows XPまたはWindows 7が動作しており、Receiver Enterprise Editionがインストールされている必要があります。

VDI-in-a-Boxでプロビジョニングされたデスクトップにアクセスするには、ユーザーが以下のいずれかのWebブラウザを使用する必要があります。

- Internet Explorer 8、9、または10
- Google Chrome
- Mozilla Firefox
- Safari
- Opera

また、HDX ReadyまたはHDX Ready Premiumと認定されているさまざまなシンクライアントデバイスからデスクトップにアクセスすることもできます。マルチメディアおよび統合コミュニケーションアプリケーションを実行する場合は、HDX Ready Premiumのシンクライアントをお勧めします。HDX Readyプログラムについて詳しくは、<http://www.citrix.com/cms/idc/hdx-ready-program>を参照してください。使用可能なHDX ReadyおよびHDX Ready Premiumのシンクライアントの一覧については、<http://www.citrix.com/ready/>でシンクライアントのカテゴリを検索してください。

VDI-in-a-BoxにはHTML5 Receiverクライアントのサポートが組み込まれています。Citrix Receiverをインストールしなくても、HTML5対応のWebブラウザが動作するデバイス（Chromebookなど）からVDI-in-a-Boxのデスクトップに接続できます。StoreFront 2.1を経由して接続することもできます。

注：Windows XPのデスクトップはサポートされません。

ユーザーデータベースとしてActive Directoryを使用する場合は、Citrixグループポリシーオブジェクトを作成して「WebSockets接続」を許可し、そのグループポリシーオブジェクトをデスクトップの基本イメージが存在するOUにリンクします。

VDI-in-a-Boxをワークグループモードで使用する場合は、デスクトップの基本イメージに以下の設定を追加する必要があります。

[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\ICAPolicies] "AcceptWebSocketsConnections"=dword:00000001 "WebSocketsPort"=hex(0): "WSTrustedOriginServerList"=hex(0): ChromebookではHTML5 ReceiverがデフォルトのReceiverです。ただし、ほかのデバイスでインストール済みのReceiverではなくHTML5 Receiverを使用するには、以下のHTML5 ReceiverのURLを使用します。

`http(s)://<vdiMgrIP-or-hostname>/html5`

通常のURLは以下のとおりです。

`http(s)://<vdiMgrIP-or-hostname>`

Receiver for WebでStoreFront 2.1を経由して接続することもできます。

オプションのコンポーネント

Sep 17, 2015

このトピックでは、VDI-in-a-Boxの機能を拡張するために必要に応じて使用できるコンポーネントや製品について説明します。

- **リモートアクセスの保護。** VDI-in-a-Box環境でNetScaler Gatewayやリモートデスクトップゲートウェイを使用して、リモートアクセスを保護できます。
ユーザーデバイスから仮想デスクトップへのリモート接続を保護するには、以下の製品バージョンを使用できます。
 - Citrix Access Gateway VPX 5.0.x
 - Citrix NetScaler Gateway 10.1
 - リモートデスクトップゲートウェイとリモートデスクトップ接続ソフトウェア6.1、7.x、または8.x詳しくは、「[Citrix NetScaler Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成](#)」および「[Microsoft Remote Desktop Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成](#)」を参照してください。
- **Profile management。** VDI-in-a-Box環境でCitrix Profile managementを使用して、ユーザーデータを仮想デスクトップとは個別に格納することをお勧めします。これにより、デスクトップをリフレッシュしてもユーザーデータが保持されるようになります。Profile managementは、VDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。詳しくは、「[Profile managementの構成](#)」を参照してください。
- **Citrix StoreFront。** StoreFrontを使用すると、既存のCitrix展開環境からセルフサービス型の統合ストアフロントをユーザーに提供して、Windowsアプリケーションや仮想デスクトップをあらゆるデバイスに配信することができます。VDI-in-a-Boxは、StoreFront 2.xおよび1.2をサポートしています。ただし、Version 2.xを使用することをお勧めします。
詳しくは、「[VDI-in-a-BoxでStoreFrontを使用する](#)」を参照してください。
- **Citrix XenMobile (EnterpriseまたはAppエディション)。** Citrix App Controllerを使用すると、仮想デスクトップ、モバイルアプリ、SaaSアプリケーション、およびデータなどのすべての業務リソースに一拠点からアクセスできるようになります。詳しくは、「[VDI-in-a-BoxでのCitrix AppControllerの使用](#)」を参照してください。
VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスするには、App Controller 2.8を使用する必要があります。
- **Citrix HDX RealTime Optimization Pack for Microsoft Lync。** VDI-in-a-Box環境のMicrosoft Lyncによる、リアルタイムオーディオ/ビデオ会議機能、およびUSBまたはVoIP電話機能をサポートするスケーラブルなソリューションが提供されます。このOptimization Packは、VDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。
ただし、Citrix Desktop Lockを使用する場合はこのOptimization Packを使用できません。これは、これらのコンポーネントで必要になるReceiverのバージョンが異なるためです。
詳しくは、「[Microsoft Lyncによる通話を最適化する](#)」を参照してください。
- **HDX Optimization Pack for Google Earth :** このOptimization Packを使用すると、Google Earthアプリケーションにより生成されるイメージの品質が向上します。詳しくは、「[HDX Optimization Pack for Google Earth](#)」を参照してください。
- **Citrix Desktop Lock。** Desktop Lockによりローカルのオペレーティングシステムにアクセスできなくなるため、既存のユーザーデバイスをシンクライアントデバイスのように使用できます。これにより、シンクライアントデバイスを新規購しなくても、既存のマシンを活用できます。Desktop Lockは、VDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。
Desktop Lockを使用するには、Citrix Receiver 3.4 Enterprise Editionが必要です。このため、より新しいバージョンのReceiverが必要な製品や機能 (Citrix HDX RealTime Optimization Pack for Microsoft Lyncなど) は、Desktop Lockと一緒に使用することはできません。

詳しくは、「[Citrix Desktop Lockの管理](#)」を参照してください。

- **スマートカード**。VDI-in-a-Boxは、スマートカード認証をサポートします。詳しくは、「[スマートカード認証の構成](#)」を参照してください。
- **アプリケーションの仮想化**：VDI-in-a-BoxをXenAppなどのアプリケーション仮想化ソリューションと一緒に使用すると、デスクトップとアプリケーションの仮想化に対するさまざまなニーズに柔軟に対応できるようになります。VDI-in-a-Boxは、ユーザーが必要とするアプリケーションを仮想デスクトップから提供します。このためには、管理者が各アプリケーションをマスターイメージ上にインストールし、そのイメージからデスクトップをプロビジョニングします。これに加えて、ユーザーがVDI-in-a-BoxのデスクトップからXenAppの公開アプリケーションに直接アクセスできるように構成できます。これを行うには、管理者がCitrix Receiverをイメージ上にインストールし、XenAppストアへの接続を構成しておきます。また、StoreFrontを使用してアプリケーションにアクセスできるように構成することもできます。
- **VMware vCenter**。VDI-in-a-Boxグリッドは、vCenterを使用しなくても運用できます。VDI-in-a-Boxには接続ブローカー、負荷分散、ユーザーマネージャー、およびデスクトッププロビジョニングサーバーの機能が組み込まれており、グリッド内のすべてのサーバーを単一の論理サーバーとして管理できます。さらに、VDI-in-a-Boxの複製テクノロジー（Linked Clones）により、vCenterを使用しなくてもストレージ領域を節約できます。ただし、vCenterでESXサーバーを監視している環境では、ESX上のVDI-in-a-BoxもvCenterで監視できます。これを行うには、VDI-in-a-BoxとvCenterが正しく通信できるように、vCenterの詳細をグリッドに指定する必要があります。

VDI-in-a-Boxの導入

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxをインストールするには、以下のものがが必要です。

- 以下のハイパーバイザーシステムのいずれかを実行している1台または複数のサーバー（およびそのシステムの管理ツール）
 - Citrix XenServer/XenCenter
 - Microsoft Hyper-V/Hyper-V Manager
 - VMware ESXi/vSphere Client
- ハイパーバイザーの管理者ユーザーの名前（XenServerおよびESXiでは「root」）およびパスワード
- DHCP（Dynamic Host Configuration Protocol）サーバー
- ライセンス認証の方法としてMAKを使用する環境では、Windowsのボリュームライセンスキー
- ライセンス認証の方法としてKMSを使用する環境では、25以上のデスクトップをアクティブ化したKMSサーバー
- ネットワークでMicrosoft Active Directoryを使用する環境では、コンピューターアカウントの読み取り、書き込み、および変更権限と、ユーザーアカウントの読み取り権限を持つActive Directoryユーザー

以降の各トピックでは、単一ホストによるグリッド、マスターイメージ、およびプールされるデスクトップ用のマシンカタログを作成して、最初のVDI-in-a-Box展開環境をセットアップします。

以下の手順でセットアップします。

1. [VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出する](#)
2. [グリッドを作成して構成する](#)
3. [最初のWindowsイメージを作成する](#)
4. [公開イメージから最初のテンプレートを作成する](#)
5. [ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)
6. [ユーザーとしての接続のテスト](#)

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出する

Nov 06, 2015

Citrix社のWebサイトには、各ハイパーバイザー用のパッケージが用意されています。適切なプラットフォーム用のVDI-in-a-Boxマネージャーパッケージをダウンロードして、それをハイパーバイザー上にインポートします。使用するハイパーバイザーに応じて、以下のトピックを参照してください。

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) はVDI-in-a-Box仮想アプライアンスとして提供されています。この仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Citrix XenServerにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_XenServer_v5_4_x.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_Xen_v5_4_x.xvaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約6GBの空きディスクスペースが必要です。

注：Citrix XenCenterからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Accountにログオンしていない場合は、ログオンします。ログオンしないと、[Download] ページから製品ソフトウェアをダウンロードできません。
3. [ダウンロード] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. ダウンロードする製品のバージョンを選択します。製品バージョンのページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの[Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
9. ライセンス契約に同意します。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックしてZIPファイルを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManagerファイルを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManagerファイルを抽出したら、この仮想アプライアンスをCitrix XenCenterを使用してXenServer上にインポートします。XenCenterでの仮想アプライアンスのインポートについては、XenServerのドキュメントを参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはXenCenter管理コンソール内に仮想マシンとして表示されます。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、Microsoft Hyper-Vにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_Hyper-V_v5_4_x.zipには、vdiManagerファイルであるvdiManager_Hyper-V_v5_4_x.exeが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約6GBの空きディスクスペースが必要です。抽出したEXEファイルを実行すると、vdiManagerがインストールされ、VDI-in-a-Boxが正しく動作するようにMicrosoft Hyper-Vが構成さ

れます。Hyper-Vマネージャーの役割が有効になっていない場合は、このEXEファイルにより有効になります。

注：Citrix Hyper-Vからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Accountにログオンしていない場合は、ログオンします。ログオンしないと、[Download] ページから製品ソフトウェアをダウンロードできません。
3. [ダウンロード] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. ダウンロードする製品のバージョンを選択します。製品バージョンのページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの[Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
9. ライセンス契約に同意します。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックしてZIPファイルを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManagerファイルを抽出します。

vdiManagerのHyper-Vへのインポート

1. Hyper-Vサーバー上で、vdiManager_Hyper-V_v5_4_x.exeのアイコンをダブルクリックするか、コマンドプロンプトからこのファイルを実行します。Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Setupウィザードが起動します。ウィザードにより、以下のソフトウェアがインストールされます。
 - Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-Vコネクタ
注：Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V Connectorは、このバージョンのVDI-in-a-Boxに含まれているものを使用してください。以前のバージョンはサポートされません。
 - Citrix VDI-in-a-Boxマネージャーアプライアンス
2. [Next] をクリックします。[Select Destination Location] ページが開きます。
注：既存のvdiManagerが動作するHyper-VサーバーにvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、そのサーバー上のHyper-V Connectorが既存のグリッドと非互換になり、グリッドが動作しなくなります。
3. デフォルトのインストール先を指定したまま、[Next] をクリックします。[Select Additional Tasks] ページが開きます。
4. [Create Citrix VDI-in-a-Box manager virtual appliance] が選択されている状態で、[Install] をクリックします。
注：リモートデバイスから仮想デスクトップを管理できるようにする場合は、[Enable Hyper-V Remote Administration] を選択します。
インストール処理が開始されます。インストールが完了すると、[Welcome to Citrix VDI-in-a-Box for Hyper-V] ページが開きます。
5. [Close]、[Finish] の順にクリックします。インポート処理が終了すると、vdiManagerはHyper-Vマネージャー（または代替の管理コンソール）の仮想マシン一覧に「vdiManager_timestamp」という名前で表示されます。
重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

VDI-in-a-Boxマネージャーをダウンロードして抽出する - VMware ESXi

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) と呼ばれるVDI-in-a-Box仮想アプライアンスをCitrixのWebサイトからダウンロードして、VMware ESXiにインポートします。

ダウンロードパッケージのVDI-in-a-Box_ESX_v5_4_x.zipには、vdiManagerの仮想アプライアンスであるvdiManager_ESX_v5_4_x.ovaが含まれています。vdiManagerを抽出するには、約6GBの空きディスクスペースが必要です。

注：VMware vSphereクライアントからアクセス可能な場所にダウンロードして抽出するようにしてください。

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Accountにログオンしていない場合は、ログオンします。ログオンしないと、[Download] ページから製品ソフトウェアをダウンロードできません。
3. [Downloads] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. ダウンロードする製品のバージョンを選択します。製品バージョンのページが開きます。
8. 「Appliances」セクションで、適切なハイパーバイザーの[Download] をクリックします。ライセンス契約が表示されます。
9. ライセンス契約に同意します。[Download Manager] ウィンドウが開きます。
10. [Download Now] をクリックします。
11. [Install] をクリックしてZIPファイルを保存します。ZIPファイルがダウンロードされます。
12. ZIPファイルから、vdiManagerファイルを抽出します。

vdiManagerをインポートするには

vdiManagerファイルを抽出したら、この仮想アプライアンスをVMware vSphereクライアントを使用してVMware ESXi上にインポートします。vSphereクライアントを使用したインポートについて詳しくは、<http://www.vmware.com/>を参照してください。インポート処理が終了すると、vdiManagerはvSphereクライアント管理コンソール内に仮想マシンとして表示されません。

重要：ハイパーバイザーに複数のvdiManagerをインポートしないでください。これを行うと、CPU、RAM、ディスク、およびネットワークが過度に消費され、システムが応答不能になることがあります。

グリッドを作成して構成する

Sep 17, 2015

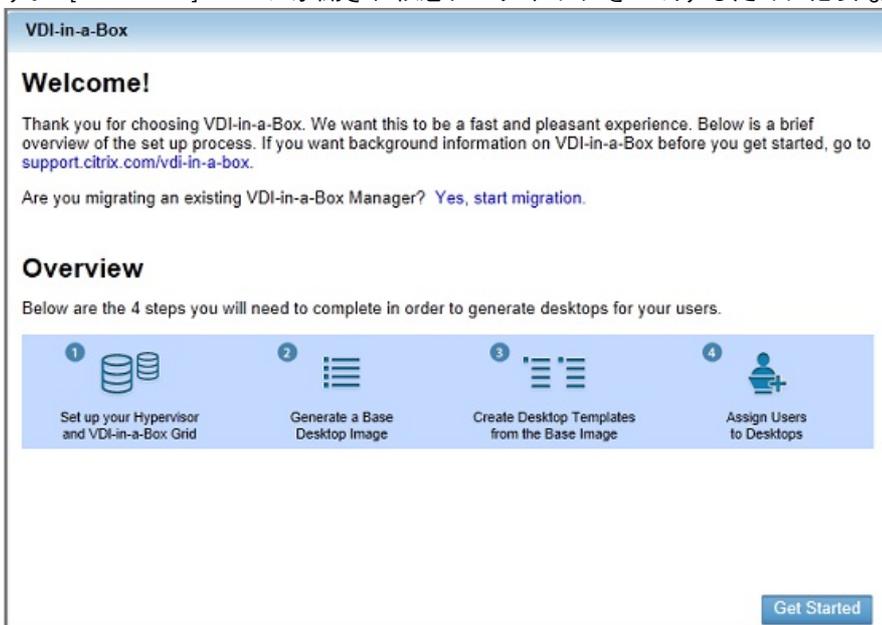
VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) がハイパーバイザーにインポートされ、管理コンソールで利用可能になったら、VDI-in-a-Boxグリッドを構成します。

グリッドは、vdiManagerを実行しているサーバーをグループ化して負荷分散を可能にし、サーバー上の仮想マシンの高可用性を保証します。

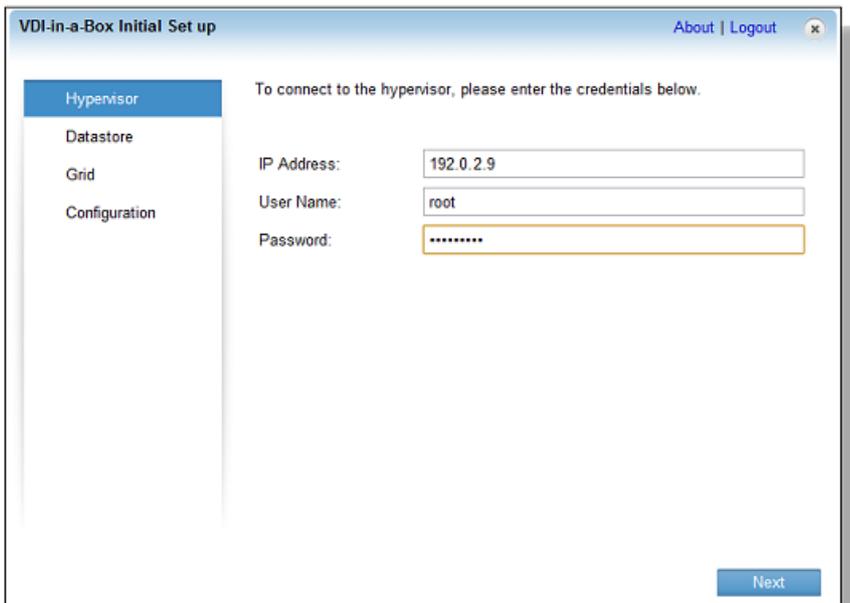
また、WebブラウザでJavaScriptとCookieを有効にしてください。

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. ハイパーバイザー上でvdiManagerが起動しており、電源がオンの状態であることを確認します。
注：vdiManager仮想アプライアンスのIPアドレスを書き留めていない場合は、書き留めます。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPAddress>/admin/>」と入力し Enterキーを押します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。さらに警告が表示される場合は、それらの警告も受け入れません。[Citrix VDI-in-a-Box Administrator Login] ページが開きます。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Administrator Login] ページの [Username] ボックスに、「vdiadmin」と入力します。
5. [Password] ボックスに「kaviza」と入力し、[Log On] をクリックします。Citrixエンドユーザーライセンス契約 (EULA) が表示されます。
6. EULAに同意する場合は、[I have read and accept the terms of use] を選択して [Next] をクリックします。[Welcome] ページが開き、仮想デスクトップを生成するために必要な4つの手順が表示されます。



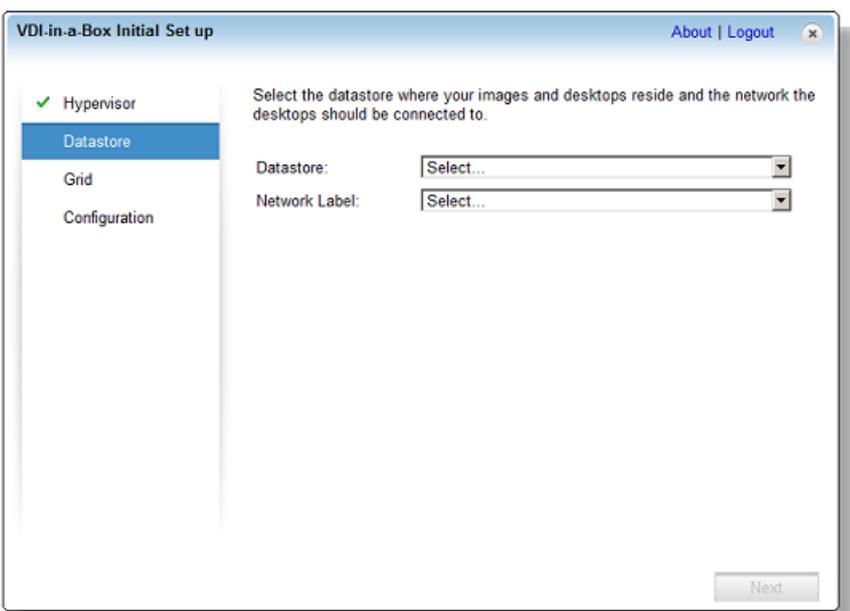
1. [Welcome] ページで、[Get Started] をクリックします。[Set up your Hypervisor and VDI-in-a-Box Grid] ページが開きます。
2. [Continue] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Hypervisor] ページが開きます。



3. [IP Address] ボックスに、ハイパーバイザーを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
4. [User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーアカウントは、root特権を持っている必要があります。
5. [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Datastore] ページが開きます。

データストアには、デスクトップイメージ、仮想デスクトップ、およびPersonal vDisk（パーソナルデスクトップで使用されるユーザー固有のデータおよびアプリケーション）が格納されます。

1. [Datastore] ページでは、データストアとネットワークラベルを選択します。



2. [Next] をクリックします。データストアの情報が保存され、VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページが開きます。ここでは、新規グリッドを作成したり、既存のグリッドを追加したりできます。

新規のVDI-in-a-Box環境をセットアップする場合は、新規のグリッドを作成します。VDI-in-a-Box仮想マシンにアクセスするユーザーとグループを格納しているデータベースに、そのグリッドを関連付ける必要があります。このデータベースとして、Active Directoryサーバー、またはローカルに格納されているワークグループと呼ばれるデータベースを使用できます。

既存のVDI-in-a-Box環境を拡張する場合は、既存のグリッドにこのVDI-in-a-Boxサーバーを追加します。

新規のグリッドを作成してデータベースに割り当てるには

1. [Grid] ページで、[Create a new VDI-in-a-Box grid] を選択し、[Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [User Database] で、[VDI-in-a-Box workgroup] または [Microsoft Active Directory] を選択します。[Microsoft Active Directory] を選択した場合は、追加の情報を入力する必要があります。[VDI-in-a-Box workgroup] を選択した場合は、この情報を入力する必要はありません。

VDI-in-a-Box Initial Set up

About | Logout

✓ Hypervisor
✓ Datastore
✓ Grid
Configuration

User Database: VDI-in-a-Box workgroup Microsoft Active Directory

IP Address: 198.51.100.2
(Domain example: example.com)

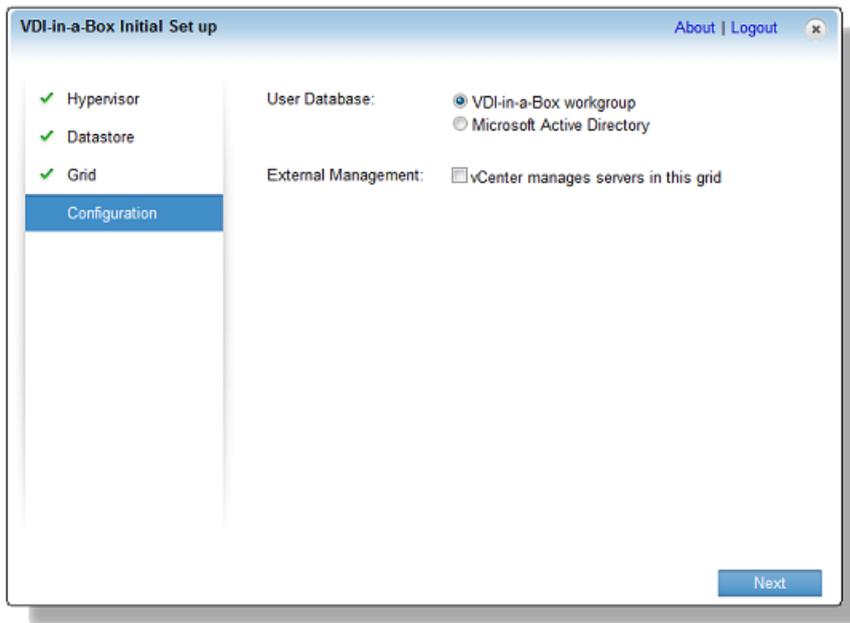
Domain: <domain.com>

User Name: administrator

Password:

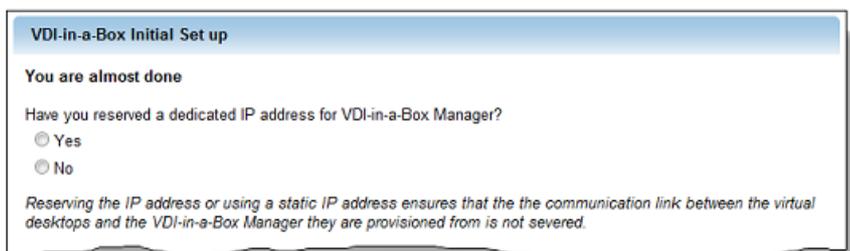
External Management: vCenter manages servers in this grid

Next



[External Management] のチェックボックスは、ハイパーバイザーとしてVMware ESXiを使用する場合のみ表示されます。

3. Active Directoryを選択した場合、[IP Address] ボックスに、データベースをホストするサーバーのIPアドレスを入力します。
4. Active Directoryを選択した場合、[Domain] ボックスにDNSドメインを入力します。
5. Active Directoryを選択した場合、[User Name] および [Password] ボックスに、ユーザー名とパスワードを入力します。ドメイン管理者の特権が必要です。ドメインユーザーの特権を使用する場合の条件については、<http://support.citrix.com/article/CTX136282>を参照してください。
6. ハイパーバイザーとしてVMware ESXiを使用する場合は、以下の手順に従います。XenServerまたはHyper-Vを使用する場合は、手順7に進みます。
 1. VMware vCenterでグリッド内のサーバーを管理する場合は、[vCenter manages servers in this grid] を選択します。
 2. [IP Address] ボックスに、vCenterを実行しているサーバーのIPアドレスを入力します。
 3. [User Name] および [Password] ボックスに、vCenterのユーザー名とパスワードを入力します。このユーザーは、ドメイン管理者特権を持っている必要があります。
7. [Next] をクリックします。「Have you reserved a dedicated IP address for VDI-in-a-Box Manager?」というメッセージが表示されます。



8. [Yes] または [No] を選択して、[Done] をクリックします。[Generate a Base Desktop Image] ページが開きます。次にWindowsイメージを作成して、デスクトップ生成用としてVDI-in-a-Boxにインストールする必要があります。詳

しくは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

既存のグリッドにサーバーを追加するには

1. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Grid] ページで、 [Join a VDI-in-a-Box server on an existing grid] を選択し、 [Next] をクリックします。VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの [Configuration] ページが開きます。
2. [Configuration] ページの [IP Address] ボックスに、既存のグリッドで動作しているvdiManagerのIPアドレスを入力します。
3. [Configuration] ページの [User Name] および [Password] ボックスに、vdiManager管理コンソールのユーザー名とパスワードを入力します。
4. [Next] をクリックします。これで、グリッドの構成手順が完了しました。

最初のWindowsイメージを作成する

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) をサーバーにインポートして、データストア、データベース、およびグリッドに関連付けたら、最初のWindowsイメージを作成します。

ハイパーバイザー上で仮想マシンを作成し、Windowsオペレーティングシステムをインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

ここで作成する仮想マシンは、以下の条件を満たしている必要があります。

- サポートされるいずれかのWindowsオペレーティングシステムが実行されている。
- 仮想マシン上でリモートデスクトップ接続 (RDP) 機能が有効になっている。
- 仮想マシンのネットワークインターフェイスカード (NIC) は1つだけで、Device 0に割り当てられている。
- 仮想マシンのディスクイメージは1つだけで、そのサイズが65GB以下である。デフォルトのイメージの最大サイズは65GBです。

イメージの最大サイズを大きくするには、<http://support.citrix.com/article/CTX138113>の説明に従ってエクスポートフォルダーのサイズを大きくする必要があります。

- VDI-in-a-Boxにインポートする前に仮想マシンが起動しており、電源がオンの状態になっている。
- 仮想マシンに少なくとも4GBの空きスペースがある (パーソナルデスクトップをプロビジョニングする計画の場合は8GB)。

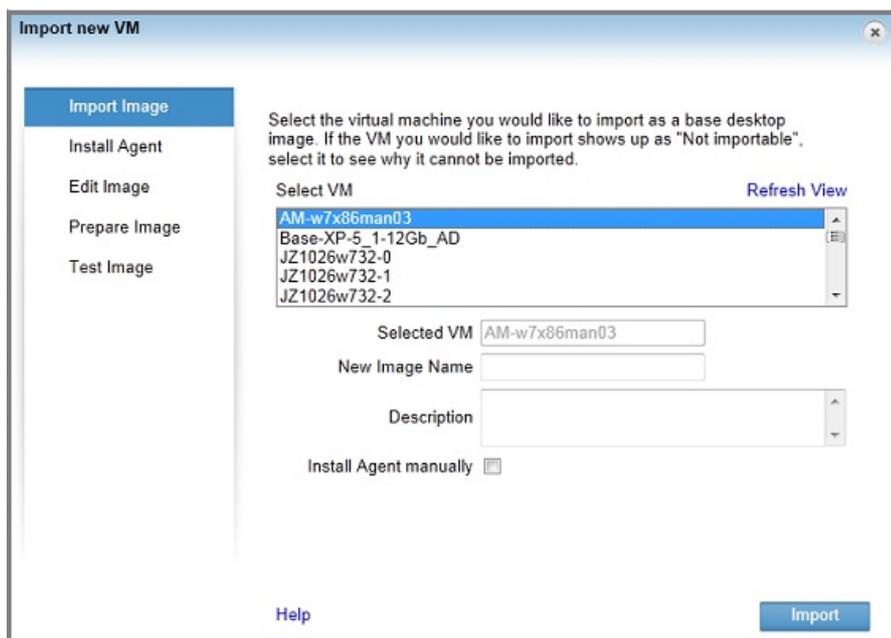
注：Hyper-V Server 2012 R2では、第1世代の仮想マシンのみがサポートされます。

VDI-in-a-Boxとは別に、以下の手順を完了する必要があります。詳しくは、各製造元のドキュメントを参照してください。

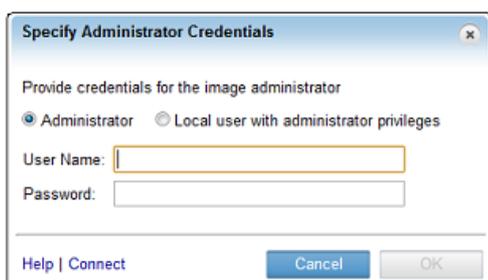
1. 仮想マシンのローカルの管理者アカウントを有効にします。Windows XPを実行する仮想マシンでは、この手順は不要です。
2. ハイパーバイザーの管理ツールを仮想マシンにインストールします。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。
3. 必要に応じて、仮想マシンをドメインに参加させます。
注：仮想マシンはワークグループのメンバーでも構いません。
4. ローカルの管理者として仮想マシンにログオンし、ユーザーのリモート接続を有効にします。
5. リモートエージェントのインストールを許可するように、ファイアウォール設定の[ファイルとプリンターの共有] を有効にします。詳しくは、使用するファイアウォールのドキュメントを参照してください。接続するネットワークがプライベートネットワークまたはドメインネットワークとして認識されていることを確認します。
6. Windows XPを実行する仮想マシンでは、[表示] タブの [詳細設定] の一覧 ([マイコンピュータ] > [ツール] > [フォルダオプション] > [表示]) で、 [簡易ファイルの共有を使用する] チェックボックスをオフにします。

Webブラウザー上に [Generate a Base Desktop Image] ページが開いていない場合は、セットアップが完了したvdiManager (<https://<ManagerIpAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Generate a Base Desktop Image] ページで、 [Continue] をクリックします。
2. [Import new VM] ページで、イメージとして使用する仮想マシンを選択します。



3. [New Image Name] ボックスに、インポートした仮想マシンの名前を入力します。
注：インポート元のイメージとは別の名前を指定してください。
4. [Description] ボックスに、仮想マシンの説明を入力します。
5. [Install Agent manually] チェックボックスがオフであることを確認します。このチェックボックスは、Desktop Agentのカスタムインストールが必要な場合、または自動インストールが正しく動作しない場合にのみオンにしてください。Desktop Agentのインストールについて詳しくは、「[Desktop Agentの手作業によるインストール](#)」を参照してください。
6. [Import] をクリックします。[Specify Administrator Credentials] ダイアログボックスが開きます。

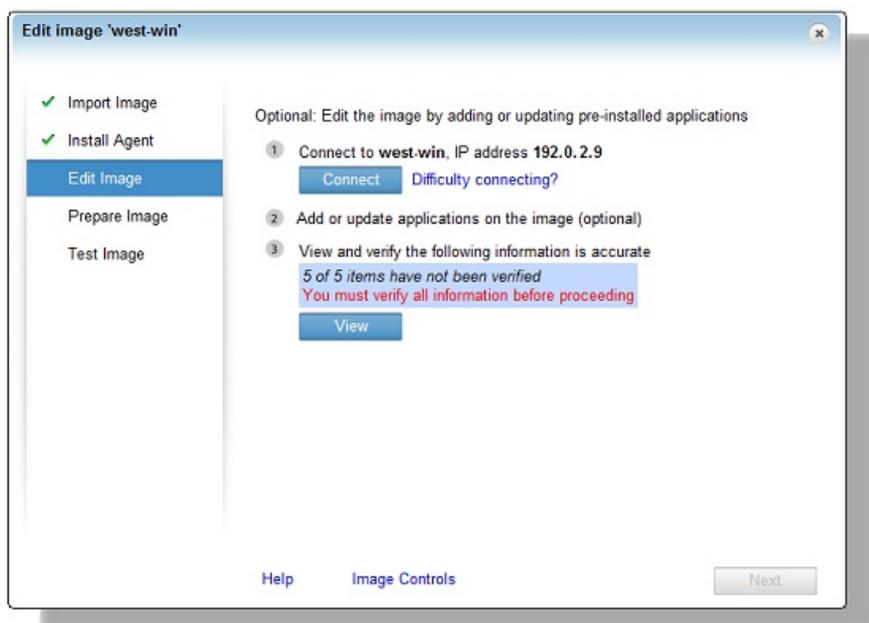


注：Windows XPを実行する仮想マシンでは、管理者特権を持つローカルユーザー用のオプションを選択することはできません。

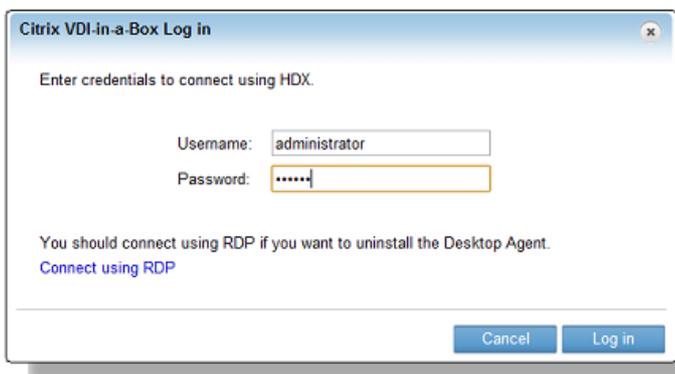
7. 管理者の資格情報を使用するか、管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用するかを選択します。
重要：管理者特権を持つローカルユーザーの資格情報を使用する場合は、Microsoft Windowsのユーザーアカウント制御（UAC）を無効にする必要があります。詳しくは、[Microsoft社のTechNetライブラリ](#)を参照してください。
8. イメージの管理者特権を持つアカウントのユーザー名およびパスワードを入力して、[OK] をクリックします。インポートおよびDesktop Agentのインストールによるドラフトイメージの作成が開始され、進捗状況を示す状態ページが開きます。Import new VMウィザードの [Edit Image] ページが開きます。

仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、その他のアプリケーションを追加します。イメージからデスクトップを生成するために必要な前提条件を確認するためのチェックリストが表示されます。

1. [Edit Image] ページで、[Connect] をクリックします。

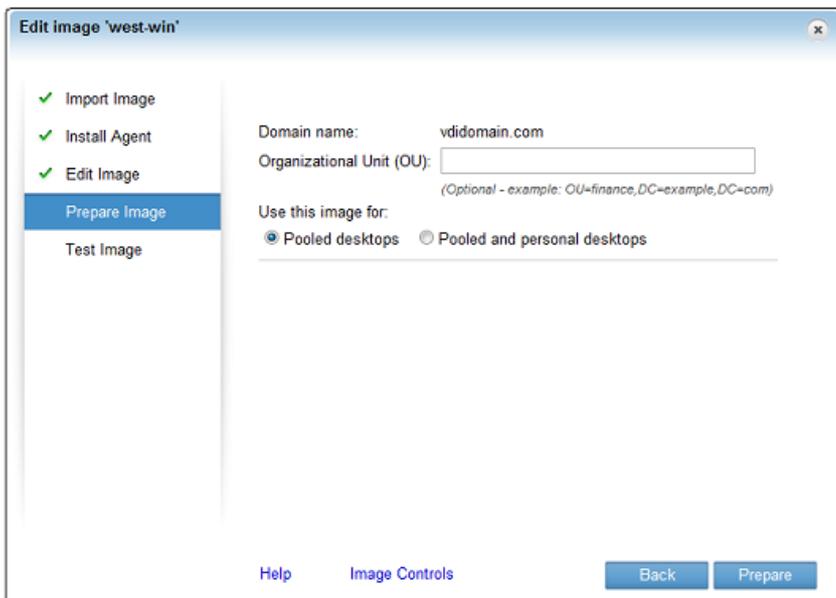


2. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、イメージの管理者特権を持つアカウントの資格情報を入力して[Log in] をクリックします。



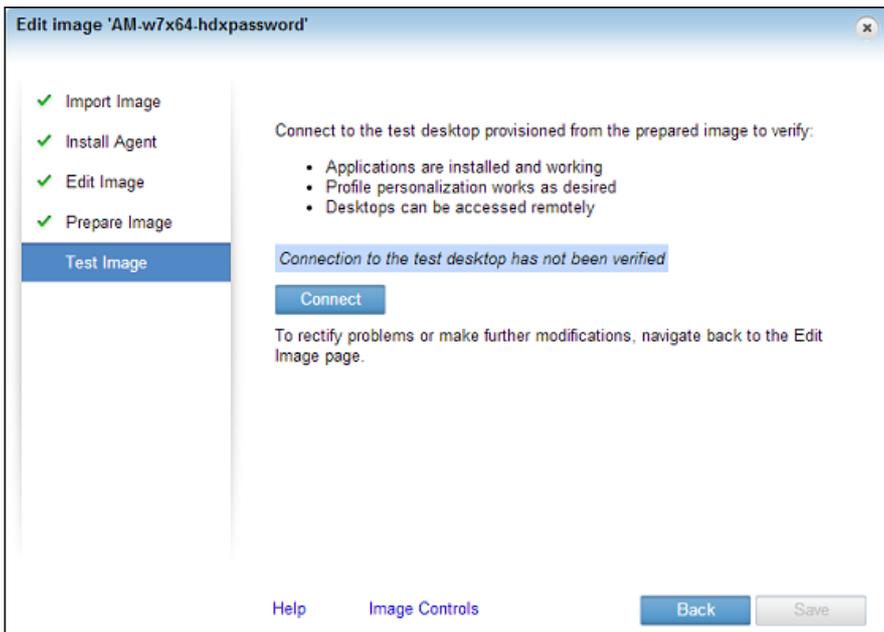
3. 必要に応じてイメージを編集し、イメージからログオフします。
4. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
5. [Edit Image] ページで、[View] をクリックします。前提条件の一覧が質問形式で表示されます。
注：ここに表示される前提条件は、ハイパーバイザーとイメージのオペレーティングシステムによって異なります。
6. [Yes] をクリックして、各前提条件を満たしていることを確認します。
7. すべての前提条件を満たしていることを確認した後で、[Done] をクリックします。前提条件の一覧が閉じて、[Edit Image] ページに戻ります。
8. [Next] をクリックします。[Prepare Image] ページが開きます。

[Prepare Image] ページでは、イメージから作成するデスクトップとして、プールされるデスクトップまたはパーソナルデスクトップを選択します。パーソナルデスクトップについては、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。パーソナルデスクトップ用に準備したイメージは、プールされるデスクトップの生成にも使用できます。ただし、プールされるデスクトップ専用のイメージを作成する場合は、[Pooled desktops] を選択することでPersonal vDisk関連の設定手順を省略できます。



1. [Prepare Image] ページの [Domain name] ボックスの一覧で、ドメインまたはワークグループを選択します（選択可能な場合）。
2. 必要に応じて、[Organizational unit (OU)] ボックスに、イメージの適用先の組織単位を入力します。
3. [Pooled desktops] または [Pooled and personal desktops] を選択します。
4. [Prepare] をクリックします。[Confirm] メッセージが表示されます。
5. [Confirm] をクリックします。[Confirm] メッセージと [Prepare Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。準備されたイメージからテストデスクトップが作成され、[Test Image] ページが開きます。

テストイメージを使用して、そのドラフトイメージから適切なデスクトップを生成できるかどうか、およびユーザーがこのデスクトップにHDX接続とRDP接続を確立できるかどうかを検証します。ドラフトイメージを保存すると、テストイメージおよびそのイメージに対する変更内容はすべて削除されます。テストイメージへの接続で問題が発生したか、ドラフトイメージに変更を加える必要がある場合は、[Back] をクリックしてドラフトイメージを再度編集して準備します。



1. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。接続されるまでそのイメージを保存することはできません。
[Connect to the draft image] ダイアログボックスが開きます。



2. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Citrix HDX] を選択し、[Connect] をクリックします。
[Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスが開きます。
3. 資格情報を入力して、[Log in] をクリックします。HDX接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
4. インストールされているアプリケーションが正常に動作すること、および必要なグループポリシーが適用されていることを確認します。
5. Active Directoryを使用して構成したグリッドでは、ドメインユーザーとしてログオンとログオフを行ってアクセスをテストします。
6. テストイメージからログオフします。テストイメージが閉じます。
7. [Citrix VDI-in-a-Box Log in] ダイアログボックスで、[Cancel] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
8. [Test Image] ページで [Connect] をクリックします。
9. [Connect to the draft image] ダイアログボックスで [Use Microsoft RDP] を選択し、[Connect] をクリックします。
RDP接続が確立され、テストイメージのデスクトップが表示されます。
10. テストイメージにログオンし、RDP接続が正常に機能しているかどうかを確認して、ログオフします。テストイメージが閉じます。

11. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。 [Confirm] メッセージが表示されます。
12. [Confirm] メッセージで、 [Confirm] をクリックします。 [Confirm] メッセージと [Test Image] ページが閉じます。進行状況を示す状態ページが開きます。 [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開きます。テンプレートの作成方法について詳しくは、「[公開イメージから最初のテンプレートを作成する](#)」を参照してください。

公開イメージから最初のテンプレートを作成する

Sep 17, 2015

テンプレートを使用することで、一貫した仮想デスクトップを作成できます。テンプレートは、イメージとポリシーで構成されています。

- イメージには、デスクトップ上で実行されるオペレーティングシステムとアプリケーションが含まれます。1つのイメージを複数のテンプレートで使用することができます。
テンプレートを作成する前に、少なくとも1つのイメージを作成して公開しておく必要があります。
- ポリシーにより、いくつかのデスクトップを作成するのか、どれだけのRAMを割り当てるのかなどの特性が定義されます。ポリシーは、テンプレートを作成するときに設定します。

このトピックでは、デフォルトの構成オプションをそのまま使用して、プールされるデスクトップ用のテンプレートを作成します。テンプレートの構成時に選択できる各オプションについては、「[テンプレートの管理](#)」を参照してください。

1. Webブラウザ上に [Create Desktop Templates from the Base Image] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Box マネージャー (<https://<ManagerIPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。
2. [Create Desktop Templates from the Base Image] ページで、[Continue] をクリックします。Create a New Desktop Template ウィザードの [Template Information] ページが開きます。

The screenshot shows the 'Create a New Desktop Template' wizard, specifically the 'Template Information' page. The page has a sidebar with 'Template Information' and 'Template Policies' tabs. The main area contains the following fields and options:

- Template name:** Building A
- Image name:** west-win (with a dropdown arrow and a 'View image details' link)
- Description:** Personal desktops for Building A
- Computer name:** Prefix: BuildA (1-11 characters), Suffix: 0000 (0-4 digits)
- Memory (MB):** 1536
- Virtual CPUs:** 1
- Connect these local devices to the VDI-in-a-Box desktop:**
 - Disk drives
 - Printers
 - Serial ports
 - Smart cards
 - Other USB devices
- Color depth:** True color (32 bit)
- Reset the activation timer (KMS clients)

At the bottom, there is a 'Help' link and a 'Next' button.

3. [Template Name] ボックスに、テンプレートの名前を入力します。
4. 使用可能なイメージの一覧から、このテンプレートに関連付けるイメージを選択します。
5. [Description] ボックスに、テンプレートの説明を入力します。
6. このテンプレートから生成されるデスクトップには、プレフィックスおよびサフィックスで構成される名前が設定されます。
 - [Prefix] ボックスでは、英数字およびハイフン (-) を使用してプレフィックスを指定します。
 - [Suffix] ボックスでは、1~4文字の数字を使用してサフィックスを指定します。サフィックスの上位桁に「0」を使用することもできます（「0001」など）。

プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。

7. [Next] をクリックします。 [Template Policies] ページが開きます。

Maximum desktops:

Pre-started desktops:

Template will provision:

Pooled desktop Personal desktop

Refresh desktop:

Do not reassign desktops "On Hold" to new users

Enable fast refresh of desktops

Desktops follow users to other access devices

Make this the default template

Help Back Save

8. [Maximum desktops] ボックスに、このテンプレートで展開するデスクトップの最大数を入力します。
9. [Pre-started desktops] ボックスに、ユーザーが直ちにログオンできるように事前起動しておくデスクトップの数を入力します。少なくとも1つのデスクトップを事前起動する必要があります。
10. [Save] をクリックします。
11. [Close] をクリックします。事前起動として指定した数のデスクトップが起動し、[Assign Users to Desktops] ページが開きます。デスクトップにユーザー、グループ、およびIPアドレスを割り当てる方法については、「[ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)」を参照してください。

ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て

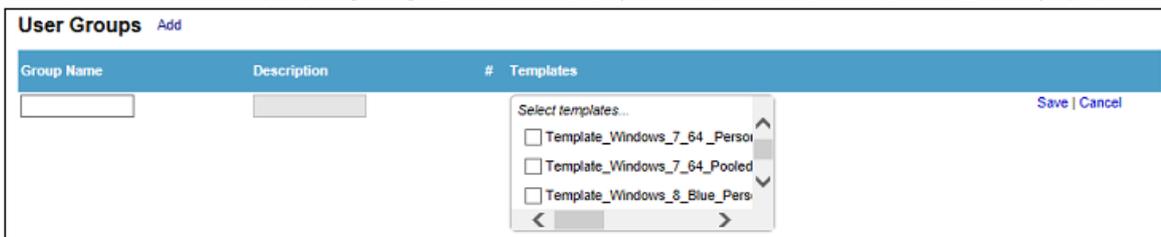
Sep 17, 2015

テンプレートを作成したら、ユーザー、ユーザーグループ、およびIPアドレスにそのテンプレートを割り当てることができます。ユーザーとグループには、複数のテンプレートを割り当てることができます。キオスクなどのIPアドレスにテンプレートを割り当てると、そのキオスクにログオンするすべてのユーザーで同じデスクトップが使用されます。

テンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンした場合は、デフォルトテンプレートが使用されます。ただし、デフォルトテンプレートを指定していない場合、そのユーザーの資格情報は拒否されます。

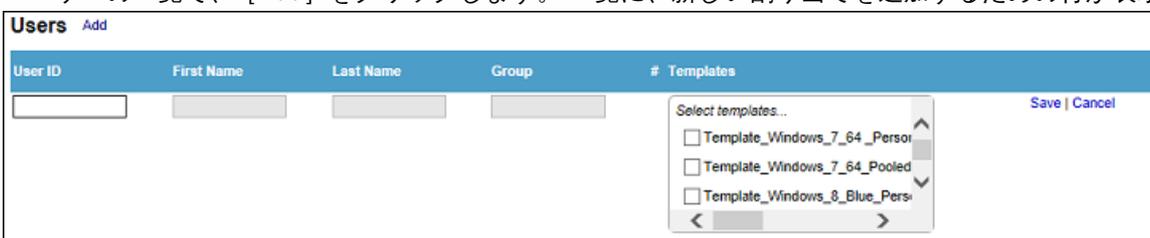
Webブラウザ上に [Assign Users to Desktops] ページが開いていない場合は、VDI-in-a-Boxマネージャー (<https://<ManagerIPAddress>/admin/>) にログオンしてこのページを開きます。

1. [Assign Users to Desktops] ページで、[Continue] をクリックします。[Users] ページが開きます。このページには、ユーザーグループ、ユーザー、およびIPアドレスの一覧が表示されます。
2. ユーザーグループの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



3. [Group Name] ボックスに、テンプレートを割り当てるグループの名前を入力します。ユーザーデータベースとして Active Directoryが使用されている環境では、グループ名の最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたグループ名を選択するには、Enterキーを押します。
4. [Description] ボックスに、グループの説明を入力します。
5. グループに割り当てるテンプレートを選択して、[Save] をクリックします。
6. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のグループに割り当てます。

1. ユーザーの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。

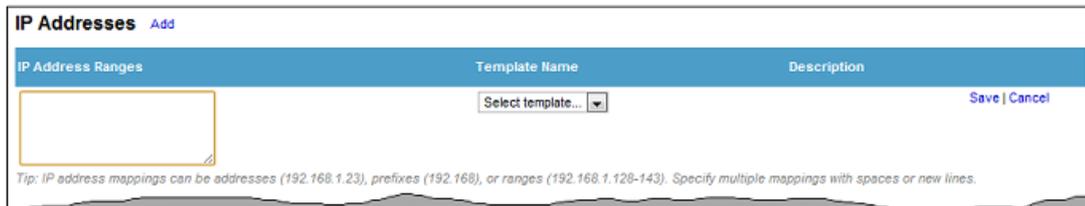


2. [User ID] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーのユーザーIDを入力します。ユーザーデータベースとして Active Directoryが使用されている環境では、ユーザーIDの最初の何文字かを入力すると検索結果が表示されます。表示されたIDを選択するには、Enterキーを押します。

注：[First Name]、[Last Name]、および[Group] は空欄でも構いません。そのユーザーの情報がActive Directoryに格納されている場合は、これらの情報が自動的に入力されます。

3. ユーザーに割り当てるテンプレートを選択して、[Save] をクリックします。
4. 上記の手順を繰り返し、テンプレートを別のユーザーに割り当てます。

1. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。一覧に、新しい割り当てを追加するための行が表示されます。



IP Address Ranges	Template Name	Description
<input type="text"/>	Select template... ▼	Save Cancel

Tip: IP address mappings can be addresses (192.168.1.23), prefixes (192.168), or ranges (192.168.1.128-143). Specify multiple mappings with spaces or new lines.

2. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスの範囲を入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。
3. テンプレートの一覧で、IPアドレスに割り当てるテンプレートを選択します。
4. [Save] をクリックします。IPアドレスが一覧に追加されます。
5. 上記の手順を繰り返し、IPアドレスに別のテンプレートを割り当てます。
注：テンプレートをIPアドレスに割り当てたら、既存の割り当てを削除するまで再割り当てを行うことはできません。

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] ページを選択します。
2. テンプレートを編集するユーザーグループ、ユーザー、またはIPアドレスにポインターを合わせて[Edit] をクリックします。
3. 必要に応じて編集し、[Save] をクリックします。

ユーザーとしての接続のテスト

Sep 17, 2015

テンプレートを設定し、テンプレートからデスクトップを作成して、ユーザーに割り当てたら、ユーザーとしてデスクトップにログオンし、接続が正しく機能することを確認します。これを行うには、Citrix Receiverの最新バージョンをインストールしておく必要があります。Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、JRE (Java Runtime Environment) 6または7もインストールします。

テスト用のユーザーデバイスを準備するには、HDXで接続できるようにCitrix Receiverをインストールします。

- Citrix Receiverがインストールされていない場合は、<https://www.citrix.com>からWebサイトの指示に従ってダウンロードします。
- Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、ユーザーデバイスにJRE 6または7がインストールされていることを確認します。インストールされていない場合は、<https://www.java.com>から最新バージョンを入手します。

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

VDI-in-a-BoxをActive Directoryモードではなくワークグループモードで使用する場合、ユーザーはvdiManagerへの接続時とWindowsへのログオン時の2回資格情報を入力する必要があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPAddress>/>」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。
4. [Citrix VDI-in-a-Box] ページの [Username] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。
6. 接続するデスクトップをクリックします。仮想デスクトップに接続されます。

以下の手順は、使用するWebブラウザによって異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp>」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。使用するWebブラウザによっては、[Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開く場合があります。
4. [Opening vdiclient.jnlp] ダイアログボックスが開いた場合は、[Open with] が選択され、その横の一覧に [Java(TM) Web Start Launcher (default)] が表示されていることを確認して、[OK] をクリックします。
5. [Citrix VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスにユーザーの資格情報を入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

以下の手順は、使用するユーザーデバイスによって異なる場合があります。

1. [コマンドプロンプト] ウィンドウを開きます。

2. 次のコマンドを入力します。javaws https://<vdiManagerIPAddress>/dt/vdiclient.jnlp.
3. Enterキーを押します。
4. [Log on] ダイアログボックスの [User name] ボックスに、ユーザー名を入力します。
5. [Password] ボックスにパスワードを入力し、[Log On] をクリックします。ユーザーに複数のテンプレートが割り当てられている場合は、[Select a Desktop] ダイアログボックスが開きます。
6. [Connect] をクリックして、テストするデスクトップを選択します。仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Boxのライセンス

Oct 10, 2013

VDI-in-a-Boxのライセンスは、Citrixライセンスサーバーで集中管理したり、ローカルで管理したりできます。

注意

有料のVDI-in-a-Boxライセンスには、XenServer Enterprise Editionレベルのライセンスが含まれています。VDI-in-a-Boxの製品ライセンスをvdiManagerにアップロードすると、XenServerハイパーバイザーでXenServer Enterprise Editionのライセンスが自動的に有効になります。

VDI-in-a-Boxは、同時接続ユーザーライセンスモデルで動作します。ユーザーがデスクトップを起動すると、ライセンスが要求されてユーザーが使用するデスクトップにチェックアウトされます。ユーザーがセッションからログオフまたは切断するとライセンスがチェックインされ、ほかのユーザーが使用できるようになります。vdiManager管理コンソールに表示されるように、デスクトップのカテゴリは「In Use (使用中)」、「On Hold (保持)」、およびユーザーに割り当てられたパーソナルデスクトップに分かれており、同時接続ユーザーとみなされます。ユーザーに割り当てたパーソナルデスクトップは、廃棄されるまでそのユーザー用に保持されます。ユーザーがログオフしても、使用中の同時接続デスクトップとして認識されず。

1. VDI-in-a-Boxを購入すると、ライセンスコードとMy Citrixのリンクが記載されたメールが送信されます。そのリンクをクリックします。
2. 正しいオプションが選択済みのWebページが開きます。ドロップダウンリストから異なるオプションを選択しないでください。[Continue] をクリックします。
3. 次のページで、[Confirm] をクリックします。
4. 次のページで、[Download] をクリックします。ライセンスファイルがダウンロードされます。

ライセンスサーバーに接続するには、以下の手順に従います。

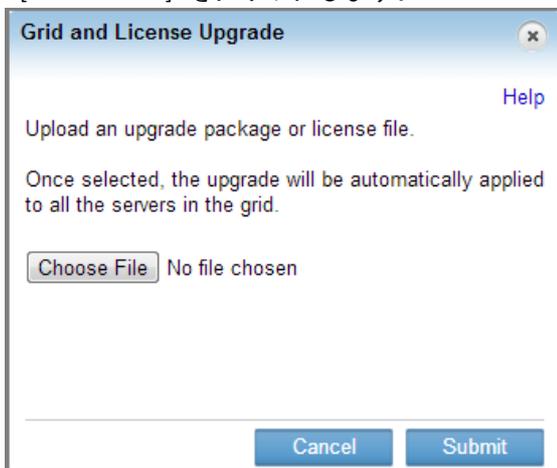
1. Citrixライセンスサーバーをインストールします。詳しくは、[製品ライセンスの有効化](#)を参照してください。ライセンスサーバーのIPアドレスおよびLicense Server Managerのポート番号をメモします。
2. vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
3. [License Server] セクションでCitrixライセンスサーバーのIPアドレスとポート番号を入力し、[OK] をクリックします。
4. ページの表示を更新して、[About] をクリックします。[About VDI-in-a-Box] ダイアログボックスに、ライセンスサーバーのアドレスが表示されます。



Citrixライセンスサーバーでのライセンスの管理方法について詳しくは、[製品ライセンスの有効化](#)を参照してください。

ライセンスファイルをアップロードするには、以下の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックし、 [OK] をクリックします。
2. [Grid and License Upgrade] をクリックします。
3. [Choose File] をクリックします。



4. ライセンスファイルを指定して、 [開く] をクリックします。
5. [Submit] をクリックします。
6. ライセンスファイルをアップロードしたら、ページの表示を更新して [About] をクリックします。 [About VDI-in-a-Box] ダイアログボックスに、ライセンスの詳細が表示されます。



次の表は、VDI-in-a-Boxの評価版ライセンスをCitrix永続ライセンスにアップグレードした場合の動作を示しています。

既存のライセンス	アップロードするライセンス	アップロード後の動作
VDI-in-a-Box評価版ライセンス (30日間、同時ユーザー10人まで)	Citrix永続ライセンス	VDI-in-a-Box評価版ライセンスが直ちにCitrix永続ライセンスに置き換わります。
VDI-in-a-Box評価版ライセンス (30日間、同時ユーザー10人まで)	10人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続 (評価版/非再販用) ライセンス	VDI-in-a-Box評価版ライセンスが直ちにCitrix非永続ライセンスに置き換わります。
VDI-in-a-Box評価版ライセンス (30日間、同時ユーザー10人まで)	10人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続 (評価版/非再販用) ライセンス	有効期限までVDI-in-a-Box評価版ライセンスが使用されます。その後でCitrix非永続ライセンスが使用されます。

次の表は、Citrix永続ライセンスをアップグレードした場合の動作を示しています。

既存のライセンス	アップロードするライセンス	アップロード後の動作	表示される有効期限
<number>人の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数がサポートされます。	Permanent
<number>人の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	<number>人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix永続ライセンス	両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数がサポートされます。	Permanent
<number>人の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	<number>人以上の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数がサポートされます。	Permanent
<number>人の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	<number>人未満の同時ユーザーをサポートするCitrix非永続ライセンス	非永続ライセンスの有効期限まで両方のライセンスが使用され、同時ユーザーの合計数がサポートされます。	Permanent

VDI-in-a-Boxの管理

Sep 17, 2015

ここでは、VDI-in-a-Boxの構成および管理について説明します。

- [イメージの管理](#)
- [テンプレートの管理](#)
- [デスクトップの管理](#)
- [ユーザーセッションの管理](#)
- [サーバーの管理](#)
- [グリッドの管理](#)

イメージの管理

Sep 17, 2015

イメージを追加するには、既存の公開イメージをコピーしてそれを編集するか、イメージを新規に作成します。また、イメージをアップデートするには、公開イメージを編集します。

別の名前でイメージを保存するには、以下のイメージのアップデートの手順に従い、保存する前に名前と説明を編集します。別の名前でイメージを保存した後は、既存のパーソナルデスクトップを新しいイメージに変更できないことに注意してください。別のイメージを使用するためにテンプレートをアップデートする場合の手順については、「[テンプレートの管理](#)」を参照してください。

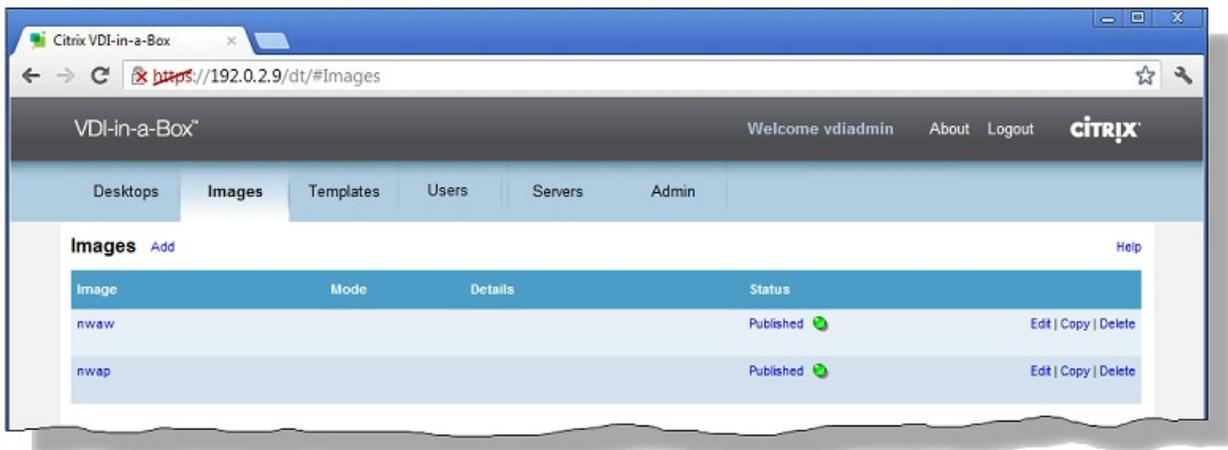
公開イメージのコピーをエクスポートして、XenDesktopのマスターイメージとしてデスクトップカタログを作成したり、ほかのVDI-in-a-Box環境にインポートしたりできます。作成される仮想マシンにはVDI-in-a-Box Desktop Agentは含まれませんが、そのほかのアプリケーションや設定は保持されます。

注：VDI-in-a-Boxの展開環境をXenDesktopに移行する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136081>を参照してください。

VDI-in-a-Boxの準備ツールの代わりにMicrosoft System Preparation Utility (sysprep) を使用することもできます。Import new VMウィザードの [Prepare Image] ページにsysprepを使用するためのチェックボックスを表示するには、[Admin] タブの [Advanced Properties] をクリックし、[Show sysprep option on prepare dialog] を選択します。ただし、Personal vDisk で使用するイメージを準備する場合は、VDI-in-a-Boxの準備ツールを使用する必要があります。

イメージをコピーして、異なる設定やアプリケーションを持つ新しいイメージを作成するには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. コピーするイメージの行で、[Copy] をクリックします。



3. [Copy to new image] ダイアログボックスで、新しいイメージの名前および説明を入力して、[OK] をクリックします。
4. [Images] ページで新しいイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit image] ウィザードの指示に従って操作します。ウィザードのヘルプは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. [Add] をクリックして、ウィザードの指示に従って操作します。ウィザードのヘルプは、「[最初のWindowsイメージを作成する](#)」を参照してください。

公開イメージに対して、ソフトウェアのアップデートなどの変更を加えるには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. アップデートするイメージの行で [Edit] をクリックし、[Confirm] をクリックします。これにより、アップデート用の新しいドラフトイメージが作成されます。
3. [Images] ページでドラフトイメージの状態が「Running」と表示されたら、[Edit] をクリックして、[Edit draft image] ウィザードの指示に従って操作します。
4. Edit Imageウィザードでイメージに接続して、展開する仮想デスクトップに必要なアップデート、設定、パッチ、そのほかのアプリケーションを追加します。
5. ドラフトイメージからログオフし、インストールウィザードの指示に従って操作します。新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新（リフレッシュ）ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

複数サーバーで構成されるグリッドで、サーバー上に格納されているイメージが一貫しないことが検出された場合は、問題のあるイメージを修復できます。この問題が発生すると、そのイメージの状態は「Broken」として表示され、イメージが修復されるまでそのイメージからデスクトップが生成されなくなります。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. [Status] 列の [Published] リンクをクリックし、次に [Fix] 列の下の  アイコンをクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

公開イメージのコピーをエクスポートして、それをXenDesktopのマスターイメージとして使用したり、ほかのVDI-in-a-Box環境にインポートしたりできます。公開イメージをエクスポートするには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Images] タブをクリックします。
2. エクスポートするイメージ名を選択します。[Image Properties] ダイアログボックスが開きます。
3. [Export] をクリックします。[Export Image] ダイアログボックスが開きます。
4. イメージのエクスポート先データストアを選択し、その仮想マシンに設定する名前を入力して[Export] をクリックします。
注：仮想マシンの名前に使用できる文字は、英数字、アンダースコア (_)、ハイフン (-)、ピリオド (.)、およびスペースです。
エクスポートが処理待ちであることを示すメッセージが表示されます。
5. エクスポートされる仮想マシンが [Images] ページに表示されます。進行状況を確認するには、[View] をクリックします。エクスポート時に発生するエラーを確認するには、[Recent Tasks and Events] セクションでそのエクスポートタスクを選択します。これにより、そのタスクの履歴情報が表示されます。エクスポートが完了すると、進行状況ボックスが閉じて処理の完了を示すメッセージが表示されます。
6. 作成された仮想マシンにログオンし、コントロールパネルの [プログラムの追加と削除] の一覧ですべてのCitrixコンポーネントが削除されていることを確認します。削除されていないCitrixコンポーネントがある場合は、この仮想マシンを使用

する前に手作業で削除しておく必要があります。

Desktop Agentの手作業によるインストール

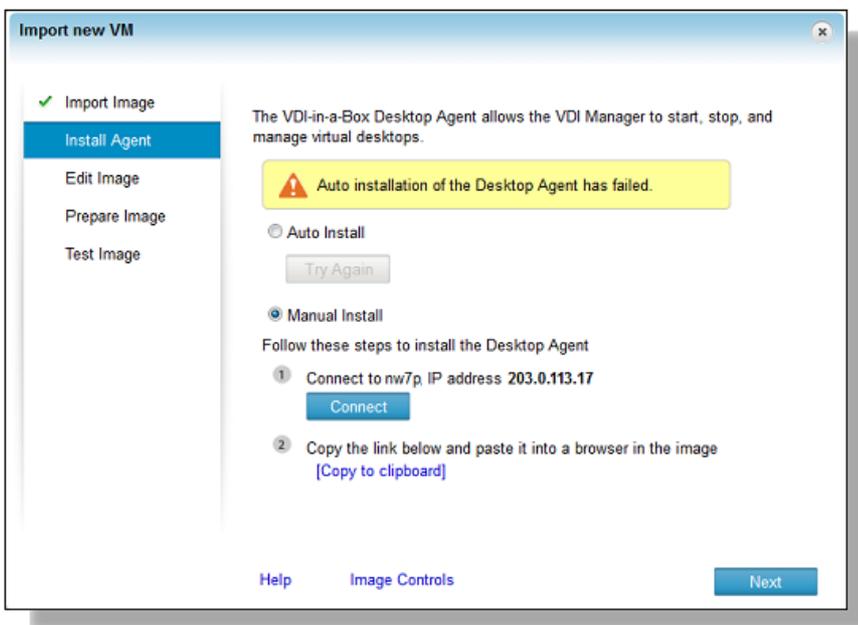
Sep 17, 2015

Citrix VDI-in-a-Box Agentは、マスターイメージから作成した各デスクトップ上で動作します。vdiManagerは、このエージェントを介してデスクトップと通信します。Desktop Agentは、VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) にドラフトイメージをインポートするときに自動的にインストールされます。既存のイメージ上のDesktop Agentは、VDI-in-a-Boxの移行時に自動的にアップデートされます。

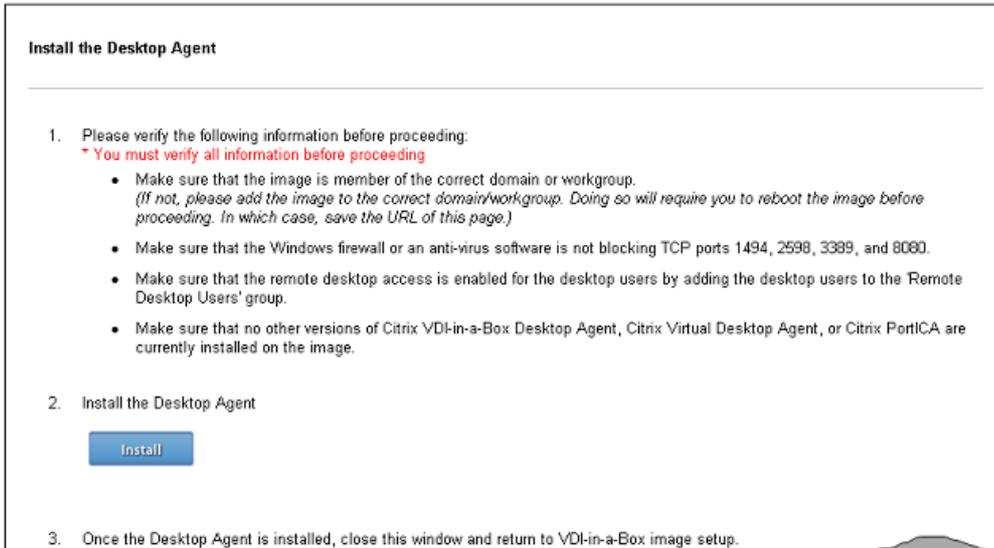
Desktop Agentの自動インストールに失敗した場合は、手作業でインストールできます。また、イメージをインポートするときに、Desktop Agentのインストールを選択することもできます。

以下の手順は、使用するWebブラウザーによって異なる場合があります。

1. [Manual Install] を選択します。Desktop Agentを手作業でインストールするための手順が表示されます。



2. [Copy to clipboard] をクリックして、Desktop AgentをダウンロードするためのURLをコピーし、[OK] をクリックします。URLは、「https://dt/dtagent」形式である必要があります。
3. [Connect] をクリックします。イメージのログオン用の画面が開きます。
4. デスクトップにログオンして、手順2.でコピーしたURLにWebブラウザーアクセスします。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
5. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。[Install the Desktop Agent] ページが開きます。



6. [Install the Desktop Agent] ページの手順1に表示される情報を確認します。
7. [Install] をクリックします。 [ファイルのダウンロード - セキュリティの警告] ダイアログボックスが開きます。
8. セキュリティ警告が表示された場合は受け入れます。Desktop Agentをインストールするためのウィザードが起動します。
9. [Install] をクリックします。

重要：インストール中に、 [Citrix VDI-in-a-Box Desktop Agent Installation and Configuration] ダイアログボックスが開きます。このダイアログボックスに表示されるメッセージが停止して、各インストール手順の成功または失敗が示されることがあります。このダイアログボックスでは、いずれかのボタンをクリックしたり、インストール処理を中断したりしないでください。インストールが完了すると、ダイアログボックスが閉じます。

Desktop Agentのインストール後、イメージが自動的に再起動します。

テンプレートの管理

Sep 17, 2015

このトピックでは、テンプレートを構成するときに選択できるオプションについて説明します。ここでは、画面に表示される順番に基づいて各オプションを説明します。

テンプレートを編集するには、[Templates] タブでテンプレートの名前をクリックします。編集が完了したら、[Save] をクリックします。

Template name、Image name、およびDescription

テンプレートの名前と説明を入力して、テンプレートの作成元のイメージを選択します。

テンプレートがパーソナルデスクトップ用である場合は、テンプレートに基づくイメージを変更できません。

Computer names : PrefixとSuffix

テンプレートから生成されるデスクトップに一定のパターンの名前が付けられるように、コンピューター名の先頭（プレフィックス）および末尾（サフィックス）に特定の語を追加します。

プレフィックスおよびサフィックスに追加できる語は、合計で15文字までです。サフィックスとして、1~4文字の数字を使用できます。

サフィックスの上位桁に「0」を使用でき、4桁まで指定できます（「0001」など）。サフィックスにより生成される番号は、仮想デスクトップの作成ごとに増分されます。たとえば、プレフィックスとして「Sales」、サフィックスとして「0000」を設定し、仮想デスクトップを2つ作成すると、「Sales0000」および「Sales0002」という名前が使用されます。サフィックスの上位桁に「0」を使用しない場合、生成される名前にも「0」が使用されません。たとえば、サフィックスとして「1」を設定すると、「Sales1」、「Sales2」、「Sales3」などの名前が使用されます。

メモリ

Windows 8、Windows 7、Windows Server 2012、およびWindows Server 2008 R2のデスクトップには、少なくとも1536MBのメモリを割り当てることをお勧めします。Windows XPのデスクトップには、少なくとも512MBのメモリを割り当てる必要があります（1GB以上を推奨）。

仮想CPU

各デスクトップに割り当てる仮想CPUコアの数を選択します。

Connecting local devices to the desktop

ユーザーデバイス上にローカルに装着された周辺機器に仮想デスクトップからアクセスできるようにするには、そのデバイスのチェックボックスをオンにします。次の点に注意してください。

- [Smart cards] チェックボックスをオンにすると、ユーザーがスマートカードを使用してデスクトップにアクセスしなければならなくなります。スマートカードによる認証なしにデスクトップにアクセスしようとすると、そのデスクトップはロックされます。
- [Other USB devices] チェックボックスをオンにすると、ローカルのUSBポートに接続されたWebカメラやスキャナーなどのデバイスを仮想デスクトップで使用できるようになります。この設定の変更は仮想デスクトップの起動時に適用されず、実行中の仮想デスクトップには適用されません。

色数

32ビットより低い色深度はWindows 7およびWindows XPのデスクトップでのみ使用できます。Windows 7のデスクトップで低い色深度を選択できるようにするには、まず以下のように従来のグラフィックモードのポリシーを有効にする必要があります。

- Active Directoryを使用する場合は、Citrixグループポリシーを設定してActive Directoryコンピューターに対して従来のグラフィックモードを有効にします。
- ワークグループを使用する場合は、イメージに以下のレジストリキーを設定します。
[HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Policies\Citrix\GraphicsPolicies] "LegacyGraphicsMode"=dword:00000001

Windows XPのデスクトップでは、低い色深度を選択できるようにするためにポリシーを設定する必要はありません。ボックスの一覧から該当する深度を選択するだけです。

Showing the connection toolbar

このチェックボックスをオンにすると、HDX接続でDesktop Viewerが表示され、全画面のRDP接続で接続バーが表示されます。この設定は、Windowsベースのデバイスからのユーザー接続にのみ適用されます。

Reset the activation timer (KMS clients)

キー管理サービス (KMS) のライセンス認証キーを持つ公開イメージでは、[Reset the activation timer (KMS clients)] を選択することをお勧めします。

KMSサーバーでデスクトップをアクティブ化する場合は、固有のクライアントマシンID (CMID) を持つデスクトップが25個必要です。固有のCMIDを持つデスクトップの数が25よりも少ない場合、KMSサーバーはいずれのデスクトップもアクティブ化しません。[Reset the activation timer (KMS clients)] チェックボックスをオンにすると、各デスクトップに固有のCMIDが設定されるようになります。

Maximum desktops

このテンプレートから展開可能なデスクトップの最大数を指定します。この数値により、ユーザーに同時に提供できるデスクトップの合計値が決まります。この数には、事前起動するデスクトップも含まれます。

Pre-started desktops

「事前起動デスクトップ (Pre-started Desktop)」とは、電源が入った状態でユーザーのログオンを待機するデスクトップを指します。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、常に5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2つのデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定したデスクトップの最大数に達するまで、この処理が継続されます。

自動起動デスクトップ数として1以上を指定しないと、ユーザーがそのデスクトップにアクセスできなくなります。

テスト段階では、デスクトップの最大数として2、事前起動デスクトップ数として1を設定することをお勧めします。

Pooled desktops

プールされるデスクトップが作成されます。このオプションを選択すると、以下のオプションが設定可能になります。既存のテンプレートを編集する場合は、プールされるデスクトップのテンプレートからパーソナルデスクトップのテンプレートに変更することはできないことに注意してください。

- Refresh desktop
ここでは、ユーザーのデスクトップを、テンプレートから生成した直後のクリーンな状態に復元 (リフレッシュ) するタイミングを指定します。
- On logout : ユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。ただし、管理者には適用されません。デバ

グなどの目的で管理者がデスクトップにログオンしてログオフしても、デスクトップはリフレッシュされません。

- **Scheduled** : 毎日、毎週、または毎月など、指定した日時にデスクトップが更新されます。使用中のデスクトップもスケジュールに基づいてリフレッシュするかどうかを指定することもできます。使用中のデスクトップをリフレッシュするオプションを選択しない場合は、指定した日時が経過した後にユーザーがログオフした時点でリフレッシュされます。このオプションは、複数の勤務シフトが存在する環境（トレーニングのための時間とヘルプデスクやセットアップのための時間など）などで使用できます。このような環境でログオフ時のリフレッシュを選択すると、シフトが入れ替わる時間帯に多くのユーザーがログオフするため、リフレッシュ処理による負荷が過大になることがあります。

- **Scheduled or on logout** : 指定した日時、およびユーザーがログオフするたびにデスクトップが更新されます。これはユーザーが長時間デスクトップにログオンする環境で役立ちます。

- **Manual** : デスクトップの更新を手作業で行います。この設定により、特定のユーザーに無期限に割り当てられる永続デスクトップ（静的デスクトップ）が生成されます。このデスクトップでは、ユーザーが追加したアプリケーションや変更した設定がログオフ後も保持されるため、通常のパーソナルコンピューターのようにデスクトップを使用できます。ただし、以下の制限があります。

- 基本イメージをアップデートしても、デスクトップを破棄および再作成しない限りユーザーのデスクトップはリフレッシュされません。
- 静的デスクトップは特定のサーバーに関連付けられ、ほかのサーバーには移動できません。このため、そのサーバーが停止するとユーザーがデスクトップにアクセスできなくなります。
- 静的デスクトップをテンプレートレベルにリフレッシュすることはできません。テンプレートからプロビジョニングされたそのほかのデスクトップとは異なり、個別にリフレッシュする必要があります。

これらの制限があるため、プールされるデスクトップを作成して手作業でリフレッシュするのではなく、パーソナルデスクトップを使用することをお勧めします。パーソナルデスクトップおよびそのベストプラクティスについては、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。

- **Do not reassign desktops 'On hold' to new users**

このオプションを選択すると、ユーザーがデスクトップからログオフしてもそのデスクトップが保持され、ほかのユーザーに割り当てられなくなります。そのユーザー用の保持されたデスクトップは、[Session] タブで「On Hold」状態として表示されます。同じユーザーが再接続すると、前回と同じデスクトップにログオンされ、デスクトップは「On Hold」状態からアクティブに変更されます。

- **Enable fast refresh of desktops**

このオプションはデフォルトで選択されており、ユーザーのログオフ後すぐにデスクトップのリフレッシュ処理が実行されます。このオプションは、デスクトップのリフレッシュに問題が生じた場合のトラブルシューティング時にのみオフにしてください。

このオプションは、手作業でリフレッシュされるデスクトップには適用されません。

- **Desktops follow users to other access devices**

このオプションはデフォルトで選択されます。ユーザーがデスクトップを切断して別のデバイスにログオンすると、同じデスクトップが表示されます。

ユーザーがログオンするたびに新規のデスクトップを必要とする環境では、このチェックボックスをオフにします。たとえば、汎用ユーザーモードを選択し、個人ユーザーより汎用ユーザーのためのテンプレートが必要な場合は、このチェックボックスをオフにすることによって、同じ汎用ユーザー名でログオンするユーザーに、必ず異なるデスクトップが表示されるようになります。ユーザーが切断して同じユーザー名で別のデバイスにログオンすると、新規のデスクトップが表示されます。汎用ユーザーアカウントの構成については、「[汎用ユーザーアカウントの構成](#)」を参照してください。

注 : VDI-in-a-Box 5.3以前のバージョンでテンプレートを作成した場合は、汎用ユーザーモードを有効にすると、このチェックボックスがデフォルトでオフになります。テンプレートを編集して汎用ユーザーより個人ユーザーに適切なテンプレートにするには、このチェックボックスをオンにします。

変更を加える前に、このテンプレートを使用するデスクトップで実行中のユーザーセッションがないことを確認してください。

Personal desktops

ユーザーがセッション中に行った変更内容が保持されるパーソナルデスクトップが作成されます。このオプションを選択すると、以下のオプションが設定可能になります。既存のテンプレートを編集する場合は、パーソナルデスクトップのテンプレートからプールされるデスクトップのテンプレートに変更することはできないことに注意してください。

- Personal disk size : ユーザーがインストールするアプリケーションやユーザーのプロファイル設定 (Profile management を使用しない場合) を格納するために十分なディスクサイズを設定してください。パーソナルディスクのサイズは、10~60GBで設定できます。

テンプレートを作成した後もパーソナルディスクのサイズを変更できますが、その変更は新たに作成されるパーソナルデスクトップにのみ反映され、既存のデスクトップに反映されないことに注意してください。既存のデスクトップのパーソナルディスクのサイズを変更する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136156>を参照してください。

パーソナルデスクトップおよびそのベストプラクティスについて詳しくは、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。

Make this the default template

このチェックボックスをオンにすると、このテンプレートがグリッドのデフォルトテンプレートとして設定されます。これにより、既存のデフォルトテンプレートの設定は無視されます。

デフォルトテンプレートとは、特定のテンプレートが割り当てられていないユーザーがログオンしたときに使用されるテンプレートで、このテンプレートを基にデスクトップが作成されます。デフォルトのテンプレートが設定されていないグリッドでは、ユーザーがログオンできなくなります。

デスクトップの管理

Sep 17, 2015

デスクトップを強制的にリフレッシュするには

プールデスクトップは、テンプレートで構成したポリシーに基づいて更新（リフレッシュ）されます。デスクトップを強制的にリフレッシュするには、次の手順に従います。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Desktops] タブで、[Summary] をクリックします。
2. 変更するテンプレートの行の [Refresh] 列で、ポリシーの設定値をクリックします。

The screenshot shows the VDI-in-a-Box management console. The top navigation bar includes 'Desktops', 'Images', 'Templates', 'Users', 'Servers', and 'Admin'. The 'Desktops' tab is selected, and the 'Summary' sub-tab is active. Below the navigation, there is a 'Grid Capacity' section with a progress bar showing 0% usage. A table titled 'Desktops' lists four templates with their respective status and refresh actions.

Template	Max	Prestart	In Use	On Hold	New	Starting	Broken	Refresh
Template_Windows_7_64_Personal	0	0	0	0	0	0	0	Personal
Template_Windows_7_64_Pooled (default)	0	0	0	0	0	0	0	On logout
Template_Windows_8_Blue_Personal	0	0	0	0	0	0	0	Personal
Template_Windows_8_Blue_Pooled	0	0	0	0	0	0	0	Scheduled
	0	0	0	0	0	0	0	

[Confirm] ダイアログボックスが開き、現在のポリシーの設定値が表示されます。

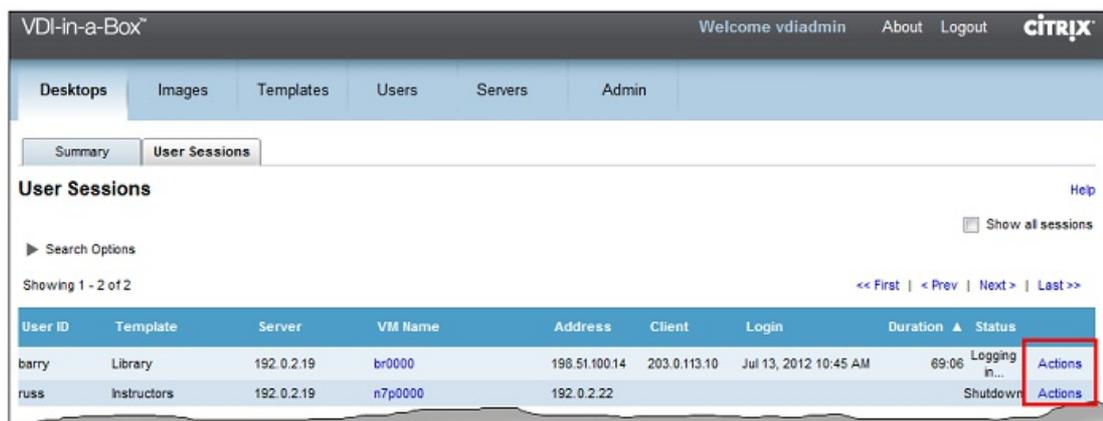
The 'Confirm' dialog box contains the following text: 'The refresh policy for the desktops provisioned from the "Template_Windows_8_Blue_Pooled" template is "Scheduled". The next refresh is scheduled for Nov 6, 2013 2:00 PM. Do you want to refresh the desktops now?'. There are two radio button options: 'Do not refresh desktops that are "in use" until logout' (which is selected) and 'Refresh all desktops including those "in use"'. At the bottom, there are 'Cancel' and 'Confirm' buttons.

3. ここで [Confirm] をクリックすると、現在使用されているデスクトップが直ちにリフレッシュされます。ポリシーの設定値に基づいてリフレッシュする場合は、[Cancel] をクリックします。

この方法でパーソナルデスクトップを強制的にリフレッシュすることはできないことに注意してください。使用中のパーソナルデスクトップを管理するには、[User Sessions]、[Actions] の順にクリックします。パーソナルデスクトップの更新についての全般的な情報については、「[パーソナルデスクトップの管理](#)」を参照してください。

デスクトップのログオフ、再起動、シャットダウン、修復、または破棄を行うには

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、[User Sessions] をクリックします。
2. デスクトップユーザーの行の [Actions] をクリックします。



[Actions] メニューが表示されます。



デスクトップの更新（リフレッシュ）ポリシーで [On logout] が設定されている場合、[Restart] と [Shut Down] はメニューに表示されません。ユーザーのシャドウについては「[ユーザーセッションの管理](#)」を参照してください。

3. 実行する操作を選択して、[Confirm] をクリックします。

破損したデスクトップを破棄するには

デスクトップの状態を検出できなくなると、その状態が「Broken」になり、ユーザーが使用できなくなります。デスクトップが破損する原因としては、以下が挙げられます。

- スタートアップ構成が存在しないか正しくない（プロダクトキーまたはドメイン資格情報が正しくないなど）ために、Windowsを起動できない。XenCenterなどのハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、このデスクトップがユーザー入力を待機していないかどうかを確認してください。
- サーバーに負荷がかかりすぎているために、新規デスクトップを起動できない。
- データストアに空きディスク領域がない。
- 使用可能なMACアドレスがない。
- テンプレートのイメージが削除されている。

破損したデスクトップを破棄する前に、問題を特定してデスクトップを修復し、破損したデスクトップを置き換えられるかどうかをテストしてください。

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、[Summary] をクリックします。または、[Servers] タブをクリックして、[Desktops] をクリックします。
2. [Broken] 列の数字のリンクをクリックして、[Destroy] をクリックします。
3. [Confirm] をクリックします。

パーソナルデスクトップの管理

Sep 17, 2015

パーソナルデスクトップ機能では、ユーザーに独自のアプリケーションのインストール、デスクトップ設定の変更、およびデータの格納を許可しながら、プールされたデスクトップを単一のイメージで管理できます。

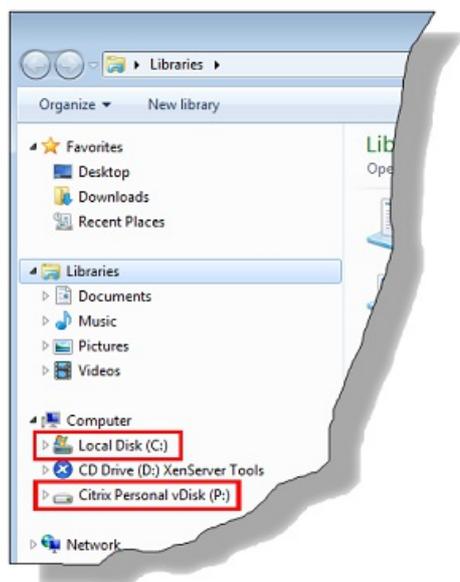
この機能は、Windows 8.xまたはWindows 7（32ビットおよび64ビット）を実行する公開イメージで使用可能です。

注：Windows 8.xのパーソナルデスクトップは、Microsoft Hyper-V Server 2008 R2ではサポートされません。

注：Windows 8.xのパーソナルデスクトップでは、ユーザーの初回ログオン時のみ5～10分かかる場合があります。これは、ユーザーの初回ログオン時にMetroアプリがインストールされるためです。

通常、プールされたデスクトップを更新（リフレッシュ）すると、ユーザーがカスタマイズした設定やインストールしたアプリケーションが失われます。これに対し、パーソナルデスクトップでは、ユーザーがセッション中に行った変更内容が保持されます。管理者は、ユーザーによるデスクトップのカスタマイズを許可しながら、基本イメージを容易に中央管理できます。

この機能は、パーソナルデスクトップの2つの独立した仮想ハードディスクである「Personal vDisk」と「公開イメージ」により実現されています。ユーザーによるプロファイルの変更やアプリケーションのインストールなどの変更内容は、Personal vDiskに保存されます。Personal vDiskに保存された内容はデスクトップの実行時に公開イメージの内容と統合され、ユーザーに一貫した操作環境が提供されます。ユーザーは、パーソナルデスクトップ上のWindowsエクスプローラーなどのアプリケーションでこれらの2つの仮想ディスクを表示できます。



VDI-in-a-Boxに付属のCitrix Profile managementなどのプロファイル管理ツールを使用して、プロファイルデータをNAS（Network-Attached Storage：ネットワークアタッチトストレージ）サーバー上に格納することをお勧めします。また、Profile managementを使用する場合は、パーソナルデスクトップでのプロファイルリダイレクト機能を無効にすることをお勧めします。これにより、プロファイルデータがProfile managementにのみ保存されるようになり、Personal vDiskを使用せずにそのバックアップコピーも排除できます。バックアップを作成するには、「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」を参照してください。プロファイルリダイレクト機能を無効にする方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX131553>を参照してください。

パーソナルデスクトップのプロビジョニング

VDI-in-a-Boxでは、常にテンプレートの構成に基づいてパーソナルデスクトップを事前起動することでこのデスクトップをプロビジョニングします。

1. 新しいデスクトップに関連付けられたクローンが作成されます。これは、テンプレートで指定されたイメージから作成されます。
2. 空のPersonal vDiskが作成されます。このPersonal vDiskは、インベントリプロセスによりクローンに関連付けられます。つまり、イメージのインベントリが作成され、Personal vDiskと同期されます。
3. パーソナルデスクトップが作成されます。このデスクトップは、イメージ、関連付けられたクローン、およびPersonal vDiskで構成されます。
4. パーソナルデスクトップが準備され、起動します。

ユーザーがこのパーソナルデスクトップに接続しようとする、VDI-in-a-BoxによりICAハンドルがユーザーデバイス側に送信され、ユーザーがログオンできるようになります。

パーソナルデスクトップを作成するには

1. 「VDI-in-a-Boxの導入」セクションを参照して、Windows 8またはWindows 7のイメージを作成します。このとき、[Pooled and personal desktops] を選択します。
パーソナルデスクトップ用のイメージを作成するときは、以下のベストプラクティスに従うことをお勧めします。
 - 公開イメージでは、Windows Updateによる自動更新を無効にします。その代わりに、これらのイメージを管理者が一元的に更新することで、環境全体での一貫性や永続性を維持できます。
 - アンチウイルスソフトウェアのチェック対象から、CtxPvD.exeとCtxPvDSvc.exe (C:\Program Files\Citrix\Personal vDisk\binにあります) を除外します。
インベントリ処理およびイメージの更新処理では、大量のファイル入出力が発生します。これらの処理では、大量のファイルが走査および作成されます。Personal vDiskのインベントリまたはイメージの更新処理中にアンチウイルスのチェックが有効になっていると、プロセスが非常に低速になる可能性があります。
2. 「VDI-in-a-Boxの導入」セクションを参照して、テンプレートを作成します。このとき、[Policies] ページで[Personal desktop] を選択します。パーソナルディスクのサイズとして、ユーザーがインストールするアプリケーションやユーザーのプロファイル設定 (Profile managementを使用しない場合) を格納するために十分なサイズを設定してください。パーソナルディスクのサイズは、4~60GBで設定できます。

テンプレートを作成した後もパーソナルディスクのサイズを変更できますが、その変更は新たに作成されるパーソナルデスクトップにのみ反映され、既存のデスクトップに反映されないことに注意してください。既存のデスクトップのパーソナルディスクのサイズを変更する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136156>を参照してください。

パーソナルデスクトップの更新

公開イメージに対する更新は、ユーザーがデスクトップからログオフしたときにパーソナルデスクトップに適用されます。このとき、Personal vDiskの内容は変更されません。ただし、パーソナルデスクトップのリフレッシュに1時間程度かかる場合があります。このため、パーソナルデスクトップで使用されるイメージの更新は、すべてのユーザーがパーソナルデスクトップからログオフした後のオフピーク時に行うことを強くお勧めします。これにより、メンテナンス後のダウンタイムによりユーザーが影響を受けることを避けることができます。

パーソナルデスクトップイメージを更新したら、そのイメージからプロビジョニングされるすべてのパーソナルデスクトップが最新バージョンにリフレッシュされていることを確認してください。イメージとPersonal vDiskのバージョンは一致している必要があります。

イメージのバージョンを確認するには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Servers] タブをクリックします。
2. [Images] をクリックします。
3. イメージのバージョンを確認します。現在のイメージは緑のインジケータで示されます。黄色のインジケータは、イ

メッセージが転送中であることを示します。

パーソナルデスクトップのPersonal vDiskのバージョンを確認するには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Desktops] タブをクリックします。
2. [User Sessions] タブをクリックします。
3. [Show all sessions] チェックボックスをオンにします。
4. 仮想マシン名をクリックします。
5. 画面をスクロールしてパーソナルディスクのバージョンを確認します。

パーソナルデスクトップでの共有ストレージの使用

Personal vDisk用のデータストアとして共有ストレージを使用して、可用性を向上できます。VDI-in-a-Boxおよびハイパーバイザーでの構成方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136080>を参照してください。

注：VDI-in-a-BoxをXenServerまたはWindows Server 2008ハイパーバイザー上で使用する環境では、共有ストレージを使用できません。

パーソナルデスクトップのバックアップと復元

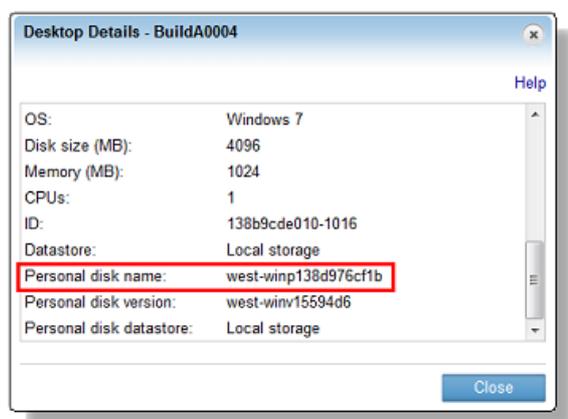
Sep 17, 2015

ユーザーのパーソナルデスクトップをバックアップして、ユーザーのプロファイルやアプリケーションを保護できます。バックアップを復元すると、公開デスクトップから新規に生成されたデスクトップにそのバックアップがアタッチ（接続）され、新しいパーソナルデスクトップが作成されます。

パーソナルデスクトップのバックアップを準備するには

以下の手順は、ハイパーバイザーとしてXenServer、Hyper-V、またはESXiを使用する環境で使用できます。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップのパーソナルディスク名を確認します。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、そのパーソナルデスクトップの行の [VM Name] をクリックします。表示されたパーソナルディスク名を控えたら、 [Close] をクリックします。



2. パーソナルデスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、そのパーソナルデスクトップの行の [Actions] をクリックし、 [Shutdown] をクリックします。

XenServerでパーソナルデスクトップをバックアップするには

Citrix XenCenterで、以下の手順を行います。

1. パーソナルデスクトップを、XenServerからアクセス可能な場所にエクスポートします。
2. VDI-in-a-Boxグリッド内のほかのサーバーで、エクスポートされたOVFまたはXVAファイルをインポートします。
3. 公開イメージからパーソナルディスクをデタッチします。その後で、公開イメージを削除します。このパーソナルディスクはイメージにアタッチされないまま保存され、必要に応じて使用できます。

Hyper-Vでパーソナルデスクトップをバックアップするには

Hyper-Vを管理するWindowsベースのコンピューターで、以下の手順を行います。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップをホストしているHyper-VサーバーのCドライブをマップします。
2. パーソナルデスクトップの復元先のHyper-VサーバーのCドライブをマップします。
3. パーソナルディスクイメージを格納しているデータストアから、復元先のサーバーにパーソナルディスクをコピーします。
注：パーソナルディスクは、デフォルトでC:\ProgramData\Citrix\VIAB\PVDに格納されます。

ESXiでパーソナルデスクトップをバックアップするには

VMware vSphereで、以下の手順を行います。

1. バックアップ対象のパーソナルデスクトップをホストしているサーバーと復元先のサーバーに個別のvSphereインスタンスを接続します。
2. パーソナルデスクトップをホストしているサーバーのPVDフォルダーから、パーソナルディスクをダウンロードします。2つのファイル (<PersonalDiskName>.vmdkおよび<PersonalDiskName>-flat.vmdk) がダウンロードされます。
3. ダウンロードした2つのファイルを、バックアップの復元先サーバーのPVDフォルダーにアップロードします。

パーソナルディスクを復元するには

以下の手順は、ハイパーバイザーとしてXenServer、Hyper-V、またはESXiを使用する環境で使用できます。

1. vdiManager管理コンソールの [Desktops] タブで、 [User Sessions] ページを開きます。
2. 破損したデスクトップの行の [Actions] をクリックし、 [Repair] をクリックします。選択したパーソナルデスクトップのバックアップコピーを格納しているデータストアが検索されます。データストアが検索されると、破損したコピーの破棄および検索されたコピーでの置き換えによるパーソナルディスクの修復処理を確認するメッセージが表示されます。
3. [Confirm] をクリックします。格納されていたサーバー上にバックアップコピーが復元されます。

MACアドレスのプールからデスクトップを生成する

Sep 17, 2015

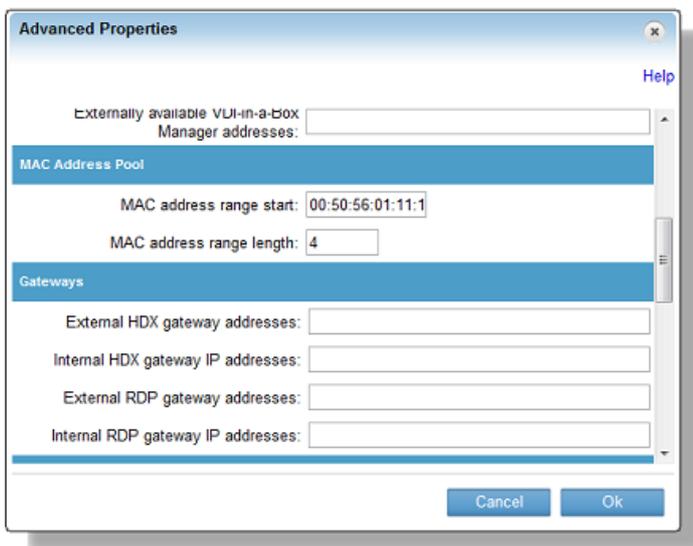
DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) ポリシーによりIPアドレスがMAC (Media Access Control) アドレスに割り当てられる場合、または特定の範囲のMACアドレスのみにIPアドレスが割り当てられる環境では、特定の範囲のMACアドレスを持つデスクトップが生成されるように設定できます。この「MACアドレスプール」は、そのVDI-in-a-Boxグリッド内で生成されるすべてのデスクトップ、ドラフトイメージ、およびテストイメージに適用されます。

前提条件

- グリッドで生成されるすべてのデスクトップおよびドラフトイメージに十分な数のアドレスがMACアドレスプールに追加されている。
- DHCPなどの外部システムが、MACアドレスプールに追加されているすべてのアドレスを処理できる。MACアドレスプールのアドレスは、デスクトップにランダムに割り当てられます。

注：VDI-in-a-Boxでは、割り当てられたMACアドレスがグリッド内で一意であっても、ネットワーク上で一意かどうかは検証されません。グリッドからサーバーを削除する場合、元のグリッドのデスクトップと同じMACアドレスがそのサーバー上のデスクトップに再度割り当てられることがあります。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [MAC Address Pool] セクションまでスクロールして、MACアドレス範囲の開始アドレスおよび長さを指定します。MACアドレスの範囲は、「00:50:56:[0-3]x:xx:xx」形式で指定します。



ユーザーセッションの管理

Sep 17, 2015

管理者は、ユーザーセッションをさまざまな側面から管理できます。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] タブで [Advanced Properties] をクリックして、[User Session] セクションまでスクロールします。
2. 以下の手順でユーザーセッションをカスタマイズします。
 - デスクトップウィンドウのサイズを変更するには、[Desktop session default width] および [Desktop session default height] を使用します。デフォルトでは、デスクトップが全画面モードで開きます。これらのプロパティは、Citrix Receiverによる接続には適用されません。
 - デスクトップへのログオン時にパスワードの入力を要求する場合は、[Require users to re-enter password on Windows logon screen] チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。
 - Javaデスクトップクライアントのユーザーの資格情報を保存する場合は、[Retain user credentials in the VDI-in-a-Box Java Desktop Client] チェックボックスをオンにします。デフォルトでは、このチェックボックスはオフになっています。このため、ユーザーがログオンした後でその資格情報が消去されます。
 - アイドル状態のユーザーセッションを自動的に終了するまでの時間 (分) を指定する場合は、[Log off idle user session from the web console] を使用します。デフォルトでは、5分が設定されています。
 - 「Active」または「On Hold」の状態のデスクトップをユーザーが再起動できないようにする場合は、[Users can restart "active" or "on hold" desktops assigned to them] チェックボックスをオフにします。この設定項目は、デフォルトで有効になっています。
3. 設定を保存するには、[OK] をクリックします。

セッションのシャドウ機能を使用してユーザーを支援する

トラブルシューティングのため、リモートアシスタンスを使用してユーザーのデスクトップ画面を共有し、ユーザーの操作をシャドウすることができます。

注：Windows XPのデスクトップについてはセッションのシャドウはサポートされません。

リモートアシスタンスをデスクトップで実行するには、グループポリシーで [要請されたりモートアシスタンス設定を構成する] 設定を有効にするか、未構成のままにしておく必要があります。

リモートアシスタンスを起動するには

1. WindowsデスクトップでvdiManager管理コンソールを起動します。
2. [Desktops] タブで [User Sessions] を選択します。
3. 関連するセッションの [Actions] をクリックし、[Shadow] をクリックします。
注：管理者がセッションをシャドウするには、そのセッションにユーザーが接続している必要があります。
4. 接続が開始されると、.msrcincidentファイルの保存を確認するダイアログボックスが開きます。
5. .msrcincidentファイルがデフォルトで選択されていない場合は、Windowsリモートアシスタンスのビューアーで開きます。
6. vdiManager管理コンソールに表示されるアクセスパスワードを記録します。
7. Windowsリモートアシスタンスのビューアーにアクセスパスワードを入力します。ユーザーのデスクトップに、確認のメッセージが表示されます。
8. セッションのシャドウを許可するため、[Yes] をクリックするようにユーザーに指示します。
9. ユーザーがマウスやキーボードの制御を許可すると、管理者がシャドウセッションを制御できるようになります。

VDI-in-a-Boxアプライアンスへのログオン

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxアプライアンスに直接ログオンするには、ハイパーバイザーの管理コンソールや、PuTTYなどのSSH (Secure Shell) クライアントを使用します。VDI-in-a-Boxアプライアンスにログオンすると、以下のことが可能になります。

- アプライアンスのパスワードを変更する。
- トラブルシューティング用の詳細なログを入手する。

アプライアンスに初期設定されている資格情報は、以下のとおりです。

- ユーザー名 : kvm
- パスワード : kaviza123

実稼働環境で使用する場合は、このパスワードを変更してください。ユーザー名kvmおよびrootの初期設定パスワード (kaviza123) を変更するには、これらのユーザー名でログオンしてpasswdコマンドを使用します。

重要 : パスワードを変更する場合は、グリッド内のすべてのVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) でも変更する必要があります。パスワードは、グリッドではなく各vdiManagerアプライアンスに関連付けられます。

VDI-in-a-Boxアプライアンスのパスワードを変更するには

1. ハイパーバイザーのコンソールまたはSSHクライアントでvdiManagerを開きます。
2. パスワードを変更するアカウントを使用して、vdiManagerにログオンします。
3. コマンドプロンプトで、「passwd」と入力してEnterキーを押します。
4. 画面の指示に従って、現在のパスワードを入力してEnterキーを押します。
5. 画面の指示に従って、新しいパスワードを入力してEnterキーを押します。
6. 画面の指示に従って、新しいパスワードを再度入力してEnterキーを押します。パスワードが正しく変更されたことを示すメッセージが表示されます。

サーバーの管理

Sep 17, 2015

サーバーパフォーマンスの管理

管理者は、サーバーのパフォーマンスをさまざまな側面から管理できます。

1. vdiManager管理コンソールの **[Admin]** タブで **[Advanced Properties]** をクリックして、**[Miscellaneous]** セクションまでスクロールします。
2. サーバーのパフォーマンスを最適化するには、以下のプロパティを使用します。
 - 各サーバーに割り当て可能な最大負荷を設定するには、**[Max server load (90%)]** を使用します。障害が発生したサーバー上のデスクトップ負荷がグリッド内のほかのサーバーに移動する場合でも、この最大負荷を超えることはありません。デフォルトでは、90%が指定されています。
 - 各サーバーが同時に起動できるデスクトップの最大キャパシティを設定するには、**[Max number of starting desktops]** を使用します。新しいデスクトップの作成により、起動するデスクトップの数がこの設定値を超える場合、新しいデスクトップの起動は後回しになります。これにより、過剰な数のデスクトップを起動することによるパフォーマンスの問題を避けることができます。デフォルトでは0が指定されており、同時に起動できるデスクトップの数に制限はありません。
 - 各サーバーが同時に起動できるパーソナルデスクトップの最大数を設定するには、**[Max number of starting personal desktops]** を使用します。新しいデスクトップの作成により、起動するデスクトップの数がこの設定値を超える場合、新しいデスクトップの起動は後回しになります。これにより、過剰な数のパーソナルデスクトップを基本イメージに再統合することによるパフォーマンスの問題を避けることができます。
3. 設定を保存するには、**[OK]** をクリックします。

複数のデータストアにデータを格納する

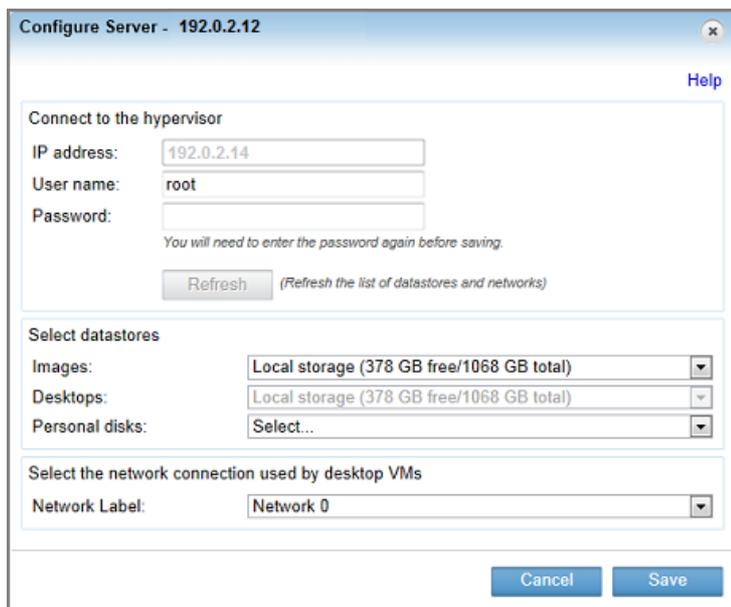
VDI-in-a-Boxにはフレキシブルなデータストアオプションが用意されており、展開環境に応じてパフォーマンスを最適化できます。

- デフォルトでは、単一のデータストアにイメージ、デスクトップ、およびPersonal vDisk (パーソナルデスクトップで使用されるユーザー固有のデータおよびアプリケーション) が格納されます。使用されるデータストアは、グリッドの初回構成時に指定します。
- Microsoft Hyper-V、VMware ESXi、およびVMware vSphereでは、3つのデータストアを構成することもできます。これにより、イメージ、デスクトップ、およびPersonal vDiskを個別のストレージに格納することが可能になります。
- XenServerでは、2つのデータストアを構成できます。この場合、デスクトップとイメージを同じストレージに格納し、Personal vDiskを専用のストレージに格納してください。

重要: データストアを変更しても、データは移動しません。参照ポイントは古いデータストア内のオブジェクトに対して保たれ、オブジェクトは削除されません。データストアの変更は慎重に行い、頻繁には変更しないでください。

1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの **[Admin]** ページで、**[Advanced Properties]** をクリックします。
2. **[Miscellaneous]** セクションまでスクロールし、**[Enable multiple datastores]**、**[OK]** の順にクリックします。
3. **[Servers]** タブをクリックし、変更するサーバーをクリックします。 **[Server Properties]** ダイアログボックスが開きます。
4. **[Configure]** をクリックします。 **[Configure Server]** ダイアログボックスが開きます。
5. **[Select datastores]** セクションで、イメージ、デスクトップ、およびPersonal vDisk用のデータストアを選択します。

注: XenServerではデスクトップとイメージを同一データストア上に格納する必要があるため、デスクトップに個別のデータストアを選択するためのオプションは選択できません。



資格情報の変更に伴うサーバー構成の更新

ハイパーバイザー、Active Directory、またはドメインコントローラーの資格情報を変更した場合は、VDI-in-a-Boxサーバーの構成パラメーターを直ちに更新する必要があります。アカウントの資格情報が定期的に変更される環境では、固定されているアカウントを使用することをお勧めします。

コンポーネント	vdiManager管理コンソールでの更新手順	変更しない場合の影響
ハイパーバイザーの資格情報	[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Configure] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがハイパーバイザーと通信できなくなります。
ユーザーのActive Directoryまたはドメインコントローラーの資格情報	[User] タブをクリックし、[Configure] をクリックします。	VDI-in-a-Boxがユーザーを認証できなくなります。
コンピューターのActive Directoryまたはドメインコントローラーの資格情報	[Admin] ページで、[Additional Domain for Desktops] をクリックします。ユーザーとコンピューターのドメインを分離した場合 (「Active Directory環境でのVDI-in-a-Boxの使用」参照) は [Additional Domain for Desktops] を使用します。	VDI-in-a-Boxがコンピューターを認証できなくなります。

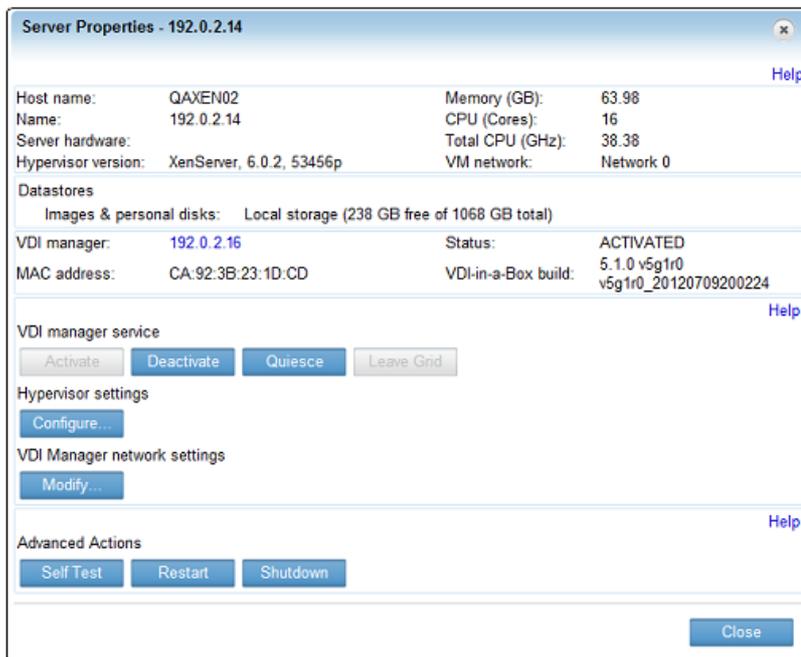
ハイパーバイザーアドレスの更新

VDI-in-a-Box環境で使用しているハイパーバイザーのIPアドレスが変更された場合は、vdiManagerでのアドレス設定を変更する必要があります。これを行わないと、VDI-in-a-Boxが正しく機能しなくなります。

- リフレッシュポリシーとして [Manual] が選択されたデスクトップ (静的デスクトップ) を除く、すべてのプールデスクトップを破棄します。
 - この処理の実行中はデスクトップを使用できなくなるため、ダウンタイムについてユーザーに通知しておきます。
 - vdiManagerコンソールにログオンします。

3. プールデスクトップの各テンプレートで、事前起動デスクトップの数を0に設定します。これを行うには、[Templates] タブでテンプレート名をクリックし、[Next] をクリックします。次に、[Pre-started desktops] で「0」と入力し、[Save] をクリックします。
2. すべてのドラフトイメージを公開するか破棄します。次の手順に進む前に、転送されるイメージがないことを確認します。
 1. [Images] タブをクリックします。
 2. ドラフトイメージやテストイメージが表示されていないことを確認します。
3. すべてのパーソナルデスクトップ（ユーザーによる変更内容がPersonal vDiskに保持されるデスクトップ）および静的デスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブで [User Sessions] をクリックして、各デスクトップの [Actions] をクリックし、[Shutdown] をクリックします。
4. サーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブでサーバーをクリックし、[Deactivate] をクリッ

クします。



5. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
6. ハイパーバイザーのアドレスをハイパーバイザーレベルで変更します。
7. vdiManager管理コンソールの [Servers] タブでサーバーをクリックし、[Hypervisor Settings] の下の [Configure] をクリックします。
8. 既存のIPアドレスを削除して、新しいアドレス、およびパスワードを入力して保存します。
9. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
10. サーバーをアクティブ化します。これを行うには、[Servers] タブでサーバーをクリックして、[Activate] をクリックします。
11. vdiManagerが正しく動作していることを確認するには、[Advanced Actions] の下の [Self Test] をクリックします。「Server checks out fine」というメッセージが表示されます。
12. プールデスクトップをプロビジョニングします。これを行うには、プールデスクトップの各テンプレートについて、[Templates] タブでテンプレート名をクリックし、[Next] をクリックします。次に、[Pre-started desktops] で事前起動デスクトップの数を指定して、[Save] をクリックします。
13. パーソナルデスクトップを再起動します。これを行うには、[Desktops] タブで [User Sessions] をクリックして、各パーソナルデスクトップの [Actions] をクリックし、[Restart] をクリックします。

グリッドの管理

Sep 17, 2015

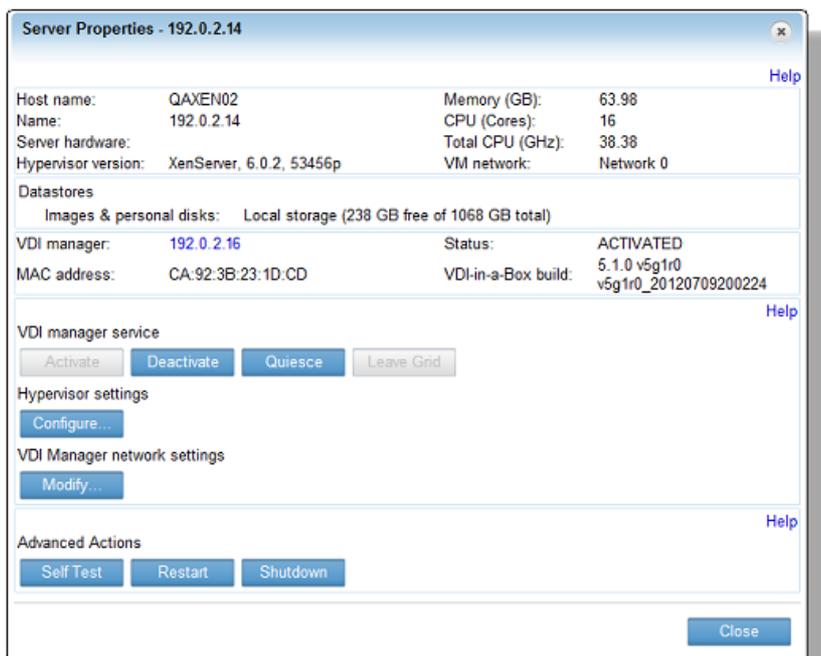
グリッドにサーバーを追加するには

1. vdiManagerアプライアンスをインポートして起動します。
2. vdiManagerのIPアドレスを書き留めて、WebブラウザからvdiManager管理コンソール (<https://IPaddress/admin>) にログインします。
3. VDI-in-a-Box Initial Set upウィザードの指示に従って、ハイパーバイザーをセットアップして、グリッドに追加します（「[VDI-in-a-Boxの導入](#)」参照）。ほかのサーバー上のデスクトップは、新規サーバーに移行されません。ポリシーの要件に基づいて、必要に応じてデスクトップが新規サーバー上に作成されます。

グリッドからサーバーを削除するには

グリッドからサーバーを削除すると、そのサーバーにより別のグリッドが作成されます。これにより、元のグリッド内のサーバーから切断され、負荷を共有しなくなります。

1. 削除するサーバーを非アクティブにして、そのサーバー上で実行されているデスクトップをすべて削除します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックします。



2. [Confirm] をクリックします。
3. サーバーの状態が「DEACTIVATED」に変わったら、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Leave Grid] をクリックします。

グリッドのVDI-in-a-Boxソフトウェアまたはライセンスをアップグレードするには

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックし

て、[OK] をクリックします。

2. [Admin] ページで、[Grid and License Upgrade] をクリックします。[Grid and License Upgrade] ダイアログボックスが開きます。
3. [Choose File] をクリックし、アップグレードまたはライセンスファイルを指定して、[Open] をクリックします。
4. [Submit] をクリックします。アップグレードが完了すると、サーバーの状態が「Success」に変わります。
5. メッセージが表示されたら、vdiManagerにログオンします。
6. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

グリッドをメンテナンスできるようにするには

1. メンテナンスの日時とログアウト期限をユーザーに通知します。
2. パーソナルデスクトップのバックアップを作成しておくことをお勧めします（「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」を参照）。
3. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
4. すべてのユーザーがログオフし、パーソナルデスクトップのバックアップが完了したら、グリッド内のすべてのサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Deactivate] をクリックし、[Confirm] をクリックします。サーバーを非アクティブにすると、使用中のデスクトップを含むすべてのデスクトップが削除され、サーバーが直ちにシャットダウンされるので、デスクトップのプロビジョニングは停止します。パーソナルデスクトップだけが「On Hold」の状態に残ります。
5. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、パーソナルデスクトップ仮想マシンの電源を切ります。対象のデスクトップセッションを特定するには、[Desktops] > [User Sessions] タブに移動し、[Status] 列で「On Hold」のエントリを参照します。
6. vdiManager仮想マシンをシャットダウンします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Shutdown] をクリックします。これで、ハイパーバイザーサーバーのメンテナンスを実行することができます。

メンテナンス後に再開するには

1. ハイパーバイザーの管理コンソールを使用して、すべてのvdiManager仮想マシンの電源を入れます。
2. すべてのvdiManagerが起動したら、vdiManager管理コンソールにログオンし、グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。[Servers] タブの [Recent Tasks and Events] セクションに、各サーバーについて「Server checks out fine」というメッセージが表示されます。
3. 各サーバーをアクティブ化します。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Activate] をクリックします。

vdiManagerに静的アドレスを割り当てるには

前提条件

- まだ割り当てられていない静的IPアドレスを指定する必要があります。
1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
 2. デスクトップを実行しないようにサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして [Deactivate] をクリックし、さらに [Confirm] をクリックします。
 3. サーバー上で実行されているドラフトデスクトップまたはテストデスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブの [User Sessions] ページで、各デスクトップの行の [Actions] をクリックして [Shutdown] を

クリックし、さらに [Confirm] をクリックします。

4. [Servers] タブのサーバー一覧でサーバー名 (IPアドレス) をクリックして、[Modify] をクリックします。
5. [VDI-in-a-Box Manager Network Settings] ダイアログボックスで、[Static IP configuration] をクリックし、静的IPアドレスを入力して [OK] をクリックします。 [Notification] ダイアログボックスが開き、ネットワーク構成の変更により vdiManager が再起動されたことを示すメッセージが表示されます。
6. [Close] をクリックします。
7. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

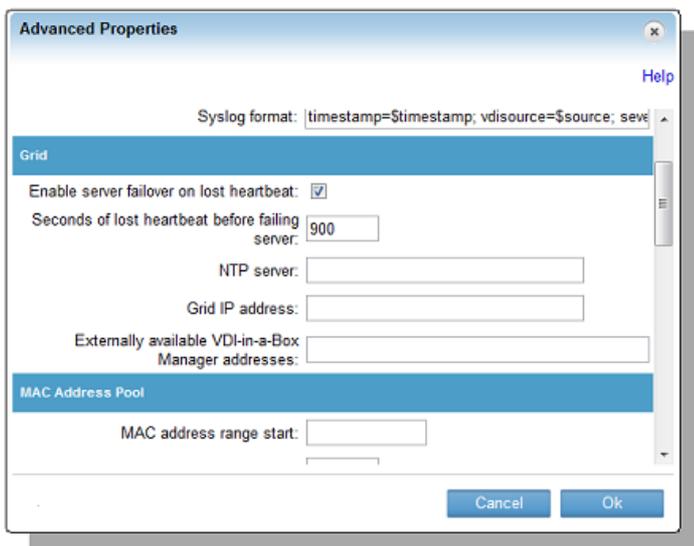
グリッド用の仮想IPアドレスによる高可用性を提供するには

ユーザーデバイスからグリッド内の特定のサーバーのIPアドレス経由で仮想デスクトップにアクセスさせる代わりに、グリッドに静的な単一の仮想IPアドレスを割り当てることができます。この仮想IPアドレスへのアクセス要求は、そのグリッドのプライマリサーバーに転送されます。プライマリサーバーに障害が発生している場合は、グリッド内のほかのサーバーがそのIPアドレスへの要求を処理します。

グリッド用の仮想IPアドレスは、グリッド内のほかのサーバーと同じサブネットから選択した静的なアドレスである必要があります。

グリッド用の仮想IPアドレスを使用して管理コンソールにログインすることはできません。

1. [Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Grid] セクションの [Grid IP address] ボックスで、グリッドに割り当てる仮想IPアドレスを入力して、[OK] をクリックします。



vdManagerを工場出荷時の設定にリセットするには

vdManagerを工場出荷時の設定にリセットすると、元に戻すことはできません。これにより、グリッドからすべてのデスクトップ、テンプレート、イメージ、および環境情報が削除され、ハイパーバイザーのデータストアに物理的に格納されている基本イメージファイルが削除されます。

1. リセットするサーバーのvdManager管理コンソールにログインします。
2. サーバーをグリッドから削除します。グリッド内のサーバーを工場出荷時の設定にリセットすることはできません。

3. [Admin] タブで、[Reset Server] をクリックします。リセットが完了すると、vdiManager管理コンソールからログオフされます。次にログオンしたときに、[Welcome to VDI-in-a-Box] ページが開きます。vdiManagerのセットアップについて詳しくは、「[VDI-in-a-Boxの導入](#)」を参照してください。

サーバーからvdiManagerを削除するには

1. サーバーがグリッドに属している場合は、グリッドから削除します。
2. vdiManagerを工場出荷時の設定にリセットします。
3. ハイパーバイザーの管理コンソールでvdiManager仮想マシンをシャットダウンし、ホストから削除します。詳しくは、使用するハイパーバイザーのドキュメントを参照してください。

グリッド内のサーバーの日時設定を同期するには

グリッド内のすべてのvdiManagerのシステムクロックを、ネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバーを使用して同期させることができます。これにより、ログに記録されるタイムスタンプの一貫性が保証されます。

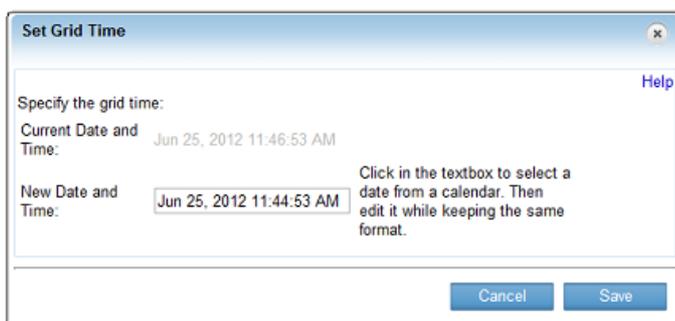
1. [Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Grid] セクションの [NTP server] ボックスで、ネットワークタイムプロトコル (NTP) サーバーのIPアドレスを入力して、[OK] をクリックします。グリッド内のすべてのサーバーのシステムクロックが、1時間以内に同期されます。これ以降、この同期化が1時間ごとに実行されます。
3. ハイパーバイザー側でも、手順2.で指定したNTPサーバーを指定します。詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX134279>を参照してください。

グリッド通信および転送プロトコル用の日時を設定するには

デスクトップの更新 (リフレッシュ) スケジュールの処理など、グリッド内の通信において一貫した時間を使用することは重要です。デフォルトでは、グリッドの最初のサーバーのシステムクロックに基づいてグリッド時間 (Grid Time) が決定されます。グリッド時間は特定のシステムクロックに関連付けられず、管理者が必要に応じて設定できます。グリッド時間は、24時間ごとにそのグリッド内のすべてのサーバー間で同期されます。

注：NTPサーバーによる同期を有効にすると、この同期化によりグリッド時間を変更される場合があります。サーバー間の時間の相違はグリッド時間の同期により自動的に解消されますが、NTPサーバーによる同期を有効にしたら、その直後および1時間後にグリッド時間を確認して、必要に応じて再設定することをお勧めします。

1. [Admin] タブで、[Grid Time] をクリックします。[Set Grid Time] ダイアログボックスが開きます。



2. 現在の日時を確認します。変更が必要な場合は [New Date and Time] ボックスをクリックし、表示されるカレンダーで日付を指定します。

注：日時は「mmm dd, yyyy hh:mm:ss [AM|PM]」形式で指定する必要があります。

3. 日付を変更した場合は、必要に応じて時刻を指定します。

4. [Save] をクリックします。

Active Directory環境でのVDI-in-a-Boxの使用

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxには、2つのユーザー認証オプションが用意されています。ワークグループモードでは、VDI-in-a-Boxの組み込みのユーザーデータベースが使用されます。Active Directoryモードでは、既存のActive Directory環境が使用されます。このトピックでは、Active Directory環境でのVDI-in-a-Boxの使用方法について説明します。

ユーザーとグループ

Active Directory環境でVDI-in-a-Boxを使用する場合は、ユーザーを常にActive Directoryで管理します。通常、ほとんどのユーザーはActive Directoryのセキュリティグループに属しています。このため、これらのセキュリティグループをVDI-in-a-Boxに追加して、デスクトップテンプレートを個々のユーザーアカウントではなくこれらのセキュリティグループに割り当てることができます。VDI-in-a-Boxでは、テンプレートをグループとユーザーの両方に割り当てることができます。詳しくは、「[ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)」を参照してください。

少数のユーザーしかデスクトップにアクセスしないテスト環境などでは、個々のユーザーアカウントをVDI-in-a-Boxに追加できます。また、実稼働環境でもユーザー数が20人以下である場合は、セキュリティグループを使用せずに個々のユーザーを追加しても管理可能かもしれません。ただし、これは推奨されません。Active Directoryでは、ユーザーを集中的に管理および制御できます。このため、Active DirectoryとVDI-in-a-Boxで個別にユーザーを管理するのは効率的ではありません。

VDI-in-a-Boxでは、Active Directoryのデフォルトのドメインアカウントおよびネストしたグループがサポートされます。

- Active Directoryの組み込みセキュリティグループとユーザーアカウントをVDI-in-a-Boxに追加できます。VDI-in-a-Boxで同じデスクトップテンプレートをすべてのユーザーに提供する場合に便利です。Domain UsersグループをVDI-in-a-Boxに追加して、このグループに1つのデスクトップテンプレートを割り当てます。同様に、Administrator、Domain Adminsなどほかの組み込みアカウントにマシンカタログを割り当てることもできます。
- ユーザーが属しているグループがほかのグループに属している場合は、ネストしたグループのサポートを使用できます。VDI-in-a-Boxですべてのメンバーユーザーに同じデスクトップテンプレートを割り当てる場合は、対象のすべてのグループおよびユーザーアカウントを含んでいるグループを追加します。たとえば、Salesというグループに各事業所のグループTokyo Sales、Nagoya Sales、Osaka Salesが属しており、その各グループに複数の営業ユーザーアカウントが含まれています。この場合、すべての事業所の営業部ユーザーに同じデスクトップを割り当てるには、SalesグループをVDI-in-a-Boxに追加して、このグループに1つのデスクトップテンプレートを割り当てます。これにより、Salesグループに属するすべてのグループおよびユーザーが同じデスクトップテンプレートにアクセスできます。

VDI-in-a-Boxによって、Active Directoryのユーザーおよびグループオブジェクトの追加、更新、または削除が実行されることはありません。Active Directoryのユーザーおよびグループに対する操作は読み取りのみです。

コンピューターオブジェクト

VDI-in-a-Boxの各デスクトップでは、信頼関係が存在してユーザーを認証できるように、Active Directoryのコンピューターオブジェクトおよびアカウントが必要です。コンピューターオブジェクトはドラフトイメージをテストするときにも作成されますが、このオブジェクトはイメージの公開時に削除されます。

ドメインコントローラーを除くすべてのコンピューターオブジェクトは、デフォルトでActive DirectoryのComputersコンテナ内に配置されます。VDI-in-a-Boxのデスクトップには、新しい組織単位 (OU) を作成することをお勧めします。これにより、仮想デスクトップに対して異なるグループポリシーを適用できるようになります。VDI-in-a-Boxのデスクトップは、イメージレベルで異なるOUに配置できます。管理上の変更やテスト環境での必要に応じて、各イメージ用に異なるOUおよび子OUを作成できます。

VDI-in-a-Boxでイメージを準備するときに、識別名 (DN) を指定できます。たとえば、ドメイン「company.com」で

「VDIdesktops」という名前のOUを作成した場合、OUのフィールドにDNを入力できます。

OU=VDIdesktops,DC=company,DC=com

VDI-in-a-BoxがコンピューターオブジェクトをActive Directoryに追加することはありません。これはデスクトップをドメインに追加するときに、デスクトップにより実行されます。VDI-in-a-BoxはActive Directoryからコンピューターオブジェクトを削除しますが、削除するのは後のデスクトップで再使用されない一時的なコンピューターオブジェクトのみです。

グループポリシー

VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップにグループポリシーを適用できます。ただし、一部のグループポリシーオブジェクトにより、VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップが正しく動作しなくなることがあります。たとえば、グループポリシーでTCPポート1494と2598を無効にすると、HDXによるデスクトップの接続に失敗します。

VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップでの問題を避けるには、不適切なグループポリシーが継承されないようにする必要があります。組織のITポリシーやセキュリティポリシーに準拠したまま、仮想デスクトップには必要最小限のポリシーだけを適用してください。

グループポリシーに関する問題を解決するには、Microsoft GPOで推奨される手順に従ってください。ポリシーの結果セット (RSOP : Resultant Set of Policy) やGPResultなどのツールを使用すると、グループポリシーに関する多くの問題の原因を特定できます。

移動ユーザープロファイル

Active Directoryは、「移動プロファイル」を提供するためにも使用できます。これにより、ユーザーのアプリケーション構成とマイドキュメントフォルダーをデスクトップとは別に集中管理できます。Citrix Profile managementを使用してVDI-in-a-Boxユーザーのプロファイルを管理することもできますが、移動プロファイルの方が適している場合があります。

フォレストとドメインの信頼関係

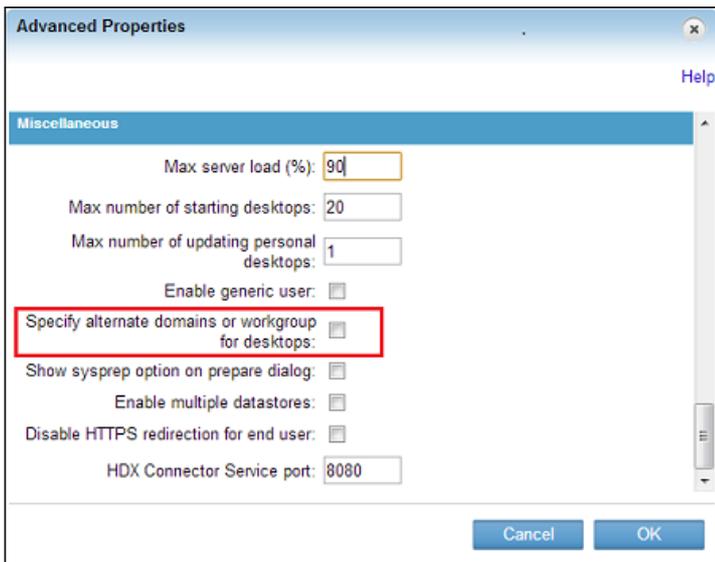
デスクトップとユーザーで同じドメインを使用したり、(コンピューターとユーザーに複数のドメインを使用している環境)はデスクトップをユーザーとは異なるドメインに追加したりできます。複数のドメインにデスクトップを分割することもできます。

たとえば、複数のドメインを持つ単一のActive Directoryフォレストでは、事業所の場所にかかわらずすべての物理および仮想コンピューターオブジェクトを1つのドメイン (computers.company.comなど) に格納して、もう1つのドメイン (users.company.comなど) にほかのドメイン (tokyo.users.company.comとosaka.users.company.comなど) との信頼関係を設定できます。個々のユーザーアカウントは事業所の場所のドメイン (tokyoまたはosaka) に属していますが、computers.company.comドメインのコンピューターオブジェクトでユーザーが認証されるようにusersドメインとcomputersドメイン間の信頼関係を設定します。

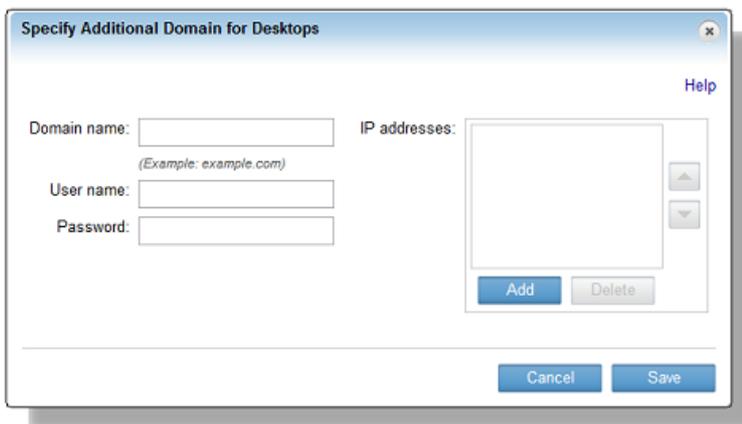
ユーザードメインがサブドメインを持つ場合も、ドメイン間の信頼関係およびグローバルカタログが正しく構成されていれば、そのサブドメインのユーザーおよびグループもVDI-in-a-Boxで認証されます。詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX136845>を参照してください。

ユーザーとデスクトップのドメインを分離するには

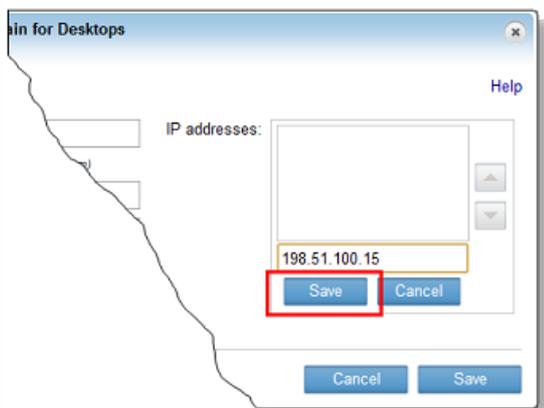
1. VDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) の管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Miscellaneous] セクションまでスクロールします。[Specify alternate domains or workgroup for desktop]、[OK] の順にクリックします。



3. [Admin] ページで [Manage Computer Domains] をクリックし、 [Manage Computer Domains] ダイアログボックスで [Add] をクリックします。
[Specify Additional Domain for Desktops] ダイアログボックスが開きます。



4. [Domain name] ボックスにデスクトップのドメイン名を入力します。
5. [User name] と [Password] ボックスに、ドメインの管理者アカウントの資格情報を入力します。
6. [Add] をクリックしてドメインのIPアドレスを入力し、[Save] をクリックします。 [IP addresses] 一覧にIPアドレスが追加されます。



7. 追加のドメインを指定するには、手順4から手順6を繰り返します。

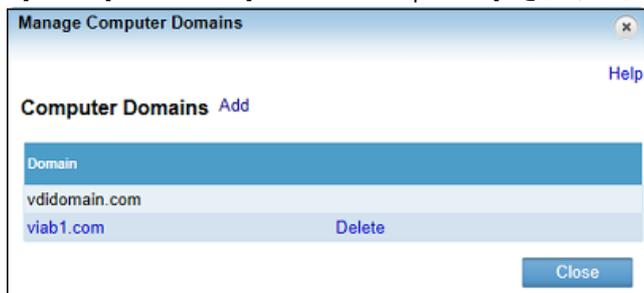
8. [Save] をクリックし、[Close] をクリックします。

デスクトップ用の追加のドメインを構成したら、イメージを準備するときにそのドメインを選択します。

デスクトップ用ドメインを編集または削除するには

デスクトップ用の追加のドメインを構成した場合は、それらを編集または削除することができます。ユーザーを含むドメインは、編集または削除することはできません。

1. [Admin] ページで [Advanced Properties] をクリックし、[Manage Computer Domains] をクリックします。



2. ドメインを編集するには、その名前をクリックします。ドメインの詳細が表示されたら編集し、[Save] をクリックします。ドメインのIPアドレスを変更するには、既存のアドレスを削除して新しいアドレスを追加する必要があります。

ドメインを削除するには、[Delete] をクリックします。

3. [Close] をクリックします。

Active Directoryフェールオーバー

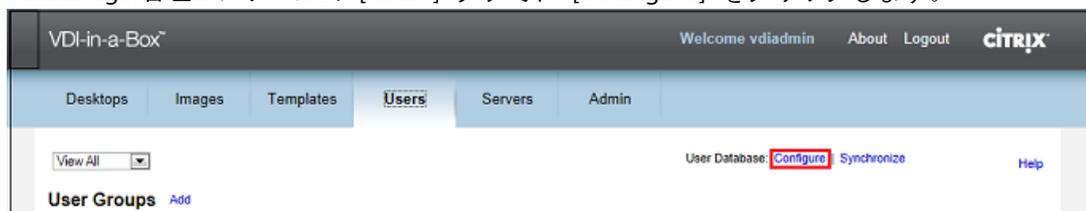
Active Directoryフェールオーバー機能を使用すると、グリッドでプライマリのActive Directoryサーバーに障害が発生しても、完全なサービスを継続して提供することができます。

VDI-in-a-Boxでは、管理者が指定した最初のActive Directoryサーバーが使用されます。このサーバーに障害が発生すると、次のActive Directoryサーバーに切り替わります。一覧に追加したActive Directoryサーバーの数に応じて、この処理が繰り返されます。同時にプライマリのActive Directoryサーバーの状態がチェックされ、プライマリのActive Directoryサーバーが障害から回復したことが検出されると、自動的にそのサーバーが使用されます。

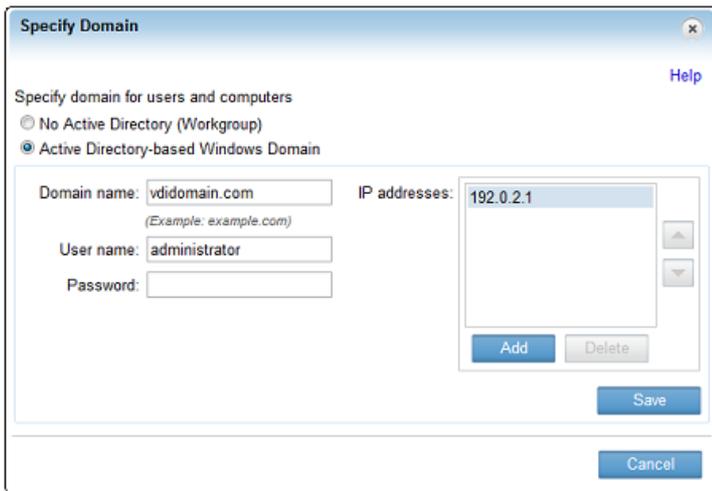
重要：デスクトッププロビジョニングのサービスを中断させないためには、指定したすべてのActive Directoryサーバーでデータが正しく同期されていることが重要です。VDI-in-a-Boxでは、Active Directoryサーバー間の同期をチェックすることはできません。

Active Directoryフェールオーバーを構成するには

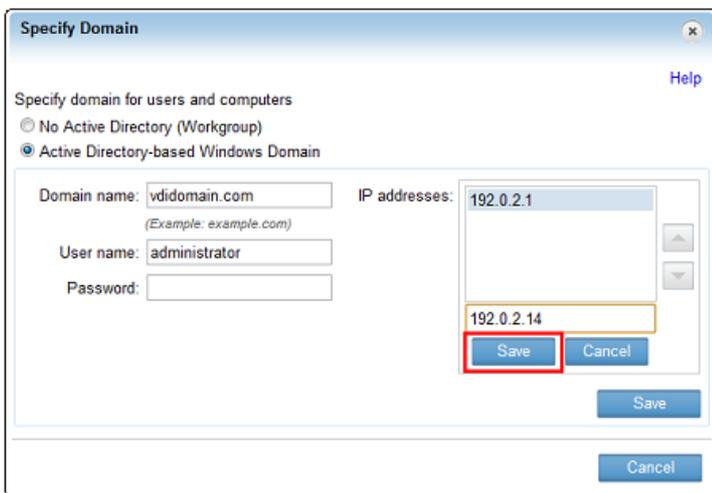
1. vdiManager管理コンソールの [Users] タブで、[Configure] をクリックします。



[Specify Domain] ダイアログボックスが開きます。

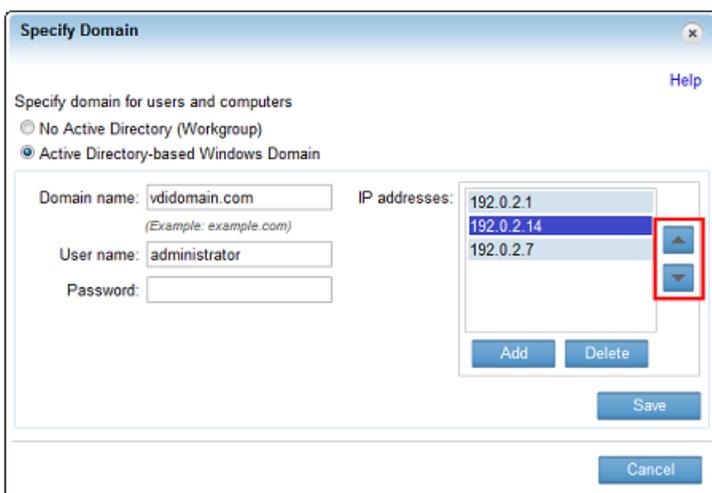


2. [Add] をクリックし、グリッド内のActive DirectoryサーバーのIPアドレスを入力して [Save] をクリックします。



[IP addresses] ボックスの一覧にIPアドレスが追加されます。

3. 一覧に追加するActive Directoryサーバーごとに手順2.を繰り返します。
4. 一覧に追加したサーバーの優先順位を変更するには、右横の矢印ボタンをクリックします。



5. [Password] ボックスにドメインのパスワードを入力し、[Save] をクリックします。

VDI-in-a-Boxキオスクの構成

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxのキオスク機能を使用すると、会議室、学校の実験室、病院のナースステーションなどのユーザーデバイスをキオスクシステムとして使用して、標準デスクトップを配信できます。VDI-in-a-Boxキオスク用のデスクトップは、ユーザーグループ名ではなく、IPアドレスの範囲で特定されるユーザーデバイスに割り当てます。

通常のVDI-in-a-Box仮想デスクトップと同様に、キオスク用のデスクトップもテンプレートに基づいています。デスクトップとユーザーデバイスを関連付けるために、テンプレートをユーザーデバイスのIPアドレスに割り当てます。

管理者は、ユーザーデバイスをセットアップするときに、ユーザーがCitrix Receiver (推奨)、Webブラウザー、またはVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してデスクトップに接続できるように設定します。

ユーザーがキオスクデスクトップのセッションを切断すると、2分後に自動的にログオフされ、同じデスクトップに再接続できなくなります。

あるデバイス上でユーザーがデスクトップ接続をそのままにしたまま、別のデバイスに移動してそのデスクトップへ接続しようとすると、新しいデスクトップが実行されます。

注: キオスクとユーザーの設定に矛盾がある場合は、キオスクの設定が優先されます。

制限事項

StoreFrontからVDI-in-a-Boxキオスクにアクセスすることはできません。

キオスクモードを使用する場合は、ユーザーデバイスとvdiManager間にHTTPプロキシ (Access Gateway Enterprise Edition など) を設定することはできません。

キオスクの展開計画

以下の項目を考慮して、キオスク用のテンプレートの数を決定します。

- 複数のキオスクで同じデスクトップポリシーを使用できるか、または個別のデスクトップポリシーが必要か。
- ユーザーデバイスのIPアドレス。キオスク用のテンプレートは、IPアドレスまたはIPアドレスの範囲に割り当てます。
例: 校内の工学研究室と芸術研究室にある既存のコンピューターにVDI-in-a-Boxキオスクを展開する場合、研究室ごとに個別のテンプレートを定義します。そして、工学研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレート Engineering Labに割り当てて、芸術研究室のコンピューターのIPアドレスの範囲をキオスクテンプレート Art Labに割り当てます。この設定により、それぞれの研究室からログインする学生に適切なデスクトップが表示されます。

推奨項目とポリシーに関する注意事項

- キオスクデスクトップの展開先に応じて個別のテンプレートを作成します。キオスク用のテンプレートを作成して、個々のユーザーやグループではなく、キオスクデバイスに割り当てると、キオスクセッションを効率的に管理および監視できます。
- デスクトップが毎日更新 (リフレッシュ) されるようにポリシーを設定します。
- 会議室など、公共の場所のキオスクでは、特に以下の点について考慮します。
 - デスクトップの更新ポリシーで [On logout] を設定して、ユーザーがログオンするたびに新しいデスクトップが表示されるようにします。
 - 新しいデスクトップの生成には時間がかかるので、イメージを作成するときに [Fast desktop refresh] オプションを有効にして、ユーザーのログアウト時にデスクトップが迅速にプロビジョニングされるようにします。
 - 適切な数のデスクトップが事前起動したりリフレッシュされたりするように、[Maximum desktops] ポリシーで、キ

オスクデバイスよりも多い数を設定します。

- グリッドの負荷が高く、デスクトップ更新時の処理にリソースが集中的に使用される場合は、デスクトップの更新ポリシーとして [Scheduled] を設定して、デスクトップが毎晩更新されるようにします。この場合、デスクトップの最大数としてキオスクデバイスよりも多い数を設定する必要はありません。
- 事前起動するデスクトップの数を決定します。「事前起動デスクトップ」とは、電源が入り、ログオンプロンプトが表示された状態でユーザーのアクセスを待機するデスクトップを指します。事前起動デスクトップでは、ユーザーが仮想デスクトップの起動を待つ必要がありません。事前起動するデスクトップの数を指定すると、デスクトップにログオンしたユーザーの数に応じて、事前起動デスクトップの数が保持されます。たとえば、テンプレートで事前起動デスクトップ数として5を指定した場合、5つの仮想デスクトップが事前起動してユーザーを待機します。2人のユーザーが各自のデスクトップにログオンすると、新たに2台のデスクトップが事前起動され、指定した事前起動デスクトップ数が保持されます。テンプレートで指定した最大数に達するまで、この処理が継続されます。
- デスクトップテンプレートのキオスクデバイスへの割り当てを変更する場合は、注意が必要です。再割り当てにより、新しいデスクトップがキオスクデバイスに配信されますが、古いデスクトップがVDI-in-a-Boxに保持されます。これらの孤立したキオスクセッションは、VDI-in-a-Boxコンソールの [Desktops > User Sessions] タブで削除する必要があります。

ユーザーデバイスをキオスクとして構成する

Sep 17, 2015

ユーザーデバイスをキオスクとして構成するには、次の手順に従います。

1. 各ユーザーデバイスのIPアドレスまたはアドレスの範囲にテンプレートを割り当てます。
2. 各ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップします。
3. キオスクの接続を確認します。

ユーザーデバイスをテンプレートに割り当てるには

1. vdiManager管理コンソールで、[Users] タブをクリックします。
2. IPアドレスの一覧で、[Add] をクリックします。
3. [IP Address Ranges] ボックスに、テンプレートを割り当てるユーザーデバイスのIPアドレスを入力します。個々のアドレス（「192.168.23.143」など）、プレフィックス（「192.168」など）、または範囲（「192.168.10.174-204」など）を指定できます。各エントリは改行またはスペースで区切ります。ワイルドカードとしてアスタリスク（*）を使用して、「172.*」のように172以下のすべてのIPアドレスを表すこともできます。
4. IPアドレスまたは範囲に割り当てるテンプレートを選択します。ユーザーデバイスに割り当てることができるテンプレートは1つだけです。

次の表は、校内の工学研究室、芸術研究室、休憩室、および図書室に対するIPアドレスの割り当て例を示しています。

IPアドレスの範囲	テンプレート名	説明
192.168.1.30-50	Engineering Lab	2つのIPアドレス範囲に対応するには、研究室ごとに個別のテンプレートが必要です。
192.168.1.1-20	Art Lab	
192.168.2.11	Break Room	休憩室のユーザーデバイスには独自のテンプレートが必要です。このデバイスのIPアドレスが192.168.3で始まる場合は、Libraryテンプレートを使用できます。
192.168.3 192.168.4	Library	IPアドレスが192.168.3と192.168.4で始まるすべてのユーザーデバイスには、Libraryテンプレートが使用されます。

5. キオスクから入力されるユーザーの資格情報をActive Directoryで検証するには、[Admin] ページで [Advanced Properties] を選択し、[User Sessions] セクションで [Authenticate AD users in kiosk mode] を選択します。デフォルトでは、キオスクの資格情報はVDI-in-a-Boxのログオン画面で検証されず、デスクトップにより認証されます。

ユーザーデバイスをキオスク用にセットアップするには

キオスクデバイスでは、通常のユーザーデバイスと同様にCitrix Receiver（推奨）、Webブラウザ、およびVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用した接続がサポートされます。構成について詳しくは、「[ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス](#)」で、使用するユーザーデバイスのトピックを参照してください。

Javaデスクトップクライアントを使用する場合は、このクライアントをそのデバイスのスタートアップスクリプトに追加して、ユーザーデバイスの起動時にJavaデスクトップクライアントが自動的に起動するようにすることをお勧めします。または、Javaデスクトップクライアントのショートカットを作成します。これを行うには、ユーザーデバイスでコマンドプロンプトのウィンドウを開き、javaws -viewerを入力し、Javaデスクトップクライアントのエントリを右クリックして、[Install

Shortcuts] を選択します。vdiManagerが複数ある場合は、それぞれについてショートカットを作成し、VDI-in-a-Boxアプリケーションがオフラインになっている場合にユーザーが選択できるようにしておくことをお勧めします。

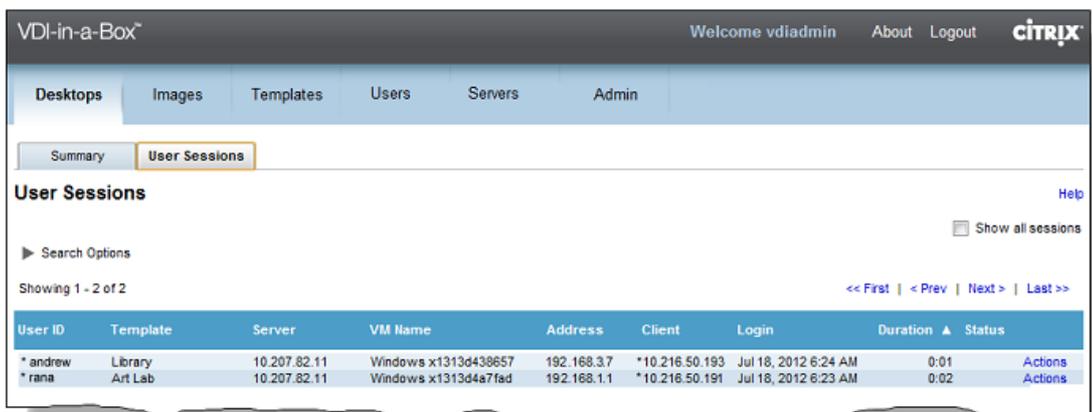
共通のユーザー名とパスワードを使用してJavaデスクトップクライアントを起動する

デフォルトのユーザー名（「guest」など）とパスワードを省略して、ユーザーが資格情報を入力せずに直接デスクトップに接続できるようにするには、次のコマンドを使用します。

```
javaws https://dt/vdiclient.jnlp?"username=&password="
```

キオスクの接続を確認するには

vdiManager管理コンソールで、[Desktops] > [User Sessions] タブに移動します。ユーザーIDとクライアントIPアドレスのエントリはアスタリスク（*）で始まるので、キオスクのエントリを簡単に検索したり並べ替えたりすることができます。



User ID	Template	Server	VM Name	Address	Client	Login	Duration	Status
* andrew	Library	10.207.82.11	Windows x1313d438657	192.168.3.7	*10.216.50.193	Jul 18, 2012 6:24 AM	0:01	Actions
* rana	Art Lab	10.207.82.11	Windows x1313d447fad	192.168.1.1	*10.216.50.191	Jul 18, 2012 6:23 AM	0:02	Actions

汎用ユーザーアカウントの構成

Sep 17, 2015

汎用ユーザーモードを使用すると、ログオンするユーザーアカウントのユーザー名をデスクトップを要求したユーザー情報で検証し、適切な認証を実施する処理がバイパスされます。これは、以下のような状況で便利です。

- ユーザー認証データベースが、Active Directoryまたはワークグループ (VDI-in-a-Boxで現在サポートされている認証方法) 以外の製品である場合
- コンピューターとユーザーのドメインが異なり、一方向の信頼関係がユーザーとコンピューターの間に存在しているため、VDI-in-a-Boxがユーザーのドメインにアクセスできない場合
- ユーザーが汎用ユーザー名を使用して一連のテンプレートを呼び出し、実際の資格情報でデスクトップにログオンできるようにしたい場合

Version 5.3以前の汎用ユーザーモードのユーザーへの注意事項

VDI-in-a-Box 5.3以前では、デスクトップへのログオン時のユーザー認証のバイパスおよび共有ユーザーアカウントのセットアップの両方に、汎用ユーザーモードが使用されていました。汎用ユーザーモードを選択すると、デスクトップへの「フォローミー」アクセスはグリッド全体で自動的に無効になりました。したがって、ログオンするたびにすべてのユーザーに新しいデスクトップが開きました。

Version 5.4以降では、このトピックに記載されているように、汎用ユーザーモードはユーザー認証のバイパスにのみ使用されます。「フォローミー」アクセスは、新しい [Desktops follow users to other access devices] チェックボックスを使用してテンプレートレベルで制御されます。

ユーザー認証をバイパスするために以前のバージョンで汎用ユーザーモードを使用していた場合は、Version 5.4にアップグレードした後も、引き続き汎用ユーザーモードで作業して既存のテンプレートを使用することができます。新しいテンプレートを作成する必要がある場合は、後の「汎用ユーザーアカウントを構成するには」に記載されているとおり、[Desktops follow users to other access devices] チェックボックスをオフにしてください。

共有ユーザーアカウントをセットアップするために以前のバージョンで汎用ユーザーモードを使用していた場合は、Version 5.4にアップグレードした後で、[Advanced Properties] の [Enable generic user] チェックボックスをオフにする必要があります。以前のバージョンで汎用ユーザーモードで作成したテンプレートを編集する必要はありません。これらのテンプレートで「フォローミー」アクセスが自動的に無効になります。VDI-in-a-Box 5.4以降での共有ユーザーアカウントの構成と使用について詳しくは、「[共有ユーザーアカウントの構成](#)」を参照してください。

汎用ユーザーアカウントを構成するには

1. グリッドを構成します。vdiManager管理コンソールの [Admin] タブで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [User Session] セクションまでスクロールし、[Require users to re-enter password on Windows logon screen] を選択します。
3. [Miscellaneous] セクションまでスクロールし、[Enable generic user] を選択します。
4. VDI-in-a-Boxイメージおよびテンプレートの作成手順に従って、汎用アカウント用のデスクトップイメージとテンプレートを作成します。

デスクトップはWindowsワークグループまたはWindowsドメインに参加できます。

汎用ユーザーのテンプレートを作成するとき、[Desktops follow users to other access devices] チェックボックスをオフにしてください。これにより、このテンプレートに基づくデスクトップにログオンするユーザーに、ログオンするたびに規のデスクトップが開くようになります。

注：VDI-in-a-Box 5.3以前を使用して、汎用ユーザーモードを有効にしてテンプレートを作成した場合は、それらのテンプレートで「フォローミー」アクセスがデフォルトで無効になります。ただし、Version 5.4で新しいテンプレートを作成する

ときは、このチェックボックスを手作業でオフにする必要があることに注意してください。「フォローミー」アクセスを無効にしないと、汎用ユーザーアカウントを使用してログオンしたユーザーが自分の資格情報を使用して次にデスクトップにログオンした場合に、切断されているアクティブなデスクトップまたは「On Hold」のデスクトップにアクセスできません。

必要なWindows認証ソフトウェアコンポーネントを、必ずイメージにインストールしてください。

5. 以下の手順で、汎用ユーザーアカウントを追加します。
 1. [Users] タブをクリックし、[User Groups] の [Add] をクリックします。
 2. [User ID] ボックスに、汎用アカウントのユーザーIDを入力します。
 3. グループに割り当てるテンプレートを選択します。
 4. [Save] をクリックします。
6. 以下の手順で、構成をテストします。
 1. 汎用ユーザーアカウントを使用してvdiManagerにログオンします。
 2. 汎用ユーザーに割り当てられているテンプレートをクリックします。
 3. デスクトップのログオン (Windows GINA) 画面で、ユーザー名の入力を再度求められることを確認します。
 4. 汎用ユーザーアカウントのユーザー名と異なるユーザー名を入力します。
 5. 5分間のリモート処理の後でも、デスクトップにアクセスできることを確認します。

ユーザーがアクティブなデスクトップから切断する場合は、同じデバイスからも別のデバイスからもそのデスクトップに再度アクセスできません。「On Hold」のデスクトップには、同じデバイスからであればアクセスできます。

共有ユーザーアカウントの構成

Sep 17, 2015

複数のユーザーが同じユーザーIDで特定のデスクトップにアクセスする教室やラボ環境などでは、共有ユーザーアカウントを使用すると便利です。

たとえば、10時から12時まで計算機室を使用する1年生のグループでは、すべての学生がユーザーアカウント「Grade1」を使用して数学アプリケーション用と科学アプリケーション用の2つのテンプレートにアクセスします。各学生は各自のデバイスにログオンして、一覧からテンプレートを選択してデスクトップを使用します。12時になるとこのグループは退室し、2年生のグループがこの計算機室で同じデバイスを使用します。このグループではすべての学生がユーザーアカウント「Grade2」を使用して、歴史アプリケーション用と地理アプリケーション用のテンプレートにアクセスします。各学生がデバイスにログオンすると新規のデスクトップが開きます。

Version 5.3以前の汎用ユーザーモードのユーザーへの注意事項

VDI-in-a-Box 5.3以前では、デスクトップへのログオン時のユーザー認証のバイパスおよび共有ユーザーアカウントのセットアップの両方に、汎用ユーザーモードが使用されていました。汎用ユーザーモードを選択すると、デスクトップへの「フォローミー」アクセスはグリッド全体で自動的に無効になりました。したがって、ログオンするたびにすべてのユーザーに新規のデスクトップが開きました。

Version 5.4以降では、「[汎用ユーザーアカウントの構成](#)」に記載されているように、汎用ユーザーモードはユーザー認証のバイパスにのみ使用されます。「フォローミー」アクセスは、新しい [Desktops follow users to other access devices] チェックボックスを使用してテンプレートレベルで制御されます。

共有ユーザーアカウントをセットアップするために以前のバージョンで汎用ユーザーモードを使用していた場合は、Version 5.4にアップグレードした後で、[Advanced Properties] の [Enable generic user] チェックボックスをオフにする必要があります。以前のバージョンで汎用ユーザーモードで作成したテンプレートを編集する必要はありません。これらのテンプレートで「フォローミー」アクセスが自動的に無効になります。

共有ユーザーアカウントを構成するには

1. VDI-in-a-Boxイメージおよびテンプレートの作成手順に従って、共有ユーザーアカウント用のデスクトップイメージとテンプレートを作成します。
共有ユーザーアカウントのテンプレートを作成するときに、[Refresh Desktop] が「On logout」（デフォルト設定）に設定され、[Desktops follow users to other access devices] チェックボックスがオフになっていることを確認してください。これにより、このテンプレートに基づくデスクトップにログオンするユーザーに、ログオンするたびに新規のデスクトップが開くようになります。
注：VDI-in-a-Box 5.3以前を使用して、汎用ユーザーモードを有効にしてテンプレートを作成した場合は、それらのテンプレートで「フォローミー」アクセスが自動的に無効になります。
必要なWindows認証ソフトウェアコンポーネントを、必ずイメージにインストールしてください。
2. 以下の手順で、共有ユーザーアカウントを追加します。
 1. [Users] タブをクリックし、[User Groups] の [Add] をクリックします。
 2. [User ID] ボックスに、共有アカウントのユーザーIDを入力します。
 3. グループに割り当てるテンプレートを選択します。
 4. [Save] をクリックします。
3. 以下の手順で、構成をテストします。
 1. ユーザーデバイスから共有ユーザーアカウントを使用してvdiManagerにログオンします。
 2. 接続を維持したままで、別のユーザーデバイスから同じ共有ユーザーアカウントを使用してvdiManagerにログオンしま

す。

3. 両方のリモートデスクトップセッションに同時にアクセスできることを確認します。

デスクトップの切断とログオフ

[Desktops follow users to other access devices] チェックボックスをオフにすると、基本的に、ユーザーIDとデバイスの各ペアに固有のデスクトップが提供されます。このため、使用するデバイスとユーザーIDにより、提供されるデスクトップが以下のように異なります。

- 1人のユーザーが同時に異なるデバイスで同じユーザーIDを使用してログオンすると、これらのデバイスで異なるデスクトップが開きます。
- ユーザーがデバイスから切断またはログオフした後でほかのユーザーがそのデバイスに異なるIDでログオンすると、異なるデスクトップが開きます。

ユーザーのログオフ時にデスクトップがリフレッシュされるようにテンプレートを設定することをお勧めします（これがデフォルトの設定です）。ユーザーのログオフ時にデスクトップがリフレッシュされない場合、ユーザーが切断またはログオフしてもデスクトップが破棄されず、ほかのユーザーが同じデバイスおよびIDを使用してログオンしたときに前のユーザーのデスクトップが開くことがあります。

一部のユーザーがログオフして再ログオンしたときに引き続き同じデスクトップにアクセスする必要がある場合は、そのようなユーザーのデスクトップ用に別のテンプレートを構成できます。テンプレートを作成するか編集するときに [Desktops follow users to other access devices] を選択したままにして、そのテンプレートを共有ユーザー名ではなくパーソナルユーザー名に割り当てます。これにより、このテンプレートに基づくデスクトップに接続するユーザーは、あるデバイスから切断して別のデバイスにログオンしても、同じデスクトップに再接続することができます。既存のテンプレートを編集する場合は、変更を加える前に、このテンプレートを使用するデスクトップで実行中のユーザーセッションがないことを確認してください。

SSL証明書の管理

Sep 17, 2015

HTTPSでの通信では、SSL証明書が必要です。SSL証明書は、自己署名したり、信頼されている証明機関（CA）が署名したりできます。

VDI-in-a-Boxには、自己署名の証明書が付属しています。自己署名証明書は無料で使用できますが、以下の考慮事項があります。

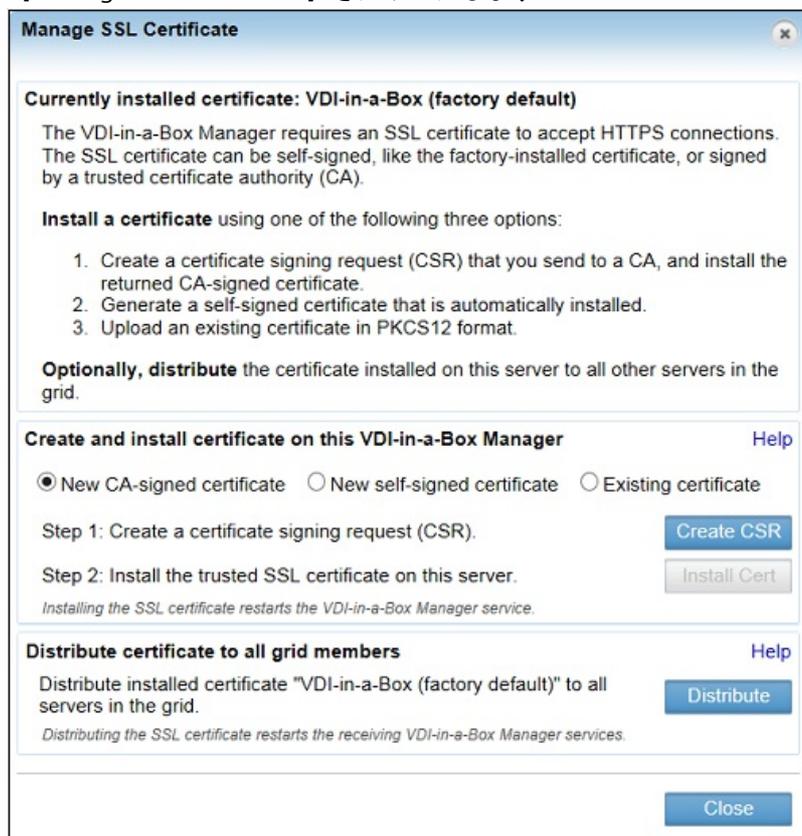
- 証明書が信頼されるように、すべてのユーザーデバイス上でこの証明書をインストールする必要があります。このため、小規模環境には適していますが、エンタープライズレベルの環境には適していません。
- Webブラウザでは、信頼される証明書が必要です。自己署名証明書を使用する場合、仮想デスクトップやvdiManager管理コンソールに接続するたびに警告メッセージが表示されます。
- ユーザーがStoreFrontを使用する場合は、信頼される証明書が必要です。

VDI-in-a-Boxには、以下の操作を行うためのウィザードが用意されています。

- 証明書の要求（CSR：Certificate Signing Request）ファイルを生成して、CAにより発行されたSSL証明書をインストールする。
- 完全修飾ドメイン名（FQDN）を使用して自己署名SSL証明書を作成してインストールする。
- PKCS12形式の既存のSSL証明書をアップロードする。
- グリッド内のすべてのサーバーに証明書を配布する。

新しいCSRを作成するには

1. vdiManager管理コンソールで、[Admin] タブをクリックします。
2. [Manage SSL Certificate] をクリックします。



3. [Create CSR] をクリックします。

Create CSR

Fully qualified domain name:

Organizational unit:

Organization:

City/Locality:

State/Province:

Country code:

Key size: 2048-bit RSA

Specify multiple host names (optional)

Subject Alternative Names:

(Example: h1.example.com;h2.example.com)

A certificate signing request (CSR) will be created. Download it and send it to a trusted certificate authority, and they will return the necessary certificates to install. If you specify multiple host names, make sure to follow your Certificate Authority's instructions regarding Subject Alternative Names (SAN) to complete the request.

Cancel Create

4. 要求の詳細を入力して、[Create] をクリックします。

複数のFQDNを指定できます。たとえば、NetScaler Gatewayサーバー、グリッドのIPアドレス、およびグリッド内のすべてのサーバーが対象の単一の証明書を設定できます。これを行うには、[Specify multiple host names] を選択し、追加のサーバーの名前をセミコロンで区切って入力します。IPアドレスまたは通常のDNSホスト名を使用できます。

確認メッセージが表示され、要求ファイルの名前が示されます。

5. [Download] をクリックします。要求ファイルがローカルコンピューターにダウンロードされます。

生成されたCSRをCAに送信します。CAでCSRが正しく検証されると、CAに署名された証明書が発行されます。この証明書は、ルート証明書および中間証明書と一緒に返送されます。

証明書の送信時またはダウンロード時にサーバーの種類を確認するメッセージが表示された場合は、「tomcat」を指定してください。

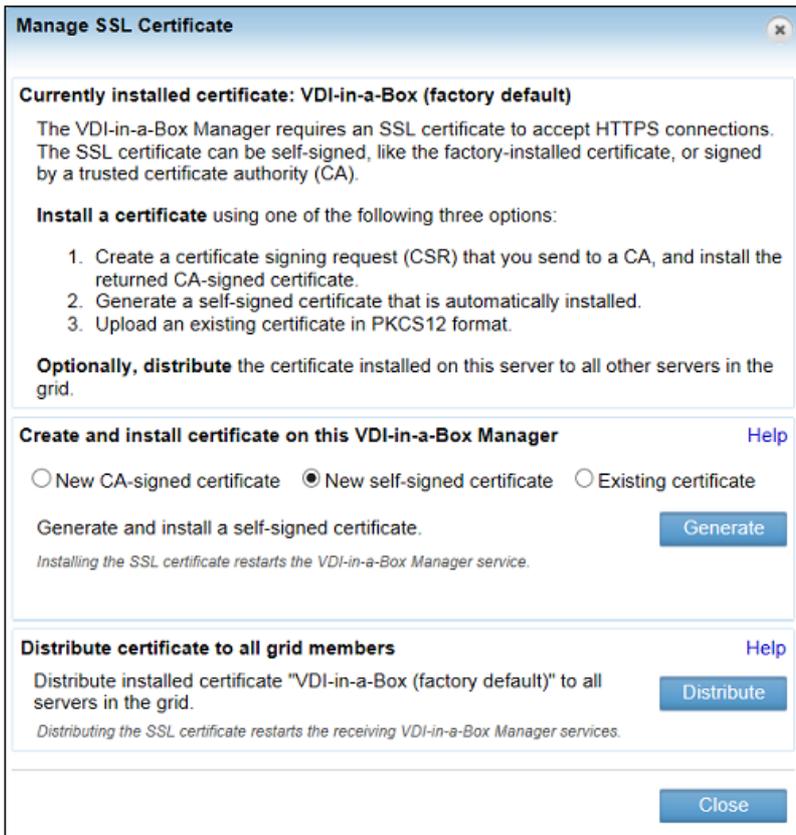
信頼されるSSL証明書をインストールするには

CAから証明書が発行されたら、任意のサーバー上にそれをインストールします。

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
2. [Admin] タブで、[Manage SSL Certificate] をクリックします。
3. [Install Cert] をクリックします。
4. [Browse] をクリックして、証明書を指定します。
5. ルート証明書、中間証明書、CAに署名された証明書の順番でアップロードします。順番を間違えるとアップロードに失敗します。
アップロードするファイルを選択して、[Choose] をクリックします。
6. [Install] をクリックします。このボタンは、必要なファイルをすべてアップロードするまで淡色表示されます。証明書のインストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。
注：SSL証明書をインストールすると、vdiManagerサービスが再起動されます。
7. [閉じる] をクリックします。
8. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

自己署名のSSL証明書を作成してインストールするには

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、 [OK] をクリックします。
2. [Admin] タブで、 [Manage Certificate] をクリックします。
3. [New self-signed certificate] をクリックします。



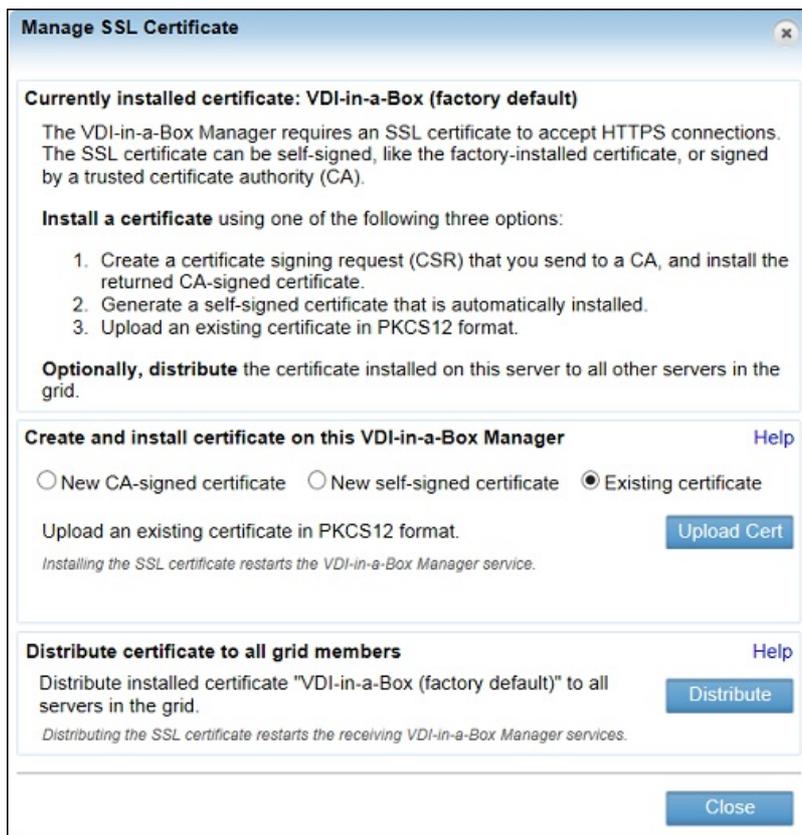
4. [Generate] をクリックします。
5. 詳細を入力して、 [Create] をクリックします。
6. 証明書のインストールが完了すると、確認メッセージが表示されます。
注：SSL証明書をインストールすると、vdiManagerサービスが再起動されます。
7. [閉じる] をクリックします。
8. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、 [OK] をクリックします。
9. 証明書が信頼されるように、すべてのユーザーデバイス上でこの証明書をインストールする必要があります。

既存のSSL証明書をアップロードするには

PKCS12コンテナに含まれていれば、既存のSSL証明書をアップロードすることができます。コンテナには以下の項目を含める必要があります。

- 完全な証明書チェーン (ルート証明書、中間証明書、およびサーバー証明書)
- 証明書の秘密キー
- パスワード

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、 [OK] をクリックします。
2. [Admin] タブで、 [Manage Certificate] をクリックします。
3. [Existing certificate] をクリックします。



4. [Upload Cert] をクリックします。
5. 証明書のある場所へ移動してパスワードを入力し、[OK] をクリックします。
6. 証明書のアップロードが完了すると、確認メッセージが表示されます。
注：証明書をアップロードすると、vdiManagerサービスが再起動されます。
7. [閉じる] をクリックします。
8. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

グリッド内のすべてのサーバーに証明書を配布するには

任意のサーバー上にSSL証明書をインストールしたら、グリッド内のほかのすべてのサーバーにその証明書を配布します。この操作は、グリッドのIPアドレスを使用する環境や、ロードバランサーを使用する環境など、すべてのサーバーに同じホスト名でアクセスできる場合に行います。CAにより発行された単一の証明書を複数のホスト上で合法的に使用できるかどうかを確認してください。

1. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
2. 証明書がインストールされたサーバー上で、[Admin] タブの [Manage Certificate] をクリックします。
3. [Distribute] をクリックし、証明書の配布が完了したことを示すメッセージが表示されたら [Close] をクリックします。
証明書をグリッド内に配布すると、その証明書を受信したvdiManagerサービスが再起動されます。vdiManagerによるインストール処理が完了するまで、5分程度待ちます。この間、グリッドの設定を変更しないでください。
4. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

グリッドにサーバーを追加する場合は、そのサーバーにもグリッドのSSL証明書を配布する必要があります。

ログの収集

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxでは、さまざまなコンポーネントのログが自動的に生成されます。これらのログをダウンロードして、トラブルシューティング時やサポート担当者への連絡時に役立てることができます。

アプライアンスのデバッグログ

VDI-in-a-Boxグリッドの各アプライアンスでは、デバッグログが自動的に生成されます。syslog形式でも生成できるため、サードパーティ製ツールを使って分析できます。

個々のサーバーまたはグリッド全体のデバッグログをダウンロードできます。

1. vdiManager管理コンソールで、[Admin] タブをクリックします。
2. [Download Debug Log] をクリックします。
3. ダウンロードするログの対象としてサーバーまたはグリッド全体を選択して、[OK] をクリックします。
4. ダウンロードされたログファイルを開くか、適切な場所に保存します。

デバッグログには「__debug.tar.gz」という名前が設定されます。ここで、<yyyymmdd>は日付で<vdiMgrIPaddress>はデバッグログファイルを生成したvdiManagerのIPアドレスです。

仮想マシンログ

すべての仮想マシンログを収集してZIPファイルを作成するには、コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。
collectVdiLogs

ログはシステムのtempフォルダー (%temp%) に生成されます。

ドメインへの追加時の問題を解決するには、c:\Windows\debug\NetSetup.LOGが役立ちます。通常の仮想マシンログには、このファイルの内容の一部のみが記録されます。

接続時の問題を解決するために、通常のログよりも詳しい情報が必要な場合は、以下を参照してください。

- PortICAのログ : <http://support.citrix.com/article/CTX118837>
- WorkstationAgentのログ : <http://support.citrix.com/article/ctx117452>

VDI-in-a-Boxでは、XenDesktopと同じHDXコンポーネントが使用されます。このため、接続の問題に関するログは、これらの製品で同一です。

オプションコンポーネントの管理

Sep 17, 2015

ここでは、VDI-in-a-Box環境にオプションとして追加できる以下のコンポーネントについて説明します。

- [Citrix NetScaler Gateway](#)
- [リモートデスクトップゲートウェイ](#)
- [印刷](#)
- [Citrix Profile management](#)
- [Citrix StoreFront](#)
- [Citrix App Controller](#)
- [Citrix HDX RealTime Optimization Pack for Microsoft Lync](#)
- [Citrix Desktop Lock](#)
- [スマートカード](#)
- [アンチウイルスソフトウェア](#)
- [Citrix HDX機能](#)

Citrix NetScaler Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成

Sep 17, 2015

仮想デスクトップへの安全な接続をリモートユーザーに提供するには、VDI-in-a-Boxと共にCitrix NetScaler Gateway 10.1を使用します。NetScaler Gatewayは、Citrix XenServer、Microsoft Hyper-V、またはVMware ESXi向けのアプリケーションアクセスのセキュリティソリューションです。これにより、デスクトップへの安全なアクセスを提供でき、ユーザーはどこからでもデスクトップで業務を行えるようになります。NetScaler Gatewayを使用すると、リモートユーザーが仮想プライベートネットワーク (VPN) 接続を構成したり、デスクトップにログオンする前にVPNにログオンしたりする必要がなくなります。VDI in-a-Box Webインターフェイスから接続するユーザーには、シングルサインオン機能が提供されます。

サポートされるバージョンについては、「[オプションのコンポーネント](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Boxでの構成方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX134315>を参照してください。NetScaler Gatewayについては、「[NetScaler Gateway](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用する場合、NetScaler Gatewayを使用できません。

注：このトピックで説明する手順に従ってNetScaler Gatewayへの接続を構成すると、VDI-in-a-Box 5.3以降でサポートされるシングルサインオンが有効になります。構成済みの接続を更新してシングルサインオンを有効にするには、下記の手順4.

で [NetScaler Gateway Addresses (IP and FQDN)] のFQDNの前にNetScaler Gateway仮想サーバーのIPアドレスを入力します。

前提条件

- 「[グリッドの管理](#)」の「グリッド用の仮想IPアドレスによる高可用性を提供するには」を参照して、VDI-in-a-BoxグリッドのIPアドレスを構成します。これにより、NetScaler Gateway上に負荷分散機能が不要な単一エントリが設定されます。グリッドのIPアドレスを設定すると、ローカルエリアネットワーク (LAN) 接続およびNetScaler Gatewayを介した接続の仲介機能と、VDI-in-a-Box Webインターフェイスの自動フェールオーバー機能が提供されます。
- NetScaler Gatewayプラットフォームライセンスが必要です。

NetScaler Gateway 10.1をVDI-in-a-Box用にインストールおよび構成するには

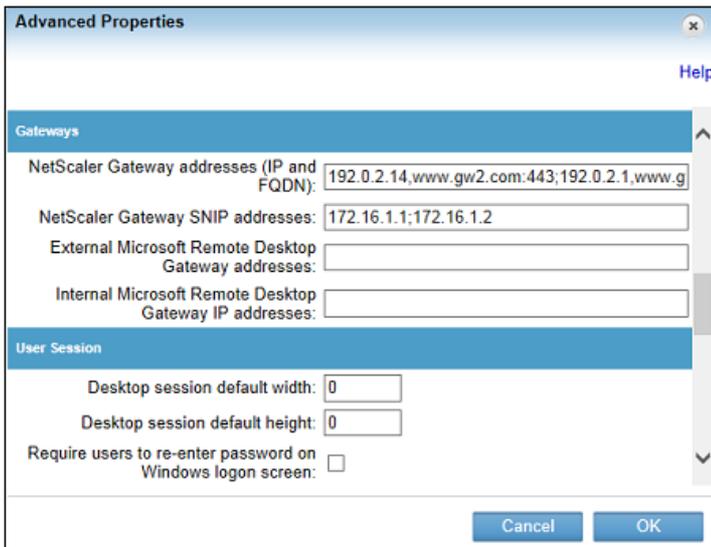
NetScaler Gateway 10.1のドキュメントを参照して、セットアップを行います。

- NetScaler Gateway 10.1の仮想アプライアンスをダウンロードします。
- 仮想アプライアンスをサポートされるハイパーバイザー上にインポートします。
- NetScaler Gatewayの基本設定を構成します。これには、管理用のNetScaler IP (NSIP) の設定とNetScaler Gatewayプラットフォームライセンスのインストールが含まれます。

NetScaler GatewayへのvdiManager接続を構成するには

NetScaler上のNetScaler Gateway仮想サーバーインスタンスの数を超えるゲートウェイを構成することはできません。

- vdiManager管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
- グリッドのIPアドレスを追加します。
- [Gateways] セクションまでスクロールします。



4. [NetScaler Gateway Addresses (IP and FQDN)] に、各NetScaler Gateway仮想サーバーについて以下の情報を入力します。

<virtual server IP address>,<FQDN>:<portnumber>

セミコロン (;) で区切って複数のエントリを入力できます。次に例を示します。

192.0.2.14,www.gw2.com:443;192.0.2.1,www.gw1.com:443

注：シングルサインオンを有効にするには、Access Gateway仮想サーバーのIPアドレス () を入力する必要があります。FQDNとポート番号のみを入力した場合、シングルサインオンが無効なりリモートアクセスが構成されます。

5. [NetScaler Gateway SNIP addresses] に、NetScaler GatewayサーバーのサブネットIPアドレス (SNIP) またはマップされたIPアドレスを入力します。セミコロンで区切って複数のアドレスを入力できます。外部ゲートウェイリストのアドレスと同じ数のNetScaler Gatewayサーバーを同じ順序で指定してください。次に例を示します。172.16.1.1;172.16.1.2
6. [OK] をクリックします。

NetScaler GatewayをVDI-in-a-Box用に構成するには

VDI-in-a-Boxグリッド用のNetScaler Gateway仮想サーバーを作成します。単一のNetScalerアプライアンス上に複数のNetScaler Gateway仮想サーバーを作成して、異なるVDI-in-a-Boxグリッドにアクセスさせることもできます。

1. Webブラウザを開きNetScalerのIPアドレスを入力して、NetScaler Gatewayアプライアンスにログオンします。
2. ホスト名、サブネットIPアドレス、および1つ以上のDNSアドレスを入力します。サブネットIPアドレスはNetScaler Gatewayサーバーの内部IPアドレスです。実稼働環境の場合、ここで入力するDNSは、FQDNに基づいてhttp要求をhttps要求にリダイレクトするために使用される ([NetScaler Gateway Settings] セクションで有効になっている場合)、外部に接続するDNSである必要があります。ここでNetScaler Gateway管理者のパスワードを変更できます。
3. デフォルト値を使用して、セットアップウィザードの残りの設定を完了します。
4. [Update Licenses] の下で [Browse] をクリックして、NetScaler Gatewayプラットフォームライセンスを選択しアップロードします。
5. [Continue] 、 [Done] の順にクリックします。
6. 確認メッセージが表示されたら構成を保存し、NetScaler Gatewayアプライアンスを再起動します。
7. NetScaler GatewayのWebコンソールに再度ログオンします。
8. [NetScaler Gateway Setup] ページを開くには、 [Get Started] をクリックします。
9. [NetScaler Gateway Setting] セクションで適切な設定を行い、NetScaler Gateway仮想サーバーで使用するIPアドレスおよび名前を入力します。
10. [Certificates] セクションの設定を行い、 [Install Certificate] または [Use Test Certificate] オプションを選択します。

[NetScaler] > [Configuration] > [SSL] セクションまたはサードパーティ製のツールを使用して証明書を作成します。

注：SSL証明書はNetScaler Gateway上でのみ必要です。vdiManagerでは必要ありません。

11. [LDAP Authentication] セクションの設定を行い、ユーザーアカウントが格納されているActive Directoryドメインを指定します。 [Continue] をクリックします。
12. [Enterprise Store Settings] セクションを以下のように構成します。
 1. [XenApp/XenDesktop] を選択します。
 2. [Deployment Type] で [Web Interface] を選択します。
 3. [XenApp Services Site URL] ボックスに、VDI-in-a-BoxグリッドのIPアドレスを以下の形式で入力します。 https://<vdiGridIP>/dt/PNAgent/config.xml
注：URLの最初にはhttps://を付ける必要があります。
 4. [Single Sign-on Domain] ボックスに、ユーザーアカウントが格納されているActive Directoryドメインを指定します。
 5. [Secure Ticket Authority] で、Secure Ticket AuthorityのURLをhttps://<vdiGridIPaddress>/dt/sta形式で入力します。
注： [Secure Ticket Authority] にはhttps://で始まるURLを入力してください。
13. NetScaler Gateway仮想サーバーの構成を確認します。これを行うには、 [NetScaler Configuration] > [NetScaler Gateway] > [Virtual Servers] セクションで仮想サーバーをダブルクリックし、設定内容を表示します。 必要に応じて、問題を修正します。
14. NetScaler Gateway Webコンソールに戻り、 [Configuration] 、 [Save] の順にクリックします。 これにより、再起動が必要になる場合に備えて実行中の構成がディスクに保存されます。

Citrix Receiverセッションポリシーを構成するには

モバイルデバイスがNetScaler Gatewayを介してVDI-in-a-Boxデスクトップへ接続できるようにするには、Citrix Receiverセッションポリシーが必要です。このポリシーを作成する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX134315>の「More Information」セクションを参照してください。

Citrix Receiverを構成するには

NetScaler Gatewayを介してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続するには、Citrix Receiverを使用します。複数のユーザーデバイスで同じサーバーURLオプションを設定する方法については、eDocsの「[ReceiverとPlug-in](#)」のセクションを参照してください。URLとして、https://<accessgatewayfqdn>/dt/PNAgent/config.xmlを使用します。vdiManager管理コンソールでデスクトップにアクセスするときと同じユーザー名を指定します。

重要：/PNAgent/のPNAは、大文字で入力する必要があります。

Microsoft Remote Desktop Gatewayを使用したセキュアなリモートアクセスの構成

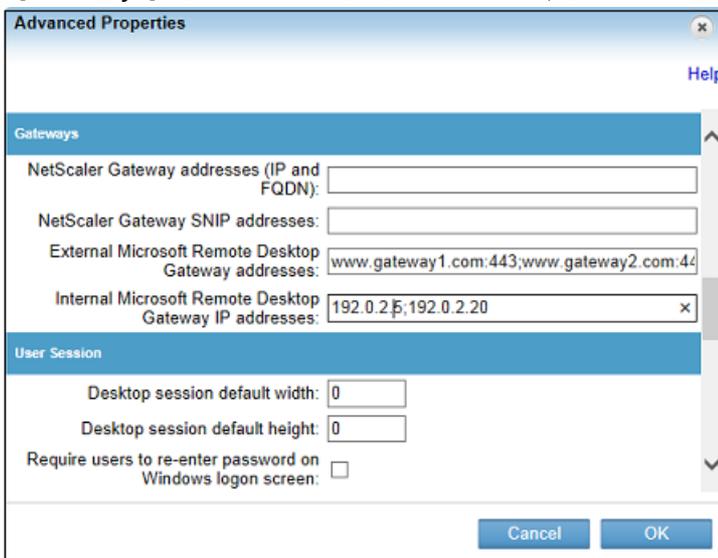
Sep 17, 2015

Microsoft リモートデスクトップゲートウェイを経由してVDI-in-a-Boxデスクトップにリモートからアクセスすることが可能です。この場合、リモートデスクトップゲートウェイがDMZ（Demilitarized Zone：非武装地帯）内で動作している必要があります。また、リモートアクセスを提供する仮想デスクトップと同じドメインに属している必要があります。vdiManagerを構成するときに、リモートデスクトップゲートウェイのIPアドレスを指定します。

注：リモートデスクトップゲートウェイの構成について詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX134286>を参照してください。

サポートされるバージョンについては、「[オプションのコンポーネント](#)」を参照してください。

1. vdiManager管理コンソールの [Admin] ページで、[Advanced Properties] をクリックします。
2. [Gateways] セクションまでスクロールします。



3. [External Microsoft Remote Desktop Gateway addresses] に、リモートデスクトップゲートウェイの外部 FQDN（Fully Qualified Domain Name：完全修飾ドメイン名）を、ポートを含めて入力します。セミコロンで区切って複数のFQDNを入力できます。例：www.gateway1.com:443;www.gateway2.com:443
4. [Internal Microsoft Remote Desktop Gateway IP addresses] に、リモートデスクトップゲートウェイの内部IPアドレスを入力します。セミコロンで区切って複数のアドレスを入力できます。外部ゲートウェイのアドレスと同じ数のリモートデスクトップゲートウェイを同じ順序で指定してください。例：192.0.2.5;192.0.2.20
5. [OK] をクリックします。

印刷の管理

Sep 17, 2015

このトピックでは、VDI-in-a-Boxでの印刷の管理オプションについて説明します。

仮想デスクトップへのプリンターのリダイレクト

ユーザーにプリンターを提供する最も簡単な方法は、プリンターのリダイレクトを有効にすることです。これにより、ユーザーデバイス上で使用可能なすべてのプリンターが仮想デスクトップ上でも使用可能になります。この機能は、ローカルプリンター、ネットワークプリンター、ワイヤレスプリンターなど、すべての種類のプリンターで使用できます。これらのプリンターはユーザーデバイス上で構成済みであるため、仮想デスクトップ上で構成したりドライバーをインストールしたりする必要はありません。ただし、プリンターを接続できないユーザーデバイス（シンクライアントなど）では、このトピックで説明するそのほかのオプションを使用する必要があります。

プリンターのリダイレクトを有効にするには、次の手順に従います。

1. vdiManager管理コンソールで、[Templates] タブをクリックします。
2. 編集するテンプレート名を選択します。
3. [Connect these devices to the VDI-in-a-Box desktop] の下の [Printers] を選択します。
4. [Next] をクリックして、次のページで [OK] をクリックします。

プリンタードライバーの使用

ここでは、VDI-in-a-Boxでプリンタードライバーを使用する方法として、Citrix Universal Print Serverとプリンターの製造元のドライバーについて説明します。HDXでの印刷ポリシーの構成によっては、Windowsに付属のプリンタードライバーとUniversal Print Serverを組み合わせて使用できます。これにより、多くのプリンターでUniversal Print Serverを使用して、専用のドライバーが必要なプリンターではネイティブのドライバーを使用できます。

HDX印刷ポリシー

現在、VDI-in-a-BoxではHDXポリシーでデフォルトプリンターやセッションプリンターを割り当てたり、クライアントのIPアドレスに基づいて特定のプリンターを割り当てたりすることはできません。Citrix Universal Print Serverに関するものを含むほかのポリシーは、VDI-in-a-Boxでサポートされます。

Citrix Universal Print Serverの使用

Citrix Universal Print Serverを使用すると、インストールするプリンタードライバーを必要最小限にでき、さらに印刷ジョブでの帯域幅消費が改善されます。UPSでは、VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップで単一の汎用ドライバー「ユニバーサルプリンタードライバー」が使用されます。Universal Print Serverパッケージは、VDI-in-a-Boxダウンロードページからダウンロードできます。インストール方法など、Universal Print Serverパッケージについて詳しくは、XenDesktop 7のドキュメントの印刷に関するトピックを参照してください。

注：Universal Print Serverは、Windows Server 2012ではサポートされません。

VDI-in-a-Box環境にUniversal Print Serverをインストールするには、次の手順に従います。

1. VDI-in-a-BoxダウンロードページからUniversal Print Serverパッケージをダウンロードします。
2. パッケージの内容を展開して、ネットワーク上の共有フォルダーにコピーします。
3. Windows Server 2008 R2が動作するサーバー上にCitrix HDX Group Policy Managementパッケージをインストールします。
4. 同じサーバー上に、UPServerコンポーネントをインストールします。これにより、[印刷とドキュメントサービス] の役割が有効になります。
5. Citrix HDX Printing Group Policyを構成します。
6. デスクトップでCitrix Print Manager Serviceが正しく起動することを確認します。これを行うには、サービス管理ツール

(services.msc) を起動して [Citrix Print Manager Service] のエントリーを確認します。

Citrix Print Manager Serviceが起動しない場合は、以下の手順に従います。この手順では、Windowsタスクスケジューラを使用してデスクトップ上のCitrix Print Manager Serviceを起動しますが、グループポリシーとログオンスクリプトを使用することもできます。

1. イメージを編集します。
2. ドラフトイメージに管理者としてログオンします。
3. 以下のコマンドを実行するバッチファイルを作成します。
`net start cpsvc`
4. 作成したバッチファイルをCドライブなどに保存します。管理者のプロファイル内に保存しないでください。
5. Windowsタスクスケジューラを起動します。
6. 新しいタスクを作成して、「Citrix Print Service」などの名前を付けます。次の情報を入力します。
 - [全般] タブで、[セキュリティオプション] の [ユーザーまたはグループの変更] をクリックしてすべてのドメインユーザーを追加し、[ユーザーがログオンしているかどうかにかかわらず実行する] をクリックします。[構成] ポップアップの一覧で、適切なオペレーティングシステムを選択します。
 - [トリガー] タブで、[新規] をクリックして、スタートアップ時にタスクを開始するための設定を行います。
 - [操作] タブで、プログラムを開始するための設定を行います。[参照] をクリックして、手順3.で作成したバッチファイルを指定します。
7. タスクを保存します。
8. vdiManager管理コンソールに戻ってイメージを保存および公開し、作成したタスクがスケジュールどおりに実行されることを確認します。
9. イメージを公開したら、公開デスクトップにログオンしてWindowsの[スタート] メニューからサービス管理ツール (services.msc) を起動し、Citrix Print Manager Serviceが実行されていることを確認します。

ベンダー製ドライバーの使用

プリンターのベンダーが提供するドライバーは、以下の状況でのみ使用します。

- Universal Print Serverを使用できない。
- ユニバーサルプリンタードライバーと互換性のない特殊なプリンターを使用する必要がある。
- Active Directoryが使用されていない環境でVDI-in-a-Boxをワークグループモードで展開する。

VDI-in-a-Boxイメージにベンダー製ドライバーをインストールしなければならない場合は、物理コンピューターと同じ方法でインストールできます。このドライバーは、ローカルプリンター、ネットワークプリンター、ワイヤレスプリンターで使用できます。

エンドユーザーによるインストール作業を排除するには、管理者がプリンタードライバーをVDI-in-a-Boxイメージ上にインストールします。プリントサーバーを使用する環境では、そのサーバーからドライバーを展開することもできます。この場合、イメージ上にドライバーをインストールしなくても、ユーザーセッションでプリンターに接続したときに自動的にインストールされます。ただし、これにより帯域幅が消費されます。また、仮想デスクトップ上でソフトウェアやドライバーをインストールするための権限がユーザーに付与されていない場合もあります。

ユーザーの場所に応じた印刷

管理者は、Active Directoryでプリンターを特定のコンピューターやユーザーに割り当てることができます。通常、ここで説明する方法では [印刷とドキュメントサービス] の役割と、プリンタードライバー（ベンダー製またはCitrixユニバーサルプリンタードライバー）およびHDX Group Policy ManagementパッケージがインストールされたWindowsサーバーが必要です。

ユーザーの場所に応じた印刷機能（「近接プリンター機能」とも呼ばれます）を使用すると、作業場所やActive Directoryメンバーシップに基づいて、通常使用するものとは異なるプリンターにアクセスできるようになります。

Windowsサーバーでのプリンター展開

管理者は、Active Directoryとグループポリシーにより、サードパーティ製ソリューションを使用せずに近接プリンター機能を構成できます。これらの方法でプリンターを展開するには、Windowsサーバードメインコントローラーと、[印刷とドキュメントサービス]の役割が有効なWindowsサーバーが必要です。これらの役割を同一Windowsサーバー上で実行することもできます。

まず、Citrix Universal Print Serverを使用するかベンダー製ドライバーを使用するかを決定します。ここで説明する手順は、Universal Print Serverとベンダー製ドライバーの両方に適用されます。

次に、プリンターの割り当て方法を決定します。

- 小規模なVDI-in-a-Box環境では、OUに応じてグループポリシーの適用フィルターを設定します。たとえば、3つの異なるユーザーグループがあり、それらのグループ用に3つのイメージを用意して異なるアプリケーションをインストールします。管理者は、「VDI-Desktops」という名前のOUを作成して、さらに「Finance」、「Sales」、および「Engineering」という子OUを作成します。この場合、Active Directoryで各イメージを「Finance」、「Sales」、および「Engineering」にそれぞれ追加して、各OUに印刷のグループポリシーを割り当てます。
- ほとんどのVDI-in-a-Box環境では、グループのメンバーシップに基づいて異なるグループポリシーを割り当てる方が簡単です。多くの場合、展開するイメージの数は多くなく、すべて同じOUに追加されています。特定グループのユーザーが使用する一連のプリンターごとにGPOを作成できます。この方法は、各ユーザーグループの場所に応じてネットワークプリンターが既に展開されている環境に適しています。たとえば、各部署のユーザーがフロアごとに配置されており、その部署ごとにプリンターが展開されている環境がこれに該当します。この場合、GPOを作成してそれにプリンターを割り当てて、それをグループメンバーシップに基づいて適用します。これにより、そのグループの各メンバーが仮想デスクトップで自分のフロアのプリンターにアクセスできるようになります。
- クライアントのIPアドレスに基づいてプリンターを割り当てることもできます。ただし、この方法は場所や部署に応じて特定のIPアドレスが割り当てられる環境や、キオスク型の運用でのみ使用できます。

以下の例のVDI-in-a-Box環境では、Windows Server 2008 R2がドメインコントローラーおよびプリントサーバーとして使用されています。プリンタードライバーのインストールを最小限にするためCitrix Universal Print Serverがインストールおよび構成されており、Active Directoryのグループメンバーシップに基づいて仮想デスクトップにネットワークプリンターが展開されます。Windowsサーバーの[印刷とドキュメントサービス]の役割を使って各部署にネットワークプリンターが構成されています。

1. 「VDI-Desktops」という名前のOUを作成します。DNは「OU=VDI-Desktops,DC=company,DC=com」です。
2. WindowsサーバーにCitrix Universal Print Serverコンポーネントをインストールします。これには、HDX Group Policy Managementコンポーネントも含まれます。
3. VDI-in-a-Boxで1つのイメージを構成します。
 1. Citrix UPClientコンポーネントをインストールします。
 2. イメージ準備して、VDI-Desktops OUに追加します。
4. VDI-in-a-Boxデスクトップを使用する各部署用に「Finance Desktop」、「Marketing Desktop」、および「Inside Sales Desktop」という名前のテンプレートを作成します。このとき、プリンターをリダイレクトする設定が無効になっていることを確認します。
5. ドメインコントローラーでグループポリシー管理エディターを開きます。
6. VDI-Desktops OUに割り当てる新しいGPOを作成して、CitrixポリシーでCitrix Universal Print Serverが使用されるように構成します。
7. VDI-Desktops OUで各部署のGPOを作成し、「Finance - Citrix Printers」などのわかりやすい名前を付けます。
8. 各部署の印刷用GPOを選択して、[セキュリティフィルター処理]の設定にそのグループのみが含まれるようにします。たとえば、「Finance - Citrix Printers」のGPOではAuthenticated Usersを削除してFinance Security Groupを追加します。これをすべての部署について行います。
9. Windowsサーバーで印刷の管理ツール (Printmanagement.msc) を開きます。
10. [プリントサーバー] > [<サーバー名>] > [プリンター]の順にクリックします。

11. Finance部署で使用するプリンターを右クリックして、[グループポリシーの展開] を選択します。
12. [GPO名] の [参照] をクリックして、[VDI-Desktops] OUの [Finance - Citrix Printer] GPOを選択します。
13. [このGPOが適用されるコンピューターに展開する] オプションを選択して[追加] をクリックします。
14. [OK] をクリックし、各部署について手順11.~13.を繰り返します。
15. 各VDI-in-a-Boxテンプレートのデスクトップを起動します。
16. 各部署のデスクトップにログオンして、適切なプリンターがインストールされていることと、テストページを正しく印刷できることを確認します。

Windowsログオンスクリプト

管理者は、カスタムのログオンスクリプトを作成して、クライアントの場所に応じて適切なネットワークプリンターに接続できるように構成できます。VDI-in-a-Boxでは、クライアントデバイスのIPアドレスがレジストリに書き込まれます。管理者は、このレジストリキーに基づいてネットワークプリンターを割り当てるスクリプトを作成できます。この方法は、ほとんどのネットワークプリントサーバー環境やCitrix Universal Print Server環境で使用できます。

クライアントのIPアドレスは、以下のレジストリに書き込まれます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Kaviza\dtagent\endPointAddress

endPointAddressのデータフィールドを抽出してスクリプトで使用します。たとえば、学校のコンピューター室と生物室で生徒が各自のラップトップを持参する場合、各教室では異なるDHCPスコープが適用されるため、コンピューター室での授業ではコンピューター室のネットワークプリンターだけがVDI-in-a-Boxデスクトップに割り当てられるようにスクリプトを作成できます。生物室用にも同様のスクリプトを作成し、コンピューター室でログオフして生物室からVDI-in-a-Boxデスクトップに再接続する場合にも適切なネットワークプリンターが割り当てられるようにできます。

Profile managementの構成

Sep 17, 2015

ユーザーの個人用設定を仮想デスクトップに適用するには、VDI-in-a-BoxでCitrix Profile managementを使用します。Profile managementにより、ユーザープロファイルが集約化および最適化され、管理の手間と必要なストレージを最小限に抑えることができます。Profile managementをすべてのユーザーの場所またはユーザーデバイスに適用することで、ユーザーのログインとログオフにかかる時間を短縮できます。

VDI-in-a-BoxでProfile managementを使用する場合は、Profile managementエンドユーザーライセンス契約 (EULA) に同意する必要があります。

前提条件

- VDI-in-a-Boxグリッド。
- vdiManagerでWindows 7以降のイメージが公開されている。
- ファイルサーバー上に、ユーザーが読み取りおよび書き込み権限を持つ共有フォルダーがある。

新機能をフルに活用するため、常に最新バージョンのVDI-in-a-BoxとProfile managementを使用することをお勧めします。

VDI-in-a-BoxのProfile managementをインストールおよび構成するには

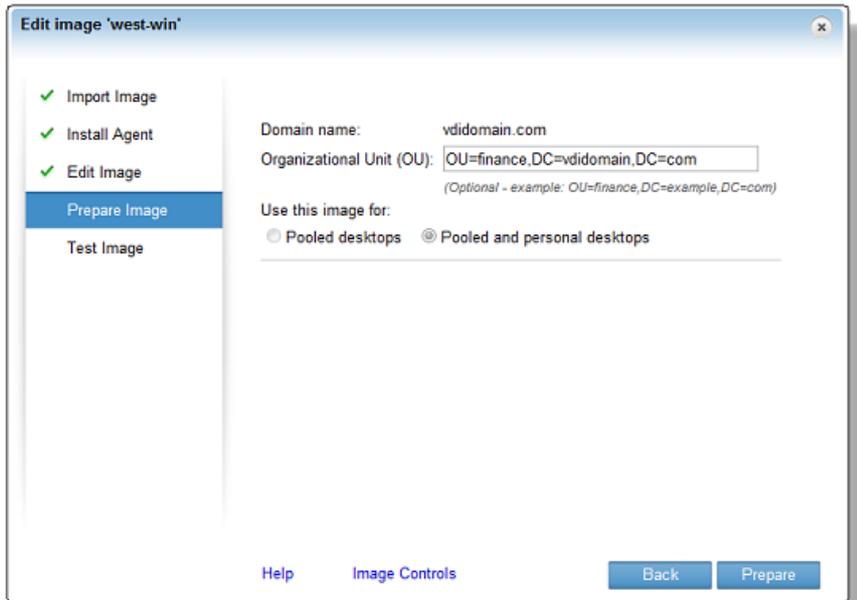
eDocsで、使用するバージョンの「[プロファイル管理 \(Profile Management\)](#)」のトピックを参照して、展開を計画し、セットアップを実行します。

プロファイル管理機能をVDI-in-a-Boxサーバーにはインストールしないでください。プロファイル管理機能は、仮想デスクトップの作成元のイメージにインストールします。

Profile management用にVDI-in-a-Boxイメージを構成するには

デスクトップの作成に使用される各イメージに、グループポリシーオブジェクト (GPO) テンプレートで構成された組織単位 (OU) を設定します。

1. イメージに設定されているOUを確認するには、[Images] タブをクリックし、イメージ名をクリックします。
2. イメージのOUを設定するには
 1. [Images] タブをクリックし、イメージの [Edit] をクリックして、[Confirm] をクリックします。
 2. [Edit draft image] ウィザードで、[Organizational unit (OU)] を入力します。



新しいドラフトイメージを保存すると、そのイメージが新しい公開イメージになり、元の公開イメージは非アクティブになります。公開イメージに対する変更は、そのイメージに関連付けられたテンプレートの更新（リフレッシュ）ポリシーに基づいて各デスクトップに反映されます。

Profile managementの最適化

VDI-in-a-Box環境が効率的に機能して、データの損失が発生しないようにするため、Profile managementのオプションの機能であるアクティブライトバックおよびプロファイルストリーム配信を構成することをお勧めします。

アクティブライトバック機能を有効にするには

アクティブライトバック機能を有効にすると、プロファイルに対する更新がセッション中に定期的に同期されます。デフォルトでは、ユーザーのログオフ時にのみプロファイルの更新が保存されるため、定期的にリフレッシュされるデスクトップの場合はセッションでの更新内容が保持されません。この機能を有効にすると、ログオフ時に同期されるプロファイルデータのサイズが小さくなります。また、仮想デスクトップに問題が発生したり、正しくシャットダウンされずにリセットされたりした場合でも、プロファイルに対する更新が失われません。

アクティブライトバック機能の構成方法について詳しくは、適切なバージョンのProfile managementのドキュメントを参照してください。

プロファイルストリーム配信機能を有効にするには

プロファイルストリーム配信機能を有効にすると、ユーザープロファイルの内容が必要に応じて取得されるようになります。これによる利点は以下のとおりです。

- ユーザープロファイルの全体をロードする必要がないため、高速にログオンできます。
- ユーザーが新しいデスクトップのログオンするたびにプロファイル全体をユーザーストアとかで間で同期する必要がないため、ネットワーク帯域幅消費が減少します。

プロファイルストリーム機能の構成方法について詳しくは、適切なバージョンのProfile managementのドキュメントを参照してください。

VDI-in-a-BoxでStoreFrontを使用する

Sep 17, 2015

このトピックでは、VDI-in-a-Boxで使用するStoreFrontのインストールおよび構成について説明します。また、StoreFrontを使用してVDI-in-a-Boxの仮想デスクトップにアクセスする場合に考慮すべき要件や制限についても説明します。

StoreFrontは、Windowsアプリケーション、Webアプリケーション、SaaSアプリケーション、およびモバイルアプリケーションを集約して、さまざまな場所で異なる種類のデバイスを使用するユーザーにこれらのリソースを配信するための統合アプリケーションおよびデータストアとして機能します。管理者は、単一の集約ポイントから、XenAppアプリケーションやXenDesktop仮想デスクトップと一緒にVDI-in-a-Boxのデスクトップを配信できます。

StoreFrontのVDI-in-a-Boxサポートにより、ローカル接続およびリモート接続でのシングルサインオン機能、およびNetScaler Gateway Enterprise Editionによる強固な2要素認証機能が提供されます。これにより、展開環境でのセキュリティおよびユーザーエクスペリエンスが向上します。また、StoreFrontを使用することで、ユーザーのWindowsおよびMacデバイスにCitrix Receiverやその関連コンポーネントを簡単に展開できます。

サポートされるバージョンについては、「[オプションのコンポーネント](#)」を参照してください。

StoreFrontについて詳しくは、「[StoreFront](#)」を参照してください。

StoreFrontの要件および制限

StoreFrontからアクセスできるのは、Active Directoryで構成されたグリッドからの仮想デスクトップのみです。ワークグループモードのデスクトップにはStoreFrontからアクセスできません。

StoreFrontは、VDI-in-a-Boxを実行するサーバーと同じフォレストに属している必要があります。

StoreFrontとVDI-in-a-Box間の接続をHTTPSで保護する場合は、VDI-in-a-Boxサーバー上にSSL証明書をインストールしてからStoreFrontを構成する必要があります。証明書要求の作成および証明書のインストールについては、「[SSL証明書の管理](#)」を参照してください。

StoreFrontからVDI-in-a-Boxキオスクにアクセスすることはできません。

StoreFront 2.xをインストールして構成するには

1. StoreFrontのドキュメントを参照して、StoreFrontをインストールします。
2. StoreFrontをインストールしたら、Citrix StoreFront管理コンソールを開きます（[スタート] > [すべてのプログラム] > [Citrix] > [Citrix StoreFront]）。
3. Citrix StoreFront管理コンソールの結果ペインで、[新しい展開環境の作成] をクリックします。
4. StoreFrontサービスへのアクセスに使用される基本URLを指定して、[次へ] をクリックして認証サービスをセットアップします。この認証サービスにより、VDI-in-a-Boxサーバーにアクセスするユーザーが認証されます。
5. [ストア名] ページで、ストアの名前を指定して、[次へ] をクリックします。
6. [Delivery Controller] ページで、[追加] をクリックします。
7. [Delivery Controllerの追加] ダイアログボックスで、この展開環境に対するわかりやすい名前（「VIAB Grid」など）を指定して [VDI-in-a-Box] を選択します。
8. [追加] をクリックし、VDI-in-a-BoxサーバーのIPアドレスを入力します。
フォールトトレランスとしてグリッド用の仮想IPアドレス機能をVDI-in-a-Boxで使用している場合は、グリッドの仮想アドレスのみを入力します。この機能を使用していない場合は、複数のIPアドレスを入力するとStoreFrontによるフォールトトレランスが有効になります。これにより、入力したアドレスの順番に従ってフェールオーバーされます。

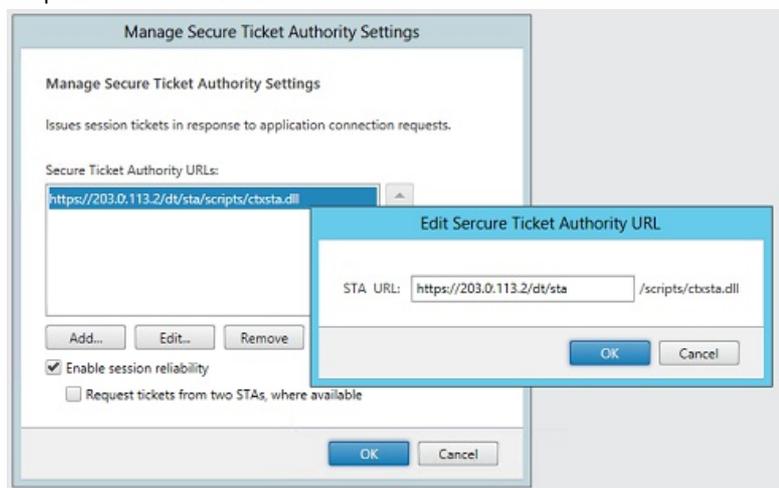
9. [トランスポートの種類] ボックスの一覧から、StoreFrontでサーバーとの通信に使用する接続の種類を選択します。
- 暗号化されていない接続でデータを送信するには [HTTP] を選択します。このオプションを選択した場合は、StoreFrontとVDI-in-a-Box間の接続を何らかの方法で保護することを検討してください。ただし指定のStoreFrontサイトがHTTPSで構成されている場合は、この選択とは関係なくStoreFrontへのユーザー接続が暗号化されます。
 - HTTP接続で送信されるデータをSSLまたはTLS (Transport Layer Security) で保護するには、[HTTPS] を選択します。この場合、StoreFrontによりSSL証明書が検証されます。このため、管理者はすべてのVDI-in-a-Boxサーバー上に信頼される証明書をインストールしておく必要があります。
注：HTTPSを使用する場合は、[サーバー] ボックスの一覧に追加したサーバー名が、そのサーバーの証明書のサーバー名と一致することを確認してください (大文字/小文字は区別されます)。
10. StoreFrontでVDI-in-a-Boxへの接続に使用するポートを指定します。デフォルトでは、HTTP接続では80、HTTPS接続では443が使用されます。
11. [OK] をクリックします。必要に応じて手順6.~11.を繰り返し、[Delivery Controller] ページの一覧に展開環境を追加します。[次へ] をクリックします。
12. [リモートアクセス] ページでは、公共のネットワーク上のユーザーにNetScaler Gatewayを介したアクセス (リモートアクセス) を提供するかどうか、およびその方法を指定します。
- 公共のネットワーク上のユーザーにストアへのアクセスを禁止するには、[なし] を選択します。これにより、内部ネットワークのローカルユーザーのみがストアにアクセスできるようになります。このオプションを選択した場合は、手順24.に進みます。
 - 公共のネットワーク上のユーザーがNetScaler Gateway経由でストアのリソースのみを使用できるようにするには、[VPNトンネルなし] を選択します。この場合、ユーザーはNetScaler Gatewayに直接ログオンするため、NetScaler Gateway Plug-inを使用する必要はありません。
 - 公共のネットワーク上のユーザーがSSL仮想プライベートネットワーク (VPN) トンネルを介して内部ネットワーク上のストアおよびそのほかのリソースを使用できるようにするには、[完全VPNトンネル] を選択します。この場合、ユーザーはVPNトンネルを確立するためのNetScaler Gateway Plug-inを使用する必要があります。
- NetScaler Gatewayを経由するストアへのリモートアクセスを有効にすると、認証方法としてNetScaler Gatewayからのパスルーが自動的に有効になります。ユーザーはNetScaler Gatewayにログオンするときに認証されるため、ストアにアクセスするときは自動的にログオンできます。
13. リモートアクセスを有効にした場合は、ユーザーがストアにアクセスするときに使用するNetScaler Gateway展開環境を一覧に追加します。[追加] をクリックします。
14. [全般設定] ページで、NetScaler Gateway展開環境にわかりやすい名前を指定します。
管理者が指定するこの表示名がCitrix Receiverに表示されます。そのため、ユーザーが使用する展開環境を判断しやすいように、名前に関連情報を含める必要があります。たとえば、ユーザーが自分のいる場所に最も便利なNetScaler Gatewayを簡単に特定できるように、表示名に地理情報を含めることができます。
15. [Gateway URL] ボックスに、NetScaler Gateway展開環境のユーザーログオンポイントまたは仮想サーバーのURLを入力します。ログオンポイントまたは仮想サーバーが、スタンドアロンのNetScaler Gatewayアプライアンスと、NetScaler Gatewayクラスターの一部であるAccess Controllerサーバーのどちらでホストされているのかを指定します。
16. 使用するNetScaler Gatewayのバージョンを選択します。
17. NetScaler Gateway Enterprise Edition以外の展開環境を介してリモートアクセスを構成する場合は、[次へ] をクリックして手順19.に進みます。NetScaler Gateway Enterprise Editionを経由するリモートアクセスを構成する場合は、NetScaler GatewayアプライアンスのサブネットIPアドレスを指定します。
サブネットアドレスは、NetScaler Gateway Enterprise Editionで内部ネットワークのサーバーと通信するときに、ユーザーデバイスを表すために使用するIPアドレスです。このアドレスは、NetScaler GatewayアプライアンスのマッピングされたIPアドレスである場合もあります。StoreFrontではサブネットIPアドレスを使用して、受信要求が信頼されているデバイスから発信されているかどうかを検証します。
18. Citrix ReceiverユーザーがNetScaler Gateway Enterprise Editionを経由してデスクトップとアプリケーションにアクセスす

るときの認証方法を、[ログオンの種類] ボックスの一覧から選択します。

- ユーザーのドメイン資格情報を入力させる場合は、[ドメイン] を選択します。
- セキュリティトークンから取得するトークンコードを入力させる場合は、[セキュリティトークン] を選択します。
- ユーザーのドメイン資格情報とセキュリティトークンから取得するトークンコードの両方を入力させる場合は、[ドメインおよびセキュリティトークン] を選択します。
- テキストメッセージで送信されるワンタイムパスワードを入力させる場合は、[SMS認証] を選択します。
- スマートカードを使用させる場合は、[スマートカード] を選択します。

[次へ] をクリックします。

19. StoreFrontにNetScaler Gatewayクラスターを構成する場合は、[アプライアンス] ページでクラスター内のNetScaler GatewayアプライアンスのIPアドレスまたは完全修飾ドメイン名を一覧にして、[次へ] をクリックします。
20. [Secure Ticket Authority (STA)] ページでSTAサーバーのURLを指定します。複数のSTAサーバーのURLをフェールオーバーの順序で一覧に入力して、フォールトトレランスを有効にします。グリッド用の仮想IPアドレス機能をVDI-in-a-Boxで使用している場合にフォールトトレランスを有効にするには、グリッドの仮想アドレスのみを入力します。
重要：VDI-in-a-Boxサーバーのパスを入力する場合、/dt/staをIPアドレスの後ろに含める必要があります。例
`https://203.0.113.2/dt/sta`



STAは、VDI-in-a-Boxサーバーへの接続要求に応答してセッションチケットを発行します。このセッションチケットに基づいて、サーバーファーム内のリソースへのアクセスが認証および認可されます。

21. Citrix Receiverが再接続を試行する間に切断セッションを開いたままにするには、[セッション画面の保持機能を有効にする] チェックボックスをオンにします。複数のSTAを構成した環境でセッション画面の保持機能を常に使用できるようにするには、[可能な場合は2つのSTAにチケットを要求する] チェックボックスをオンにします。
[可能な場合は2つのSTAにチケットを要求する] チェックボックスをオンにすると、セッションの途中で1つのSTAが使用できなくなってもユーザーセッションが中断されないように、StoreFrontにより2つの異なるSTAからセッションチケットが取得されます。StoreFrontがどちらのSTAにもアクセスできない場合は、単一のSTAを使用するようにフォールバックされます。
22. [OK] をクリックすると、NetScaler Gateway展開環境を経由するStoreFrontへのリモートユーザーアクセスが構成されます。
23. 必要に応じて手順13.から22.を繰り返し、NetScaler Gateway展開環境を[リモートアクセス] ページの一覧に追加します。複数の展開環境を追加した場合は、ストアへのアクセスに使用するデフォルトのNetScaler Gatewayアプライアンスを指定します。
24. [リモートアクセス] ページで[作成] をクリックし、ストアが作成されたら[完了] をクリックします。StoreFrontにより、新しいストアと認証サービスの間信頼関係が自動的に確立されます。

新しいストアのReceiver for WebサイトのURLが表示されます。ユーザーは、Receiver for Webサイトを經由してデスクトップにアクセスできます。

ユーザーがCitrix ReceiverからReceiver for Webサイト経由でアクセスするストアが作成されました。ストアを作成した後は、Citrix StoreFront管理コンソールでさらに多くのオプションを使用できるようになります。

デフォルトのストア構成では、Citrix Receiver Updater for WindowsおよびCitrix Receiver Updater for Macのユーザーがストアにアクセスしたときに、プラグインの更新プログラムがCitrix WebサイトのCitrix Update Serviceから直接受信されます。ストアの構成によっては、特定のプラグインが含まれている場合もあります。

VDI-in-a-BoxでのCitrix AppControllerの使用

Sep 17, 2015

App Controllerを使用すると、仮想デスクトップ、モバイルアプリ、SaaSアプリケーション、およびデータなどのすべての業務リソースに一拠点からアクセスできるようになります。

App Controllerを既に使用している環境では、App Controllerでエンドユーザーに提供するリソースにVDI-in-a-Boxデスクトップを簡単に追加できます。

注：VDI-in-a-BoxでApp Controllerを使用する場合、CGPによるデスクトップアクセスのみがサポートされます。CGPを使用しないアクセスはサポートされていません。

サポートされるバージョンについては、「[オプションのコンポーネント](#)」を参照してください。

VDI-in-a-Boxで使用できるようにApp Controllerを構成するには

1. App Controller管理コンソールにログインします。
2. [Apps & Docs] タブをクリックします。
3. [Apps & Docs] パネルで、[Windows Apps] をクリックします。
4. [Host] に、VDI-in-a-BoxサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。次に例を示します。192.0.2.9
5. [Port] に「443」と入力します
6. [Relative Path] に「/dt/PNAgent/config.xml」を入力します
7. [Allow secure access] チェックボックスをオンにします。
8. [Save] をクリックします。

App Controllerについて詳しくは、「[App Controller](#)」を参照してください。

Microsoft Lyncによる通話を最適化する

Sep 17, 2015

ユーザーが仮想デスクトップ上のMicrosoft Lyncを使用する環境では、Citrix RealTime HDX Optimization Packを使用して通話時のオーディオおよびビデオの品質を最適化できます。Lync Optimization Packを使用すると、Lync通話のオーディオおよびビデオがローカルリソースに渡され、処理の効率化と再生品質の向上が提供されます。

Lync Optimization Packは、以下の2つのコンポーネントで構成されています。

1. HDX RealTime Media Engine。このコンポーネントはユーザーデバイスにインストールします。
2. HDX RealTime Connector。このコンポーネントはサーバーの仮想デスクトップにインストールします。

Lync Optimization Packは、[VDI-in-a-Boxダウンロードページ](#)からダウンロードできます。

Lync Optimization Packのシステム要件、インストール手順、および構成方法などの情報については、eDocsの [HDX RealTime Optimization Pack for Microsoft Lync](#)」を参照してください。

Citrix Desktop Lockの管理

Sep 17, 2015

Citrix Desktop Lockは、ユーザーがローカルのデスクトップにアクセスできなくなるようにユーザーデバイスを「ロックダウン」します。これにより、ユーザーはVDI-in-a-Box仮想デスクトップだけにアクセスできるようになります。

ユーザーには、単一のテンプレートのみを割り当てます。

シングルサインオン機能を提供するには、ユーザーデバイスがVDI-in-a-Boxグリッドと同じドメインに属している必要があります。

Desktop Lockをインストールするには、以下の手順に従います。

1. 「[ユーザーデバイスの要件](#)」を参照して、環境の要件について確認します。
2. ユーザーのコンピューターに管理者権限でログオンします。
3. Citrix社のWebサイトのCitrix Receiverダウンロードページから、Citrix Receiver 3.4 Enterprise Editionをダウンロードします。
4. Citrix社のWebサイトのVDI-in-a-Boxダウンロードページから、CitrixDesktopLock.msiをダウンロードします。
5. コマンドプロンプトで以下のコマンドを実行して、Receiverをインストールします。

```
CitrixReceiverEnterprise.exe/includeSSON
```

```
ADDLOCAL="ReceiverInside,ICA_Client,SSON,USB,DesktopViewer,Flash,PN_Agent,Vd3d" SERVER_LOCATION="
```

ここで、my.vdi-gridはVDI-in-a-BoxグリッドのURLです。

6. Receiverのインストールが完了したら、Receiverの資格情報を入力するダイアログボックスで[キャンセル] をクリックします。
7. CitrixDesktopLock.msiをダブルクリックして、ウィザードの指示に従ってDesktop Lockをインストールします。
8. インストールが完了したら、[Close] をクリックします。
9. メッセージが表示されたら、ユーザーデバイスを再起動します。通常のドメインユーザーアカウントでログオンすると、ローカルデスクトップではなくVDI-in-a-Boxデスクトップが開きます。

スマートカード認証の構成

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxはスマートカード認証をサポートしているため、ユーザーはスマートカードリーダーを使用して仮想デスクトップにログオンすることができます。ログオンするには、スマートカードをスマートカードリーダーに挿入してから、スマートカードのPIN（暗証番号）を入力します。セッション中にユーザーがスマートカードを取り出すと、強制的にログオフされます。

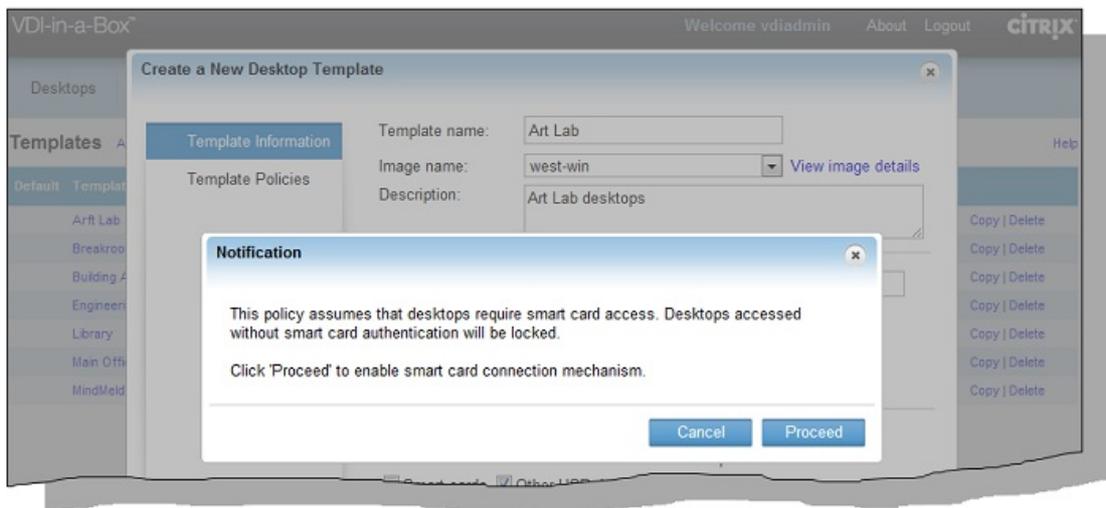
前提条件

- 使用するスマートカードのデバイスドライバーをドラフトイメージ上にインストールしてからそのイメージを公開し、デスクトップをプロビジョニングします。
- テンプレートの [Smart cards] チェックボックスをオンにします（下記の説明を参照）。
- Active Directoryの要件：
 - VDI-in-a-Boxグリッドとデスクトップは同一ドメインに属している必要があります。
 - グループポリシーでスマートカード取り出し時の動作を構成します。たとえば、スマートカードを取り出したときにユーザーがユーザーデバイスから強制的にログオフされるように設定できます。これにより、Citrix Receiverがアンロードされ、次のセッション用にリセットされます。
- ユーザーデバイスの要件：
 - サポートされるWindowsベースのオペレーティングシステム。
 - デバイスがvdiManagerに直接接続する場合は、そのデバイスをグリッドやデスクトップと同じドメインに追加する必要があります。Receiver EnterpriseをインストールしてvdiManagerのPNAgentアドレス ([http\(s\)://<vdiManagerIP-or-hostname>/dt/PNAgent/config.xml](http(s)://<vdiManagerIP-or-hostname>/dt/PNAgent/config.xml)) を構成する必要があります。httpとhttpsのどちらを使用するか、およびvdiManagerをどのように指定するかは、使用するReceiverのバージョンによって異なります。デバイスはデスクトップと異なる組織単位（OU）に属していても構いません。
 - デバイスがStoreFront 2.xを経由して接続する場合は、Receiver 4.xをインストールする必要があります。StoreFrontのフロントアをスマートカードパススルー認証が有効になるように構成します。デバイスはグリッドおよびデスクトップと同じドメインに参加させることも、ワークグループに参加させることもできます。

注：Active Directoryドメインに属していないユーザーデバイス（非Windowsシンクライアントなど）上でスマートカードを使用する場合は、下記の「非Windowsユーザーデバイスでスマートカード認証を構成するには」の手順および制限事項を確認してください。

Windowsユーザーデバイスでスマートカード認証を構成するには

1. スマートカード認証に必要なテンプレートを設計します。スマートカード用に構成されたテンプレートに基づくデスクトップにアクセスするにはスマートカードが必要です。ユーザーがスマートカードを使用せずにこのデスクトップに接続しようとすると、アクセスが拒否されます。
2. スマートカード用のテンプレートを作成します。
 1. [Templates] タブをクリックし、[Add] をクリックします。
 2. Create a New Desktop Templateウィザードで、通常どおりテンプレート情報を指定します。
 3. [Smart cards] チェックボックスをオンにします。



4. 確認のメッセージで [Proceed] をクリックし、[Next] をクリックします。
5. テンプレートポリシーを指定して、[Save] をクリックします。
3. ユーザーまたはグループを新しいテンプレートに割り当てます。これらのユーザーとグループの情報をスマートカードに登録しておく必要があります。詳しくは、「[ユーザー、グループ、およびIPアドレスへのテンプレートの割り当て](#)」を参照してください。
4. デバイスがvdiManagerに直接接続する場合は、ユーザーデバイス上のCitrix Receiver Enterpriseで[サーバーオプション]を選択し、[ログオンモード]で[パススルー認証]を選択します。デバイスがStoreFrontを経由して接続する場合は、LogonMethodをsmartcard_ssonと指定することにより、StoreFrontをスマートカードパススルー認証が有効になるように構成します。デバイス上のReceiver 4.xで、StoreFrontのストアを指定します。ユーザーがスマートカードリーダーにスマートカードを挿入すると、Receiverがユーザー名を自動的に読み取るため、ユーザーはPINを入力するだけでログオンできます。
5. ユーザーデバイスでスマートカード認証をテストします。
 - デバイスがvdiManagerに直接接続する場合は、スマートカードをスマートカードリーダーに挿入してPINを入力し、デバイスにログオンします。PINを再入力しなくてもデスクトップを起動できます。
 - デバイスがStoreFront経由で接続する場合は、スマートカードをスマートカードリーダーに挿入してPINを入力し、デバイスにログオンします。PINを再入力しなくてもデスクトップを起動できます。ユーザー名とパスワードを使用してデバイスにログオンする場合は、デスクトップを起動するためにスマートカードのPINを入力する必要があります。

非Windowsユーザーデバイスでスマートカード認証を構成するには

1. テンプレートの作成元となるイメージをインポートします。
2. イメージのレジストリを開き、REG_DWORD値ForceVdaStandaloneModeを編集してスタンドアロンモードを有効にします。この値を1に設定すると、スタンドアロンモードが有効になります。32ビットWindowsではHKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Citrix\VDI\HDX Connector Serviceにあり、64ビットWindowsではHKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Wow6432Node\Citrix\VDI\HDX Connector Serviceにあります。
注意：レジストリエディターの使用を誤ると、深刻な問題が発生する可能性があり、Windowsの再インストールが必要になる場合もあります。レジストリエディターの誤用による障害に対して、Citrixでは一切責任を負いません。レジストリエディターは、お客様の責任と判断の範囲でご使用ください。また、レジストリファイルのバックアップを作成してから、レジストリを編集してください。
3. Active Directoryで汎用ユーザーアカウントを作成し、強固なパスワードを設定します。
4. VDI-in-a-Boxコンソールで [Admin] タブをクリックし、[Advanced Properties] をクリックします。
5. [Enable generic user] チェックボックスおよび [Require users to re-enter username and password on Windows logon]

screen] チェックボックスをオンにします。

6. テンプレートを作成し（ [Smart cards] チェックボックスをオンにする）、そのテンプレートに汎用ユーザーとスマートカードユーザーを割り当てます。
7. ユーザーデバイスで、スマートカードを挿入せずにReceiverを起動して汎用ユーザーアカウントでログオンします。このとき、パスワードは空白にします。ユーザーに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。
8. いずれかのデスクトップを起動します。デスクトップへのログオン画面が開きます。
9. スマートカードを挿入してPINを入力します。選択したデスクトップが開きます。

アンチウイルスソフトウェアの管理

Nov 06, 2015

データの集中化およびプール化またはパーソナリ化したデスクトップのリフレッシュ機能により、VDI-in-a-Boxでは本質的にセキュアな環境が提供されます。さらにアンチウイルスソフトウェアを展開してセキュリティを強化する場合は、VDI環境に共通する以下の問題について考慮する必要があります。

プールされたデスクトップ上で実行されるソフトウェアは、ユーザーがデスクトップからログオフしたときに破棄されます。ユーザーがデスクトップにログオンすると、アンチウイルスソフトウェアにより新しいウイルス定義がダウンロードされます。ユーザーがデスクトップからログオフすると、ダウンロードされたウイルス定義はデスクトップと共に破棄され、古いウイルス定義を持つイメージから新しいデスクトップが再生成されます。ユーザーが新しいデスクトップにログオンすると、新しいウイルス定義が再びダウンロードされますが、ダウンロードするファイルのサイズは（イメージのウイルス定義を更新するまでは）時間と共に増大します。

この問題を避けるには、ウイルス定義をデスクトップとは異なる場所に格納して、すべてのデスクトップがその場所にアクセスできるようにします。仮想化環境用に開発された多くのアンチウイルスソフトウェアは、デフォルトで上記のような動作を行います。また、従来のアンチウイルスソフトウェアの中にも、このような使用方法をサポートしているものがあります。

互換性のあるアンチウイルスソフトウェアについては、<https://citrixready.citrix.com>を参照してください。

HDX機能および拡張機能の使用

Sep 17, 2015

Citrix HDXには、今日のメディアを駆使したユーザー環境に対して高品位のユーザーエクスペリエンスを提供する幅広い技術セットが含まれています。

これらのHDX機能や拡張機能の構成方法や使用方法については、「[HDXによる高品位ユーザーエクスペリエンスの配信](#)」を参照してください。VDI-in-a-BoxではHDX3D Proがサポートされません。

グループポリシーでHDXポリシーを構成するには

HDX機能の多くは、グループポリシーを使用して構成します。ネットワーク環境でActive Directoryが使用されており、適切な管理権限が付与されている場合は、グループポリシーエディターを使用してHDXポリシーを構成できます。Active Directory環境用のHDXポリシー設定テンプレートは、VDI-in-a-Boxダウンロードページで公開されています。

グループポリシーエディターでポリシーと設定項目にアクセスするには、ツリーペインの[コンピューターの構成] または [ユーザーの構成] の [Citrix Policies] を選択します。

ユーザーデバイスからのVDI-in-a-Boxへのアクセス

Sep 17, 2015

ユーザーは、Citrix VDI-in-a-Boxの仮想デスクトップにユーザーデバイスからアクセスします。ユーザーデバイスと仮想デスクトップの通信では、Citrix HDXまたはリモートデスクトップ接続 (RDP) のようなプロトコルが使用されます。ユーザーデバイスと仮想デスクトップとの間で通信を行うためには、クライアント側のプロトコルエージェントとサーバー側のプロトコルエージェントが必要です。

VDI-in-a-Boxがサポートするプロトコル

VDI-in-a-Boxは、以下のプロトコルをサポートしています。

- HDX
 - HDXはデフォルトのプロトコルです。
 - 追加のライセンスは不要です。
 - HDXは高品質のユーザーエクスペリエンスを提供します。
 - HDXは、狭い帯域幅を使用する場合でも、優れたマルチメディアサポートを提供します。
 - HDXは、WANを経由したリモートアクセスに適しています。
 - リモートデスクトップ接続 (RDP) のVersion 6.1、7.x、および8.x
 - RDPは、LAN環境に適しています。
 - RDP 8には、ハードウェアGPUによるレンダリングを必要としないRemoteFXのサポートが含まれています。
- 注：RDP 7または8を使用する場合は、仮想デスクトップとユーザーデバイスの両方でそれぞれWindows 7またはWindows 8を実行すると最良の結果を得ることができます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップへのアクセス

ユーザーは、以下の3つの方法でVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。

重要：すべてのアクセス方法で、ユーザーデバイスにCitrix Receiverが必要です。ただし、HTML5 Receiverをサポートできる、Chromebookのようなロックダウンされたデバイスを經由するアクセスは例外です。

● Webブラウザー

Webブラウザーでは、HDXとRDPの両方のプロトコルによる接続がサポートされますが、これらのプロトコル用の構成が必要です。Citrix Receiverがあらかじめインストールされていないデバイス (Chromebookなど) では、搭載されているWebブラウザーがHTML5をサポートする場合は、HTML5 Receiverを使用できます。HTML5 ReceiverのURLは次のとおりです。

`http(s)://<vdiMgrIP-or-hostname>/html5`

通常のURLは以下のとおりです。

`http(s)://<vdiMgrIP-or-hostname>`

● Citrix Receiver

- Citrix Receiverにより、WebブラウザーやVDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用することなく、HDX接続を通じて直接VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできます。
- Receiverでは、Windows、Mac、Linux、iOS、Androidの各プラットフォームからVDI-in-a-Boxデスクトップに接続できます。
- Citrix Receiverを使用すると、Webブラウザーを持たない古いローエンドのシンクライアントを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスすることができます。iPadのようなモバイルデバイスでも、Receiverを使用することで、WebブラウザーやJavaデスクトップクライアントを必要とせずにVDI-in-a-Boxにアクセスすることができます。

● **VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアント**

- Javaデスクトップクライアントのアップデートプログラムの有無が自動的に確認され、必要に応じて更新されます。
 - このクライアントではJava Runtime Environmentが必要です。
 - HDX接続を使用できない場合は、RDP接続に切り替わります。
- VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントでは、NetScaler Gatewayを使用できません。

クライアントアクセスの比較

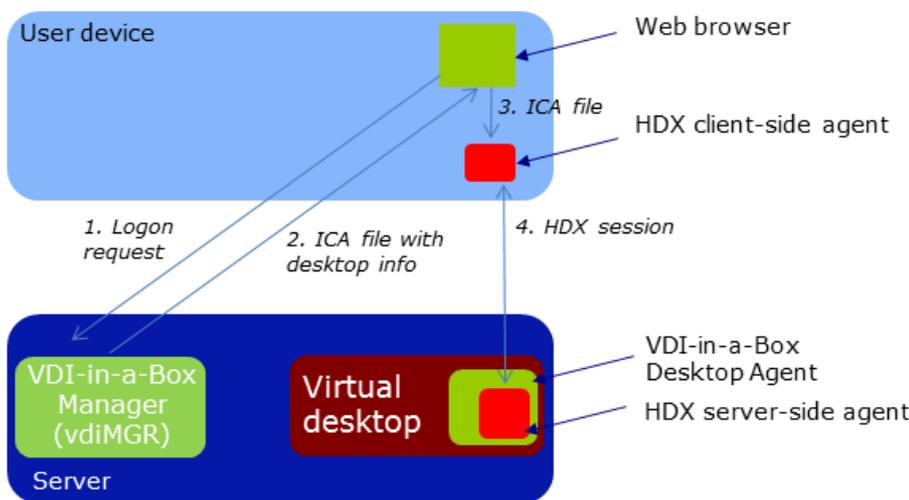
クライアント	仮想デスクトップへのアクセス	HDX接続が不能な場合のRDPへの自動切り替え	キオスク*	統合エラーメッセージ	vdiManager障害時の自動フェールオーバー
Citrix Receiver	○	(不要)	○		
Webブラウザ	○		○	○	
VDI-in-a-Box Javaクライアント	○	○	○	○	○

注：グリッド用の仮想IPアドレスを設定すると、すべてのアクセス方法で自動フェールオーバー機能を使用できるようになります。詳しくは、「[グリッドの管理](#)」を参照してください。

* キオスクオプションは、図書館やナースステーションなどに共有のユーザーデバイスを配置して、デスクトップをログオンユーザーではなく共有デバイスに割り当てる場合に使用します。キオスクデバイスでは、そのデバイス用に設定された同一のデスクトップをすべてのユーザーが使用します。

ユーザーデバイスからのログオン

次の図は、ユーザーデバイス上のWebブラウザとサーバー上のVDI-in-a-Boxマネージャー間における基本的なログオンプロセスを示しています。ユーザーデバイスとサーバー上の特定の仮想デスクトップ間のHDXセッションは、Receiverを使用して作成されます。接続が確立されると、セッションのトラフィックはReceiverと仮想デスクトップ間でのみ発生します。Javaデスクトップクライアントの使用時も同様のプロセスが適用されます。



VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのWindows、Mac、およびLinuxデバイスの構成

Sep 17, 2015

前提条件

VDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにするには、ユーザーデバイスに適切なバージョンのCitrix Receiverをインストールします。Receiverは<http://receiver.citrix.com/?ntref=citrixdotcomdownloads>からダウンロードできます。

Linuxデバイスの場合は、rdesktopをインストールする必要もあります。rdesktopは<http://www.rdesktop.org>からダウンロードできます。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用する場合、Java Runtime Environment (JRE) をインストールする必要があります。JREは<https://www.java.com>からダウンロードできます。

Webブラウザを使用してVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにユーザーデバイスを構成するには

以下の手順は、使用するWebブラウザによって多少異なる場合があります。

1. Webブラウザを起動します。
2. Webブラウザのアドレスバーに、「<https://<vdiManagerIPaddress>>」と入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。 [VDI-in-a-Box Log On] ページが開きます。
4. ユーザーデバイスのデスクトップ上に、WebブラウザからVDI-in-a-Boxログオンページにアクセスするためのショートカットを作成します。

Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにユーザーデバイスを構成するにはユーザーデバイスからは、Citrix Receiverを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップに接続します。eDocsのReceiverのセクションを参照して、サーバーURLオプションを設定します。

URLは「[http\(s\)://<vdiManagerIPaddress-or-hostname>/dt/PNAgent/config.xml](http(s)://<vdiManagerIPaddress-or-hostname>/dt/PNAgent/config.xml)」です。httpとhttpsのどちらを使用するか、およびvdiManagerをどのように指定するかは、使用するReceiverのバージョンによって異なります。

ユーザー名は、vdiManager管理コンソールからデスクトップにアクセスするときに使用しているものを使用します。

VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントを使用してVDI-in-a-Boxデスクトップにアクセスできるようにユーザーデバイスを構成するには

1. デバイ스에 JRE가インストールされていることを確認합니다。
2. 브라우저의 주소창에 「<https://<vdiManagerIPaddress>/dt/vdclient.jnlp>」 を入力するか、コマンドプロンプトまたはターミナルウィンドウを介して、Javaデスクトップクライアントにアクセスできます。
 1. ユーザーデバイスのコマンドプロンプトまたはターミナルウィンドウを開きます。
 2. コマンドプロンプトまたはターミナルプロンプトで、「javaws <https://<vdiManagerIPaddress>/dt/vdclient.jnlp>」 と入力します。

Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。

3. 証明書を信頼されたものとして受け入れて、続行します。

注：この問題を回避するには、信頼されている証明書をvdiManagerにインストールするか、httpsを使用せず

<http://<vdiManagerIpAddress>/dt/vdiclient.jnlp>を使用します。jnlpファイルのみがhttpを介してダウンロードされるため、これによりセキュリティに問題が生じることはありません。資格情報は安全なhttps接続を介してvdiManagerに送信されます。

4. 別のセキュリティ警告が表示される場合は、受け入れて続行します。 [VDI-in-a-Box Client] ダイアログボックスが開きます。
5. VDI-in-a-Box Javaデスクトップクライアントのショートカットをデスクトップに作成します。
 1. ユーザーデバイスのコマンドプロンプトまたはターミナルウィンドウを開きます。
 2. コマンドプロンプトまたはターミナルプロンプトで、「javaws -viewer」と入力します。 [Java Cache Viewer] ウィンドウが開きます。
 3. JavaClientのエントリを右クリックして、 [Install Shortcuts] を選択します。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのiOSデバイスの構成

Sep 17, 2015

前提条件

- ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- iOSデバイス (iPadおよびiPhone) からデスクトップにアクセスするユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにiOSデバイスを構成するには

Citrix Receiver for iOSについて詳しくは、eDocsの「Receiver for iOS」のセクション（「[Receiver for iOS](#)」）を参照してください。

1. iTunes App StoreからReceiver for iOSをダウンロードしてインストールします。
2. Citrix Receiver for Mobile Devices用アカウントを手作業で構成するには、[新規アカウント]画面を開き、[アドレス]にVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) のアドレスを「<https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml>」のように入力します。
3. [次へ] をタップします。 [検証済み] 画面が開きます。
4. [検証済み] 画面で必要な設定を行って、[保存] をタップします。 そのユーザーアカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。

iOSデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. [アカウント] 画面で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. [資格情報の入力] 画面で、ユーザーの資格情報を入力して [OK] をタップします。
注：アカウントの設定によっては、ユーザーのパスワードが保存されている場合があります。その場合はこの手順は省略されます。
アカウントに割り当てられているデスクトップの一覧が表示されます。
3. 目的のデスクトップをタップします。 仮想デスクトップに接続されます。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするためのAndroidデバイスの構成

Sep 17, 2015

前提条件

- Citrix VDI-in-a-BoxグリッドのHDXが有効になっている。
- VDI-in-a-Box HDX Gatewayが有効でライセンスが適用されている。
- ユーザー認証用のActive DirectoryがCitrix VDI-in-a-Boxグリッドで設定されている。
- Androidデバイスからデスクトップにアクセスしているユーザーに、少なくとも1つのテンプレートが割り当てられている。

VDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスできるようにAndroidデバイスを構成するには

Citrix Receiver for Androidについて詳しくは、eDocsの「[Receiver for Android](#)」のセクションを参照してください。

1. AndroidマーケットからReceiver for Androidをダウンロードしてインストールします。
2. [アカウントの追加] 画面を開き、[アドレス] にVDI-in-a-Boxマネージャー (vdiManager) のアドレスを「<https://<vdiManagerIPAddress>/dt/PNAgent/config.xml>」形式で入力します。Webサイトの証明書に関するセキュリティ警告が表示される場合があります。
3. セキュリティ警告のメッセージが表示された場合は、[許可] をタップします。エラーメッセージが表示されます。
4. [手動セットアップ] をタップします。手動で設定するための [アカウントの追加] 画面が表示されます。
5. [アカウントの追加] ページで、[ユーザー名] と [ドメイン] を入力し、[追加] をタップします。
注意：必要に応じて、ここでユーザーのパスワードを入力しておくこともできます。これによりパスワードが保存されるので、ユーザーは認証なしにVDI-in-a-Boxデスクトップに接続することができます。
新しいアカウントが [アカウント] 一覧に追加されます。

AndroidデバイスからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスするには

1. Citrix Receiverの [アカウント] 一覧で、使用するVDI-in-a-Boxアカウントをタップします。
2. パスワードを入力します。
注：アカウントの追加時にパスワードを保存しておいた場合、この手順は省略されます。
3. ユーザーの資格情報を入力して、[ログオン] をタップします。仮想デスクトップに接続されます。

シンククライアントからVDI-in-a-Box仮想デスクトップにアクセスする

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Boxでは、HPやDell Wyseなどの主要ベンダーのさまざまなシンククライアントデバイスがサポートされています。Citrixでは、VDI-in-a-Box環境に適したシンククライアントデバイスの選択を支援する「Citrix Readyプログラム」を開始しました。Citrix Readyはシンククライアントベンダーを含むCitrixパートナーを対象にした認定プログラムであり、VDI-in-a-Boxを始めとするCitrix製品とパートナー製品との相互運用を検証しています。標準のCitrix Readyステータス、またはより厳格なHDX Readyステータスが認定されたシンククライアントデバイスを使用することで、環境でのVDI展開を理想的に行うことができます。HDX ReadyおよびCitrix Readyのシンククライアントデバイスについては、<http://www.citrix.com/ready/>を参照してください。

アップグレードと移行

Sep 17, 2015

既存の環境をVDI-in-a-Box 5.4にアップグレードまたは移行することができます。VDI-in-a-BoxからXenDesktopに移行することもできます。

VDI-in-a-Box 5.4にアップグレードまたは移行するには

以前のバージョンのVDI-in-a-Boxを使用している場合は、以下のアップグレードまたは移行方法に従ってください。

- VDI-in-a-Box 5.3.xまたは5.2.xは、Version 5.4にアップグレードできます。詳しくは、[「VDI-in-a-Box 5.4.xへのアップグレード」](#)を参照してください。
- VDI-in-a-Box 5.1.xは、Version 5.3に移行（[「VDI-in-a-Box 5.1.xからVDI-in-a-Box 5.3への移行」](#)参照）してから、Version 5.4にアップグレードできます。
- VDI-in-a-Box 5.0.xは、Version 5.2.1に移行（[「VDI-in-a-Box 5.0.xまたは5.1.xからVDI-in-a-Box 5.2への移行」](#)参照）してから、Version 5.4にアップグレードできます。

ほかのバージョンからの移行またはアップグレードはサポートされていません。

VDI-in-a-Boxを新しいHotfixパッケージでアップグレードするには

VDI-in-a-Boxを新しいHotfixパッケージでアップグレードする方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX140490>を参照してください。

XenDesktopに移行するには

VDI-in-a-Box 5.4以降を使用している場合は、ウィザードを使用してXenDesktopに移行することができます。詳しくは、[「XenDesktopへの移行」](#)を参照してください。以前のバージョンのVDI-in-a-BoxをXenDesktopに移行する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136081>を参照してください。

VDI-in-a-Box 5.4.xへのアップグレード

Sep 17, 2015

ここでは、既存のVDI-in-a-Box 5.3.xまたは5.2.xをVDI-in-a-Box 5.4.xにアップグレードする手順について説明します。ほかのバージョンからのVDI-in-a-Box 5.4への移行について詳しくは、「[アップグレードと移行](#)」を参照してください。

重要：サポートされない環境でVDI-in-a-Boxを実行することにより発生する可能性のある問題を回避するために、VDI-in-a-Boxをアップグレードする前に、現在展開されているバージョンのVDI-in-a-Boxでサポートされている最新バージョンにハイパーバイザーをアップグレードする必要があります。サポートされるバージョンのハイパーバイザーについて詳しくは、関連するリリースの「システム要件」トピックを参照してください。

VDI-in-a-Boxのアップグレードファイルをダウンロードするには

1. Webブラウザで、<https://www.citrix.com>に移動します。
2. My Accountにログオンしていない場合は、ログオンします。ログオンしないと、[Download] ページから製品ソフトウェアをダウンロードできません。
3. [Download] をクリックします。
4. 製品一覧から、[VDI-in-a-Box] を選択します。
5. ダウンロードの種類として、[Product Software] を選択します。
6. [Find] をクリックします。VDI-in-a-Box製品のページが開きます。
7. [VDI-in-a-Box 5.4] をクリックします。VDI-in-a-Box 5.4のページが開きます。
8. 「Upgrade」セクションで、「5.3.x or 5.2.x to version 5.4」の [Download] をクリックします。
9. [Download Now] をクリックします。
10. HF_VDI_inabox_5.4.x.tarのダウンロード先を指定して、[Save] をクリックします。

アップグレードの前に

グリッド全体をアップグレードする前に、既存のバージョンのVDI-in-a-Boxを実行するバックアップサーバーがあることを確認するか、単一サーバー（パイロットサーバー）上でアップグレードをテストすることを強くお勧めします。

バックアップサーバーを作成するには

1. 「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」の説明に従って、割り当て済みのすべてのパーソナルデスクトップをバックアップします。
2. 以下の手順で、サーバーをグリッドから削除します。
 1. [Servers] タブでサーバー名をクリックします。
 2. [Leave Grid] をクリックします。
 3. グリッドから削除したサーバー上のvdiManager管理コンソールを開き、[Servers] タブでサーバー名をクリックし、[Shutdown] をクリックします。
3. このトピックの説明に従って、グリッド内のほかのサーバーをアップグレードします。
4. 「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」の説明に従って、シャットダウンしたパーソナルデスクトップを、グリッドから削除したサーバーからほかのサーバー上に復元します。
5. アップグレードしたグリッドをテストします。正しくアップグレードされたことを確認したら、以下を行います。
 1. バックアップサーバーをアップグレードします。
 2. バックアップサーバーをリセットします。これを行うには、[Admin] タブで [Reset] をクリックします。
 3. 「[グリッドを作成して構成する](#)」の説明に従って、グリッドにこのサーバーを追加します。アップグレードしたグリッドで問題が生じた場合は、Citrixサポートにお問い合わせください。バックアップサーバーとバックアップ済みのパーソナルデスクトップを使ってグリッドを再構築いたします。

パイロットサーバーを作成するには

1. 「[パーソナルデスクトップのバックアップと復元](#)」の説明に従って、割り当て済みのすべてのパーソナルデスクトップをバックアップします。
2. 以下の手順で、サーバーをグリッドから削除します。
 1. [Servers] タブでサーバー名をクリックします。
 2. [Leave Grid] をクリックします。
 3. グリッドから削除したサーバー上のvdiManager管理コンソールを開き、[Servers] タブでサーバー名をクリックし、[Shutdown] をクリックします。
3. このトピックの説明に従って、そのサーバーをアップグレードします。
4. アップグレードしたサーバーをテストします。
5. グリッドをアップグレードします。
6. パイロットサーバーをリセットします。これを行うには、[Admin] タブで [Reset] をクリックします。
7. 「[グリッドを作成して構成する](#)」の説明に従って、グリッドにパイロットサーバーを追加します。

VDI-in-a-Boxをアップグレードするには

1. 必要に応じて、サポートされる最新のバージョンにハイパーバイザーをアップグレードします。
2. グリッドをメンテナンスモードにします。これを行うには、vdiManager管理コンソールの[Admin] タブで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。
3. 割り当て済みの静的デスクトップを除く、すべてのプールデスクトップを破棄します。
 1. アップグレード中はデスクトップを使用できなくなるため、ダウンタイムについてユーザーに通知しておきます。
 2. vdiManager 5.3.xまたは5.2.xのコンソールにログオンします。
 3. プールデスクトップの各テンプレートで、事前起動デスクトップの数を0に設定します。これを行うには、[Templates] タブでテンプレート名をクリックし、[Next] をクリックします。次に、[Pre-started desktops] で「0」と入力し、[Save] をクリックします。
4. すべてのドラフトイメージを公開するか破棄します。次の手順に進む前に、転送されるイメージがないことを確認します。
 1. [Images] タブをクリックします。
 2. ドラフトイメージやテストイメージが表示されていないことを確認します。
5. すべての割り当て済みパーソナルデスクトップおよび割り当て済み静的デスクトップをシャットダウンします。これを行うには、[Desktops] タブで [User Sessions] をクリックして、各デスクトップの [Actions] をクリックし、[Shutdown] をクリックします。
6. グリッド内のすべてのサーバーを非アクティブにします。これを行うには、[Servers] タブで目的のサーバーをクリックし、[Deactivate] をクリックして [Confirm] をクリックします。
7. [Admin] ページで、[Grid Upgrade] をクリックします。[Grid Upgrade] ダイアログボックスが表示されます。
8. [Choose File] をクリックし、アップグレードファイルを指定して、[Open] をクリックします。
9. [Submit] をクリックします。アップグレードが完了すると、ログオン用の画面が表示されます。
10. vdiManager管理コンソールにログオンします。
11. グリッドのメンテナンスモードを解除します。これを行うには、[Admin] ページで [Grid Maintenance] をクリックして、[OK] をクリックします。

VDI-in-a-Boxのアップグレードが完了したら、新しいバージョンのシステム要件を参照して、サポートされるバージョンのハイパーバイザーの詳細を確認します。その後で、ハイパーバイザーを新しくサポートされるバージョンにアップグレードします。

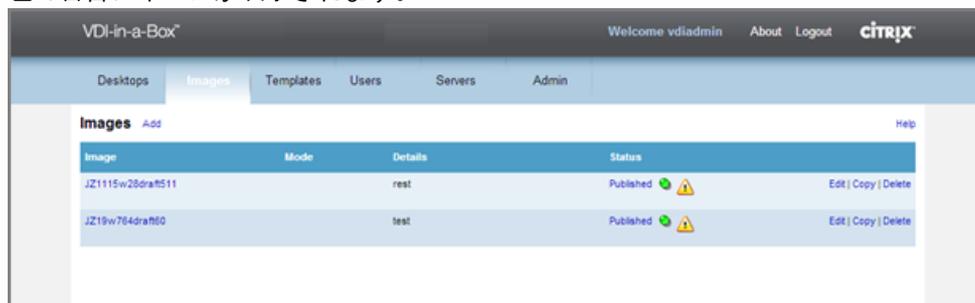
既存のイメージをアップグレードするには

VDI-in-a-Boxをアップグレードしたら、既存のイメージをアップグレードする必要があります。

注：ハイパーバイザーをアップグレード済みである場合は、イメージに最新バージョンのハイパーバイザーツールをインストールする必要があります。

注：VDI-in-a-BoxでCitrix Profile managementを使用している場合は、イメージをバージョン5.0以上に更新する必要があります。

1. 任意のサーバーのvdiManager管理コンソールにログオンし、[Images] タブをクリックします。すべてのイメージに、黄色の警告アイコンが表示されます。



2. 最初のイメージの警告アイコンをクリックします。新しいドラフトイメージを作成するかどうかを確認するメッセージが表示されます。
3. [Confirm] をクリックします。
[Edit Image] ページが開きます。
4. 必要な設定（新しいアプリケーションの追加など）を行って、[Next] をクリックします。
5. [Prepare Image] ページおよび [Test Image] ページで、必要な設定を行います。これらのページについて詳しくは、「最初のWindowsイメージを作成する」を参照してください。
6. [Test Image] ページで [Save] をクリックします。イメージの保存およびグリッド内のほかのサーバーへの配信を確認するメッセージが表示されます。
7. [Confirm] をクリックします。アップグレードされたイメージが公開され、リフレッシュポリシーによる展開の準備が完了しました。
8. 各公開イメージについて上記の手順を繰り返します。

デスクトップを更新するには

VDI-in-a-Boxおよびイメージをアップグレードしたら、すべてのデスクトップをリフレッシュする必要があります。

1. パーソナルデスクトップを再起動します。これを行うには、[Desktops] タブで [User Sessions] をクリックして、各パーソナルデスクトップの [Actions] をクリックし、[Restart] をクリックします。
注：ハイパーバイザーツールをアップグレード済みである場合は、パーソナルデスクトップを再起動すると、アップグレードされたバージョンのツールがデスクトップに自動的にインストールされます。
2. グリッド内のすべてのサーバーをアクティブにします。これを行うには、[Servers] タブで目的のサーバーをクリックし、[Activate] をクリックします。
3. プールデスクトップをプロビジョニングします。これを行うには、プールデスクトップの各テンプレートについて、[Templates] タブでテンプレート名をクリックし、[Next] をクリックします。次に、[Pre-started desktops] で事前起動デスクトップの数を指定して、[Save] をクリックします。
4. 静的デスクトップ（手作業でリフレッシュされたデスクトップ）を個別にアップデートします。
注意：パーソナルデスクトップでこれを行わないでください。これを行うと、Personal vDiskが破棄されることがあります。
 1. デスクトップを再起動します。
 2. ハイパーバイザーから静的デスクトップに管理者としてログオンします。ローカルの管理者アカウントを使用することをお勧めします。
 3. ハイパーバイザーをアップグレード済みである場合は、対応するバージョンのハイパーバイザーツールをインストールします。
 4. コントロールパネルから、インストール済みのDesktop Agentをアンインストールします。仮想マシンが再起動します。

5. ハイパーバイザーから同じデスクトップに管理者としてログオンします。
6. 仮想マシンのWebブラウザのURLボックスに、Desktop Agentのアドレス (<https://<IPaddress>/dt/dtagent/>) を入力します。
7. 画面に表示される指示に従います。
8. グリッド内の各静的デスクトップについて上記の手順を繰り返します。

ユーザーデバイスをアップグレードするには

VDI-in-a-Boxをアップグレードした後、最良のユーザーエクスペリエンスを確保するためにユーザーデバイス上でCitrix Receiverを更新する必要があります。最新のHDX機能の利点を享受するため、常に最新バージョンのReceiverを使用することをお勧めします。

また、シンクライアント上のファームウェアを最新のバージョンにアップグレードする必要があります。最新のファームウェアを入手するには、シンクライアントの製造元に問い合わせてください。

XenDesktopへの移行

Sep 17, 2015

VDI-in-a-Box展開環境をXenDesktopに移行する場合は、Citrix Studioへの移行ウィザードを使用して以下の作業を行います。

- イメージをすばやく簡単にXenDesktopにエクスポートします。イメージは実行中の仮想マシンとしてエクスポートされます。Desktop Agentを含むVDI-in-a-Box固有のすべてのソフトウェアが削除されます。
- PowerShellスクリプトを生成します。このスクリプトを実行すると、既存のVDI-in-a-Boxテンプレート設定とユーザー割り当てに基づいて、Studioにマシンカタログとデリバリーグループを作成できます。

前提条件

- VDI-in-a-Box 5.4以降。
- XenDesktop 7以降。インストールおよび構成済みのStudio、データベース、および使用可能なホストが必要です（XenDesktopでは、ホストとはマスターイメージと仮想マシンをホストするハイパーバイザーを指します）。

同じホストでVDI-in-a-BoxとXenDesktopを運用することをお勧めします。異なるホストにある場合、イメージをエクスポートした後でXenDesktopホストにイメージを移行する必要があります。

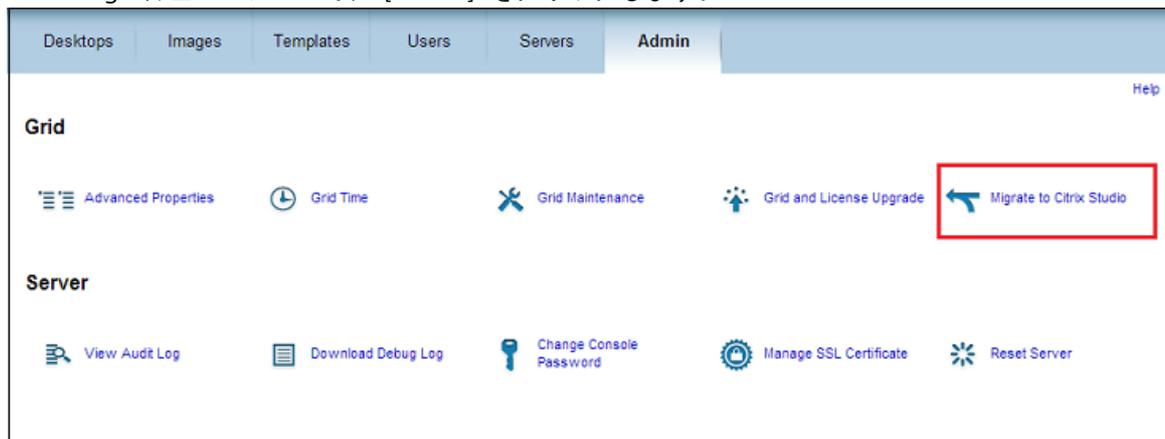
以前のバージョンのVDI-in-a-BoxをXenDesktopに移行する方法については、<http://support.citrix.com/article/CTX136081>を参照してください。

制限事項

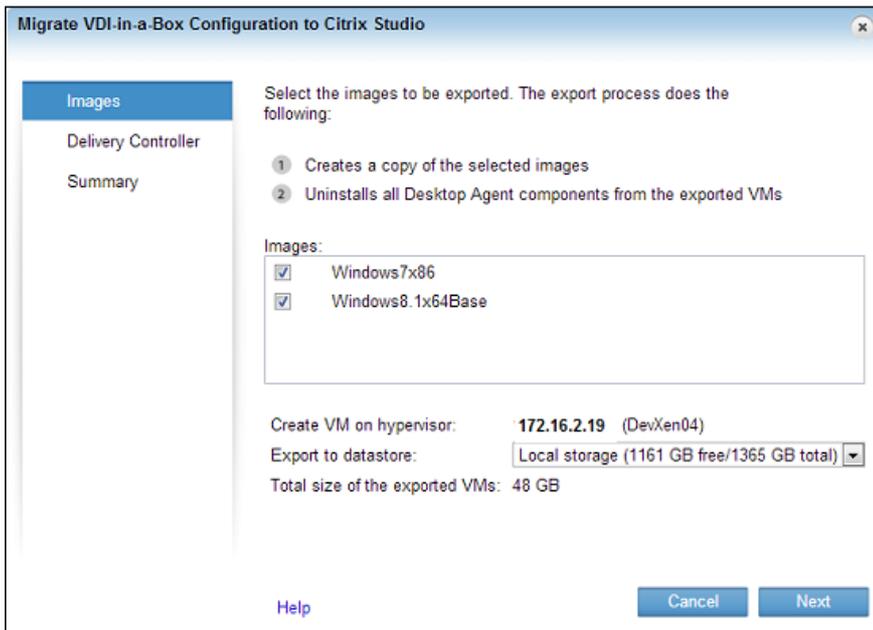
パーソナルデスクトップと静的デスクトップのテンプレートに対応するマシンカタログとデリバリーグループがXenDesktopに作成されますが、これらのテンプレートに基づく既存のデスクトップが転送されるわけではありません。これらのデスクトップのユーザーがXenDesktopにログオンするとVDI-in-a-Box設定に基づく新しいデスクトップが開きますが、ユーザーが以前にインストールしたアプリケーションは再インストールする必要があります。

展開環境を移行するには

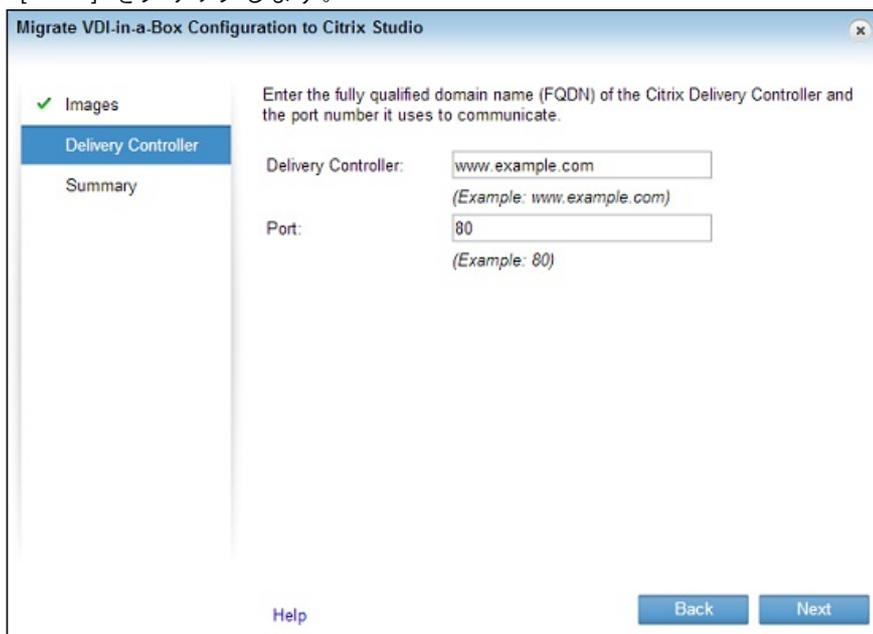
1. vdiManager管理コンソールで、[Admin] をクリックします。



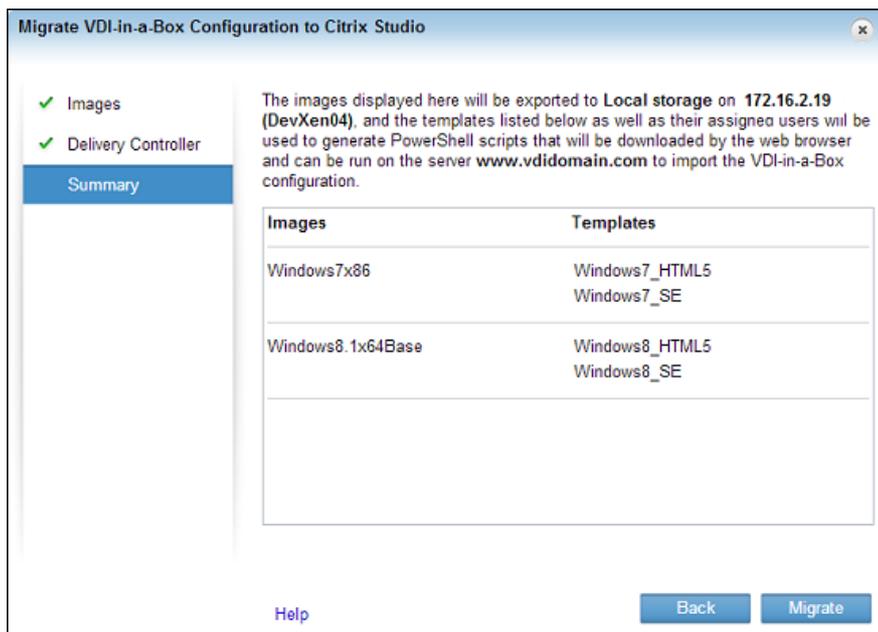
2. [Migrate to Citrix Studio] をクリックします。



3. エクスポートするイメージを選択します。これらのイメージは実行中の仮想マシンとして、ウィザードを実行しているホスト上にエクスポートされます。
4. 仮想マシンのデータストアを選択します。これはウィザードを実行しているホスト上のデータストアである必要があります。
5. [Next] をクリックします。



6. XenDesktop Delivery ControllerのFQDNを入力し、必要に応じてポート番号を変更します。
7. [Next] をクリックします。
エクスポートされるイメージが、イメージを使用するテンプレートと共に一覧表示されます。



プールデスクトップのテンプレートについては以下の点に注意してください。

- リフレッシュポリシー

[Manual] のリフレッシュポリシーはXenDesktopの静的に割り当てられるデスクトップに対応します。ユーザー専用のローカルマシンが作成され、変更はローカルディスクに保存されます。[On logout] および [Scheduled or on logout] のリフレッシュポリシーはランダムに割り当てられるデスクトップに対応します。

- Do Not Reassign Desktops 'On hold' to New Users

テンプレートでこの設定を選択する場合は、静的に割り当てられるデスクトップがXenDesktopに作成されます。この設定を選択しない場合は、ランダムに割り当てられるデスクトップが作成されます。

8. [Migrate] をクリックします。

イメージがエクスポートされ、Webブラウザのデフォルトのダウンロード先フォルダーにPowerShellスクリプトがダウンロードされます。

イメージエクスポートの状態はvdiManager管理コンソールの [Images] タブで監視できます。



9. お使いのバージョンのXenDesktopのドキュメントに従って、XenDesktop用にイメージを準備します。これには、関連するハイパーバイザーツールおよびVirtual Desktop Agentをイメージにインストールすることが含まれます。

10. イメージがXenDesktop環境のホスト上に存在することを確認します。

11. Delivery ControllerでPowerShellスクリプトを実行します。スクリプトにより、VDI-in-a-Box展開環境での設定に基づいてマシンカタログおよびデリバリーグループが作成されます。

```

Administrator: Windows PowerShell
Citrix VDI-in-a-Box migration to XenDesktop script

Create Provisioning Scheme
Percent Complete
[ooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooooo]

getHighLevelLoggingObject - Starting a High Level Logging Operation For: Create Catalog: Windows7-GZ-Test
getHostingUnitItem - Obtaining hosting unit item of name: XD_Windows7-GZ and type: Vm
getHostingUnitItem - Obtaining hosting unit item of name: Network 0 and type: Network
getHostingUnitName - Obtaining hosting unit name from VM path: XDHyp:\HostingUnits\Resources\XD_Windows7-GZ.vm
createVMSnapshot - Creating VM snapshot for image: XD_Windows7-GZ Path: XDHyp:\HostingUnits\Resources\XD_Windows7-GZ.vm
Snapshot name: Citrix_XD_XD_Windows7-GZ

createCatalog - Creating new catalog: Windows7-GZ-Test
createCatalog - Creating new broker catalog...
createCatalog - Creating new identity pool...
createCatalog - Assigning identity pool to catalog...
createCatalog - Creating new provisioning scheme. This may take several minutes...

```

Studioを開くと、移行された環境が表示され、管理可能な状態になります。

CITRIX			
Machine Catalog	Machine type	No. of machines	Allocated machines
catalogstatic Allocation Type: Static	Windows Desktop OS (Virtual) User data: On local disk	1 Provisioning method: Machine creation services	0
OchoCatalog Allocation Type: Random	Windows Desktop OS (Virtual) User data: Discard	3 Provisioning method: Machine creation services	3
Windows7BaseTest Allocation Type: Random	Windows Desktop OS (Virtual) User data: Discard	33 Provisioning method: Machine creation services	33
Windows7-GZ-Test Allocation Type: Static	Windows Desktop OS (Virtual) User data: On personal vDisk	1 Provisioning method: Machine creation services	1

VDI-in-a-Boxリファレンス情報

May 22, 2015

このトピックでは、VDI-in-a-Box環境の計画および実装時に参照すべきリファレンス情報について説明します。

通信ポートとプロトコル

各コンポーネントで使用される通信ポートおよびプロトコルについて詳しくは、<http://support.citrix.com/article/CTX135153>を参照してください。

サービス

次の表は、VDI-in-a-Boxでインストールされるサービスの一覧です。

デスクトップ仮想マシン

サービス名	短い名前	アカウント	説明
Citrix VDI Agent Service	vdiAgent	.\vdiAgentUser (ネットワーク)	仮想マシンのすべてのライフサイクル操作を実行し、各種属性の状態を定期的にVDI Controllerに通知します。ログオン、ログオフ、接続、および切断イベントを監視します。
Citrix VDI Agent Monitor Service	vdiAgentMonitor	.\vdiAgentMonitorUser (ネットワーク)	vdiAgentの実行状態を監視します。すべてのインストール、アンインストール、または更新に関係します。
Citrix HDX Connector Service	VdiHdxConnectorSvc	Network Service	Citrix Virtual Delivery Agentサービスを制御してデスクトップへのHDX接続を仲介します。

Hyper-V

サービス名	短い名前	アカウント	説明
Citrix VDI-in-a-Box Hyper-V Connector	vdiHVConnector	.\kaviza (ネットワーク)	Windows Hyper-V WMIインターフェイスを安全に提供し、VDI Controllerがハイパーバイザーと通信できるようにします。